

年 報

—昭和 59 年 度—

VOL. 3

昭和 60 年 10 月

長 野 市 立 博 物 館



序

当長野市立博物館の昭和59年4月
から昭和60年3月までの活動と、御
利用の状況をまとめ、ここに年報第
3号を発行します。

昭和60年10月
長野市立博物館



目 次

I	博物館日誌	1
	1年の歩み（昭和59年4月～昭和60年3月）	〈山口（純）〉 1
II	事業報告	4
	1 展示活動	〈矢口・山口〉 4
	2 天体学習室	〈大藏・西川〉 20
	3 調査研究収集活動	〈青木・山口・西川〉 24
	4 教育普及活動	〈矢口〉 30
III	資料の受入・収蔵・保存	〈山口〉 35
	1 資料の収蔵システム	35
	2 資料の分類	38
IV	博物館収蔵資料	42
	1 購入資料	〈大藏・西川〉 42
	2 寄贈資料	〈和田・山口・大藏〉 45
	2 寄託・借用資料	〈矢口〉 65
V	博物館管理・運営	〈佐野・河口〉 67
	1 建物概要	67
	2 昭和59年度歳出予算概要	69
	3 管理委託業務	69
	4 入館者状況	70
	5 利用状況	76
VI	彙 報	〈佐野・河口〉 77
	1 長野市立博物館条例改正	77
	2 長野市立博物館協議会	77
	3 組織	78
VII	講演会収録	〈藤森〉 79
	1 仕事着と現代性（関川信子）	79
	2 縄文人のなぞ（芹沢長介）	86

I 博物館日誌

1年の歩み（昭和59年4月～昭和60年3月）

- 4月1日 人事移動により、庶務係長小島忠男・庶務係技師松沢忠幸・説明員樋口良江が転出、後任に佐野孝康・河口英明が着任、尚3月31日付で専門主事中西袈裟延が退職
- 4月8日 昭和58年度新収蔵資料展を開催（5月20日まで）
- 4月10日 長野市新規採用職員の施設見学
- 4月12日 松崎憲三氏（国立歴史民俗博物館助手）来館、依頼により山口学芸員が民俗調査に同行
- 4月14日 宇田川武久氏（国立歴史民俗博物館助教授）が来館
- 4月15日 旭町遺跡の発掘調査開始
- 4月21日 姉妹都市クリアウォーター市より婦人2名来館
- 4月24日 全国市長会事務総長来館、西山にて岩石採集（和田・矢口・大蔵）
- 4月28日 公園内の桜がようやく開花
- 5月3日 姉妹都市中国石家庄市副市长一行13名が来館
- 5月9日 西山地域の岩石標本を採集（矢口・大蔵）
- 5月11日 市監査委員会が自然史館設立現地監査
- 5月17日 6月定例議会にて自然史館建設の設計委託・調査費の予算計上・可決
- 5月20日 春の天体教室開講
- 5月22日 館長が北信越博物館協会総会のため新潟県へ出張
- 6月2日 春のプラネタリウム「第三惑星—地球—」投影開始
- 6月6日 高崎市教育委員会教育長ほか6名、函館市議会文教委員長ほか5名視察 みどりの見学45名来館
- 6月9日 埼玉県埋蔵文化財センター研究員4名来館
- 6月10日 埼玉県喜多院へ企画展「仕事着」展示資料借用のため出張（館長・矢口）
- 6月12日 岡本東三調査官（文化庁記念物課）来館
- 6月13～15日 企画展「仕事着」の展示資料調査収集のため、中南信地方へ出張（副館長・矢口）
- 6月16日 中国石家庄市6名来館、大室古墳群調査に関し、明治大学大塚・小林両教授来館
- 6月17日 地質教室を開講（講師 齊藤豊信州大学助教授）
- 6月19日 上田市企画課職員がプラネタリウム視察
- 6月21日 新潟県文化財保護係長視察、みどりの見学50人が来館
- 6月22・23日 企画展資料借用のため秋山郷・北安曇方面へ出張（副館長・矢口）
- 6月28日 日本博物館協会館長会議に館長出席、飯山へ企画展資料収集（副館長・大蔵）
- 6月30日 片岡肇氏（平安博物館助教授）来館、本日付で説明員大林育葉退職
- 7月1日 説明員として中殿章子を採用
- 7月3日～5日 佐野庶務係長が日本博物館協会事務担当者研修会（北海道）に出席
- 7月5日 熊本市会議員一行視察
- 7月9日～15日 矢口学芸員が文化庁主催の第5回指定文化財展示取扱講習会に出席
- 7月11日 鹿児島市会議員一行視察
- 7月13日 企画展展示資料「職人墨絵屏風」(重要文化財)を搬入
- 7月14日 中国石家庄市技術研修生一行来館
- 7月15日 第8回企画展「仕事着」開催（8月19日まで）
- 7月26日 自然史館建設地を関係部署と協議を重ね、茶臼山動物園下の駐車場に決定
- 7月28・29日 夏の天体教室開講
- 7月29日 企画展特別講演会「仕事着と現代性について」（講師 関川信子信州大学教授）

- 7月31日 みどりの見学(親子)40名来館
- 8月2日 昭和58年度会計監査、明治大学の
大室古墳群学術調査開始(8月31日まで)
- 8月5日 帝塚山大学考古学研究室が鉄製遺物
X線撮影のため来館
- 8月6・7日 館長が自然史館展示について亀
井節夫京都大学教授を訪問
- 8月10日 天体教室特別講演会「いん石と宇宙」
(講師村山定男国立科学博物館理化学研究部長)
- 8月11日 プラネタリウムコンサート開催
- 8月16日 本日付で説明員横山かよ子採用
- 8月21~25日 企画展借用資料返還
- 8月26日 史跡公園内にて合戦場まつり開催
- 8月28日 桜井清彦氏(早稲田大学教授)来館
- 8月28~30日 特別企画展「縄文人のくらし」
展示資料調査のため東北出張(山口)(以下
の出張はことわりのない限り本件による)
- 8月30日 千葉県埋蔵文化財センター職員一行
が視察
- 9月2日 秋のプラネタリウム「合戦場の星」
投影開始
- 9月4日 福島県町村会議員一行視察
- 9月5・7日 茅野市・信濃町・福井県小浜市
に出張(副館長・矢口・山口)
- 9月14日 博物館実習生1名受入れ(9月20日
まで)
- 9月18日・19日 資料借用のため諏訪市考古資
料館(矢口)・名古屋大学(山口)・中条村教育委
員会(山口)へ出張、徳島市営繕課職員3名視察
- 9月21・22日 資料借用のため福井県若狭歴史
民俗資料館(副館長)・伊那・松本(矢口・大蔵)
へ出張
- 9月23日 開館記念日のため無料入館
- 9月25~27日 資料借用のため関東地方に出張
(副館長)
- 9月27~29日 資料借用のため東北地方に出張
(矢口)
- 10月1日 資料借用のため飯山市教育委員会へ
出張(副館長)
- 10月2・3日 資料借用のため千葉縣市原市教
育委員会へ出張(山口)
- 10月7日 特別企画展「縄文人のくらし」開催
(11月25日まで)
- 10月10日 中国石家庄市経済代表团一行来館
- 10月21日 秋の天体教室開講
- 10月23日 奈良国立文化財研究所主催専門研修
「保存科学課程」に山口学芸員が参加(11月8
日まで)
- 10月25日 豊橋市・大宮市・釧路市の議員等が
視察、明治大学大室古墳群学術調査(11月8
日まで)
- 10月26日 日本地質学会員類化石研究グループ
20余名が来館
- 10月27日 静岡市長一行視察、秋の天体教室開
講
- 10月31日 千葉県博物館協議会16名視察
- 11月3日 特別企画展記念講演会「縄文人のな
ぞ」(講師 芹沢長介東北福祉大学教授)
- 11月9日 大室古墳群保存会古墳めぐりに矢口
学芸員が講師として同行
- 11月10日 七二会坪根地区の温泉調査(館長)
- 11月14日 諏訪市教育委員会一行視察
- 11月15日 久永春男先生来館
- 11月18日 長野県考古学会秋期大会を会議室で
開催
- 11月22日 真田町教育委員会一行視察
- 11月23日 市原市教育長一行視察
- 11月26日~12月5日 特別企画展借用資料返還
- 12月1日 冬のプラネタリウム「アインシュタ
イン博士のふしぎな世界」投影開始
- 12月9・16日 しめ縄教室開講
- 12月16日 山口学芸員が保科の鍛冶屋調査(若
月正雄氏宅)
- 12月18日 昭和60年度事業費予算提出
- 12月23日 常設展2階民家内で餅つき
- 12月25日 自然史館の基本設計を提示
- 12月28日 仕事納め
- 12月29日~1月3日 年末・年始休館
- 1月4日 仕事始め
- 1月12日 亀井節夫京都大学教授来館し、自然
史館建設予定地等を視察及び打合せ
- 1月13日 常設展示室2階民家のチャノマに物
づくり
- 1月14日 市長記者会見で自然史館について発

表

- 1月20～26日 館内くん蒸のため休館
- 1月22日～2月9日 特別企画展「善光寺信仰」
資料調査及び借用依頼のため上田市・佐久市・
神奈川県・文化庁・山梨県ほかに出張（副館
長・矢口・藤森）
- 2月15日 秋田県営繕関係技師2名視察
- 2月16・17日 冬の天体教室開講
- 2月18日 常設展示室の電気・機械関係の保守
点検
- 2月19～21日 全国プラネタリウム研究会（厚
木市）に大蔵学芸員が参加
- 2月21～23日 特別企画展資料借用依頼のため
群馬県・埼玉県・山形県に出張（副館長・矢口）

- 2月27日 伝川柳將軍塚古墳出土品を一時返還
- 3月2日 春のプラネタリウム「銀河団を訪ね
て」投影開始
- 3月11日 国立歴史民俗博物館民俗展示オー
プン祝賀会に館長出席
- 3月12日 群馬県埋蔵文化財センター職員4名
視察
- 3月14日 博物館協議会開催
- 3月23日～4月5日 特別企画展展示資料借用
のため県内・関東・東北地方に出張（副館長・
矢口・藤森・大蔵）
- 3月24日 プラネタリウムコンサート開催
- 4月7日 特別企画展「善光寺信仰」開催



石冢庄市副市長一行来館（5月3日）



年末恒例の餅つき（12月23日）民家のチャノマを開放

II 事業報告

1 展示活動

1) 常設展示

常設展示室における展示の構想・構成及び展示案内導線は、開館当時（昭和56年9月）と基本的に変わっていない。しかし開館以来の収蔵資料のうち寄託展示資料に代るものがある場合は展示替えを、また主題にからむ重要な資料と考えられるものについては、随時追加展示を行っている。昨年度は20件にのぼった。

本年度は、寄託借用資料の契約改定の年にあたったため、民俗部門の展示に一部変更があったものの、他は一時的な変動にすぎない。以下本年度実施した展示替え等は下記のとおりである。

- ・「長野盆地」のコーナー

立体地形模型への情報の増補（観覧者の要望による）

- ・「シナノ（科野）の誕生」コーナー

伝川柳將軍塚古墳出土品一時返還のため、獸形鏡（市指定文化財・長野市平柴出土）・内行花文鏡（推定越將軍塚古墳出土）・珠文鏡（出土地不明）を代りに展示した。

- ・「善光寺とその信仰」コーナー

善光寺境内出土古瓦を上田市立信濃国分寺資料館の「信濃の古代寺院」展貸出及び善光寺御開帳展展示に伴ない一時返還、代りに平瓦・丸瓦（長野市若槻東の沢窯址出土）を展示した。

- ・「慈悲のまなざし」コーナー

重要文化財銅造観音菩薩立像を開館3周年記念として9月23日～11月3日まで展示した。

- ・「米づくりの一年」コーナー

みごかます（堀込富治氏製作・購入・山ノ内町）、背負袋（小林宗太郎氏製作・寄贈・長野市芋井）、みの（渡辺けさの・深石よね両氏製作・飯山市）、馬わらじ（購入・小川村）、がに（牛ぐつ）（飯島角松氏製作・購入・大町市）、みごはばき（堀込富治氏製作・購入・山ノ内町）、せなち（背中あて）（渡辺金松氏寄贈・飯山市）、つまがけ（大日方英雄氏製作・寄贈・長野市安茂里）、つぐら（大日方



展示替えをしたワラ製品のコーナー



大岡村芦ノ尻の道祖神

英雄氏製作・寄贈)、ふんごみ(和田与作氏製作・購入・戸隠村)、ごんぞ(小田切蓮氏製作・購入・飯山市)、かんじき(原山繁穂氏製作・寄贈・戸隠村)

これらのワラ製品は「ワラと生活」の企画展の折に収集したものである。

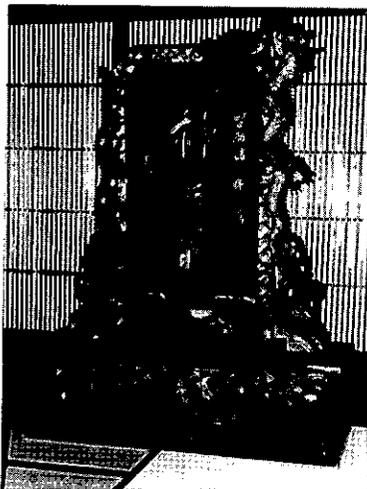
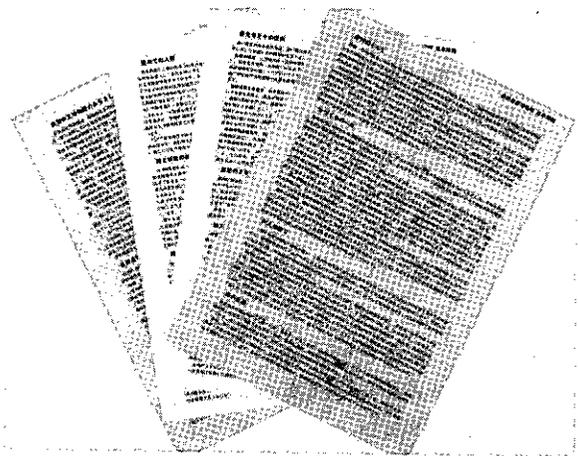
- ・「村人の祈り」コーナー
道祖神碑(大岡村芦ノ尻区製作)
- ・「子供たちの遊び」コーナー
凧5種(小池万吉氏製作・寄贈・長野市中村)
- ・「町のくらし」コーナー
神霊散の看板(碓井忠氏寄贈・長野市西長野)

尚、常設展示室の2階民家では、歳時に応じて民俗行事的な展示を行っている。実演を伴うものに、年末の最終日曜日に「もちつき」を、1月14日には、農産物・蘭玉などを柳の枝にとりつける小正月の「ものづくり」を再現している。

また展示室2階の「善光寺とその信仰」と「地方武士の争い」コーナーの境のところに、山車を覆う格子パネル工作物を設置して、明確にコーナーを区分けした。

そのほか、以前より来館者の方々より「展示解説用のパンフレットはないのか」と言う要望が度々あったため、B6版両面刷(約5000字前後)の展示解説パンフレットを4種類作成した。そして、「長野盆地」・「はじめての人影」・「善光寺とその信仰」・「農村のくらし」の各コーナーに配布台と共に設置した。

展示解説パンフレット



帳場に展示した薬屋の看板

2) 特別企画展示・企画展示

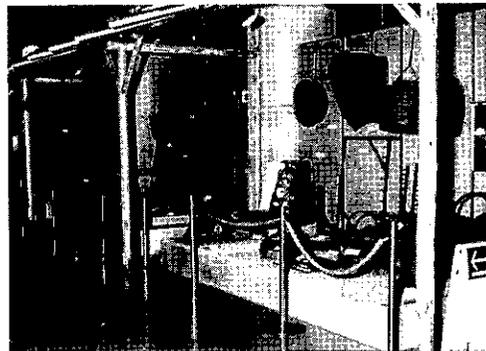
年度初めに「新収蔵資料展」、夏に「仕事着」、秋の3周年記念に「縄文人の暮らし」と3回実施した。これまで年間4企画を実施してきたが、今年度は昭和60年度冒頭に特別企画展を予定したため、冬は準備期間にあて、企画展を設けなかった。

年間4企画をこれまでなんとか行ってきたが、スタッフの少なさ、準備期間の不充分さなどがあいまって、開催まで甚だあわただしい状況となる。日常の調査研究の蓄積を基礎にして、企画展は立案されなければならないが、なかなかそううまく回転していないのが現状である。長期的展望のもとに、調査研究の計画を立て、その成果を還元する場として、企画展を位置づけていかなければならない。

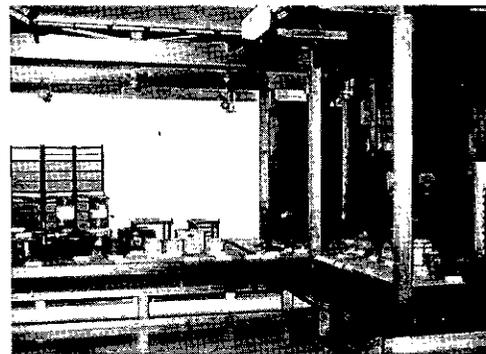
従って、充実した企画展を実施するには、これまでのあり方そのものを再検討し、質的向上を計る段階にきていると思われる。

(A) 昭和58年度新収蔵資料展

- (1) 期間 昭和59年4月8日～5月20日
(実質開館日数38日)
- (2) 入館者 12399人 1日平均326人
- (3) 趣旨 昭和58年度に寄贈・寄託・購入された資料を一般に展示公開するために企画した。
- (4) 展示構成と内容
 - ①考古 石川条里的遺跡出土品・小島境遺跡出土品・塩崎小学校遺跡出土品。内容については年報Vol.2の第II章を参照願いたい。
 - ②民俗 衣・食・住・生産・生業・交通・運輸・通信・交易・社会生活・信仰・娯楽のコーナーに分けて、民俗資料を展示した。詳細な内容は年報Vol.2の第III章を参照願いたい。
 - ③自然 太田繁則氏コレクション寄託資料の茶臼山採集の植物化石。内容は本年報の第IV章第3節を参照願いたい。
 - ④美術 油彩画・日本画・墨蹟。内容は年報Vol.2の第III章を参照願いたい。



「養蚕」「農耕」コーナー



「住生活」コーナー



「考古」「美術」「歴史」コーナー

(B) 第8回企画展「仕事着—変遷と地域性—」

- (1) 期間 昭和59年7月15日～8月19日
(実質開館日数31日)
- (2) 出版物 A 2版多色刷ポスター
A 4版両面刷二ツ折パンフレット
B 5版展示図録45頁 頒価500円
- (3) 入館者 3904人 1日平均126人
- (4) 趣旨 当初この企画展を「衣装の変遷」とし、展示資料の調査に入ったが、その過程で小袖・振袖などのきらびやかな着物やハレの衣装は現在まで比較的良く残っており、それに対し、私たち庶民の生産にかかわる衣類(仕事着)はほとんど保存されず、早晚消え去る運命にあることが認識された。

信州は急峻な山々と河川によって多様で独特な風土を生みだしている。従って、現時点ででき得る限りの資料収集を行ない、そうした風土の中で生みだされ、工夫されてきた仕事着を体系づける第一歩としてこの展示を企画した。

信州は急峻な山々と河川によって多様で独特な風土を生みだして

いる。従って、現時点ででき得る限りの資料収集を行ない、そうした風土の中で生みだされ、工夫されてきた仕事着を体系づける第一歩としてこの展示を企画した。

(5) 展示構成

下伊那・上伊那・木曾・安曇・西山・長野盆地・北信濃の各地域より特徴的な仕事着を比較展示し、人形を用いた立体的展示と壁面展示の組合せによってより効果的に形態や機能性をみていただいた。また仕事着の歴史とその利便性を探るため、「職人盡絵屏風」(重要文化財)や「木曾式伐木運材図会」なども合せて展示した。

- ① 下伊那地方の仕事着
- ② 諏訪・上伊那地方の仕事着
- ③ 安曇・木曾地方の仕事着
- ④ 北信濃の仕事着
- ⑤ 西山部・小谷地方の仕事着
- ⑥ 長野盆地の仕事着
- ⑦ ワラ製の仕事着
- ⑧ マチの話
- ⑨ 霜月祭衣装
- ⑩ 熊狩り衣装
- ⑪ 仕事着の歴史

(6) 資料点数 169件203点

(7) 催物

講演 「仕事着と現代性」
関川信子氏(信州大学教授)
7月29日
映画 「木曾山今昔一檜と暮らしの記録」 カラー30分
企画・制作 長野営林局

第8回 企画展
仕事着
～変遷と地域性～
■会期 7/15～8/19
■開演会 7月29日午後2時
●講師 信州大学教授 関川信子
●会場 博物館会議室(常設展内)
長野市小田田町八幡原史跡公園内
長野市立博物館
TEL 0262-94-9011



ポスター・パンフレット・図録



イロリでの生活

(8) パネル

No.	題名	種別	大きさcm	No.	題名	種別	大きさcm
1	「仕事着一変遷と地域性一」開催にあたって	文字	全倍	35	ユキバカマ(穂高町)	写真 文字	全紙
2	下伊那地方の仕事着	"	"	36	モンペ(八坂村)	"	"
3	下伊那・上村の農家	写真	"	37	ヨッコギ(小谷村)	"	"
4	火消し装束	文字	21×30	38	イッコギ(鬼無里村)	"	"
5	コイノ衣装	"	"	39	サルモモヒキ(戸隠村)	"	"
6	諏訪・上伊那地方の仕事着	"	全倍	40	モンペ(長野市七二会)	"	"
7	男の仕事着	"	21×30	41	オマチャレ(長野市綿内)	"	"
8	安曇・木曾地方の仕事着	"	全倍	42	フッコミ(栄村)	"	"
9	木曾開田村農家	写真	"	43	霜月祭衣装	文字	全倍
10	山衣装	文字	21×30	44	熊狩り衣装	"	21×30
11	北信濃の仕事着	"	全倍	45	棉花図冊	"	全倍
12	秋山郷の山里(津南町)	写真	"	46	木綿	"	21×30
13	"(屋敷)	"	"	47	機を織る	写真	全倍
14	"(切明)	"	"	48	職人盡絵屏風	文字	"
15	秋山郷の山衣装	文字	21×30	49	仏師・傘師	"	21×30
16	西山部・小谷地方の仕事着	"	全倍	50	矢師・鎧師	"	"
17	八坂の村々	写真	"	51	筆師・経師	"	"
18	西山部女性の仕事着	文字	21×30	52	糸師・革師	"	"
19	小谷の集落	写真	全倍	53	扇師・檜物師	"	"
20	長野盆地の仕事着	文字	"	54	研師・畳師・桶師	"	"
21	長野盆地女性の仕事着	"	"	55	弓師・刀師	"	"
22	蓮田の仕事着	"	21×30	56	数珠師・番匠師	"	"
23	蓮田風景	写真	全倍	57	行騰師・蒔絵師	"	"
24	ワラ製の仕事着	文字	21×30	58	縫取師・額額師	"	"
25	古い写真(仕事姿)	写真	全倍	59	型置師・鍛冶師	"	"
26	"(御開帳)	"	"	60	機織師・藁細工師	"	"
27	"(少年達)	"	"	61	木曾式伐木運材図会	"	全倍
28	"(花見)	"	"	62	株祭之図	"	21×30
29	"(子供達)	"	"	63	"	写真	全倍
30	マチの話	文字	全紙	64	渡入之図	文字	21×30
31	モックラ(清内路村)	写真 文字	"	65	"	写真	90×180
32	モンペ(喬木村)	"	"	66	角乗之図	文字	21×30
33	モンペ(中川村)	"	"	67	"	写真	全倍
34	カルサン(松本市)	"	"	68	女の仕事着(上衣)	図	"
				69	"(下衣)	"	"
				70	男の仕事着(上衣)	"	"
				71	"(下衣)	"	"

(9) 展示資料目録

No.	資料名	布・織・染	法量cm	その他	所 蔵 者
1	股引	木綿紺	丈89		下伊、喬木村歴史民俗資料館
2	ジュバン	木綿絞紺染	丈70		下伊、清内路村、桜井伴
3	デンチョ	木綿紺・さしこ	丈72		"
4	雪袴(モックラ)	木綿紺	丈90		"
5	メンパ袋				"
6	キゾウリ				"
7	竜吐水				下伊、清内路村教育委員会
8	コイノジュバン	木綿・裏紺	丈79	筒袖	下伊、喬木村歴史民俗資料館
9	デンチョ	木綿さしこ	丈67		下伊、清内路村、桜井伴
	■火消し装束				
10	モウソウ				"
11	チョクチョク	麻、平織、紺	丈89	鉄砲袖	"
12	股引				"
13	ハバキ				"
14	カゴザヤ			鉋付	"
15	水籠				"
16	甲掛				"
17	ゾウリ				"
	■コイノ衣装				
18	コイノハンテン	木綿縞、裏紺地	丈86	綿入れ・鉄砲袖	下伊、喬木村歴史民俗資料館
19	モンペ	木綿、かすり	丈80		"
20	キャハン				下伊、清内路村、桜井伴
21	甲掛				"
22	ゴンゾ				"
23	フジ布				"
24	手ぬぐい				"
25	股引	木綿	丈86		下伊、喬木村歴史民俗資料館
26	綿入バンテン	絹細縞	丈100		上伊、中川村歴史民俗資料館
29	袖ナシバンテン	絹細縞	丈80	裏表共布	"
28	股引	木綿紺	丈77		"
29	ハンテン	木綿縞	丈66	裏紺・筒袖	"
30	モンペ	木綿縞	丈90		"
	■男の仕事着				
31	腹掛				市立岡谷蚕糸博物館
32	手甲				"
33	股引	木綿紺	丈94		"
34	ハバキ				"
35	ワラジ				館蔵 (長野、川中島、吉沢梅吉製)
36	ハバキ				上伊、中川村歴史民俗資料館
37	巻キャハン				市立岡谷蚕糸博物館
38	雪袴	木綿縞	丈84		南安、穂高町郷土資料館
39	ハンテン	木綿、格子縞	丈74	筒袖	木曾、木曾福島町郷土館
40	腹掛				南安、穂高町郷土資料館
41	カルサン	木綿縞	丈80		松本市立博物館
42	ハバキ				木曾、木曾福島町郷土館
43	"				"
44	甲掛				"
45	フンゴミ				"
46	板笠				"
47	ニズリ				"
	(参考出品)	村上市、さしこ	丈72		松本民芸館
48	ニズリ				"
	(参考出品)	さしこ	丈63		"

No.	資料名	布・織・染	法量cm	その他	所蔵者
49	袖ナシ	毛織・綿入れ	丈88		南安、穂高町郷土資料館
50	股引	木綿・紺地	丈66		木曾、木曾福島町郷土館
■山衣装					
51	山仕事着 (上 衣)	木綿、縞	丈94	ビロード 共衿付・ 鉄砲袖	松本市立博物館
52	山仕事着 (下 衣)	木綿、紺地、さしこ	丈70		"
53	ワラジ				館蔵 (長野、川中島、吉沢梅吉製)
54	キビスアテ	さしこ			松本市立博物館
55	ブドウハバキ				"
56	手甲				"
57	ヒイリゲ				"
58	股引(ヒナ形)				南安、穂高町郷土資料館
59	猿股(ヒナ形)				"
60	股引	木綿紺地	丈64		"
■秋山郷の山衣装					
61	山 衣 装	木綿、縞	丈86	筒袖	下水、栄村、秋山郷民俗資料館
62	フ ッ コ ミ	木綿紺地	丈82		"
63	ゾ ウ リ				館蔵 (長野、川中島、吉沢梅吉製)
64	雪袴	木綿紺	丈68		下水、栄村、秋山郷民俗資料館
65	フッコミ(男)	木綿紺	丈90		"
66	山着物(男)	木綿、紺、裏縞	丈85	筒袖	"
67	山衣装(男)	木綿、紺、単衣	丈89	筒袖	飯山市照岡、深石よね
■西山部女性の仕事着					
68	ミ ジ カ	木綿、かすり	丈58	舟底袖	上水、鬼無里村、松本静雄
69	帯	ボロ織り			館蔵
70	猿 股 引	木綿、縞	丈90		上水、戸隠村、新井八重子
71	ゾ ウ リ				館蔵 (長野、川中島、吉沢梅吉製)
72	袖ナシ	木綿、紺、さしこ	丈78		松本民芸館
73	猿股引	木綿、縞	丈82		上水、戸隠村、新井八重子
74	戸隠股引	木綿、縞	丈96		長野、芋井、大日方喜一郎
75	標準服上衣	木綿、紺	丈68	舟底袖	上水、鬼無里村、横谷しず代
76	標準服下衣	絹、縞	丈87		" 和田よし江
77	モンペ	絹、縞	丈91		長野、七二会、小池例
78	ミジカ	木綿、縞	丈64	筒袖、振付	北安、小谷村郷土資料館
79	ヨッコギ	麻(前マチ、絹)	丈62		"
80	イッコギ	木綿、縞	丈82		上水、鬼無里村、松本静雄
81	鬼無里モンペ	木綿、縞	丈90		長野、芋井、大日方喜一郎
82	モンペ	木綿、縞	丈88		上水、鬼無里村、松本静雄
83	ハンテン(半袖)	木綿、縞	丈75	半幅・平袖	北安、八坂村、矢口ふじ子
■長野盆地女性の仕事着					
84	長 着	木綿格子縞		平袖	館蔵
85	タ ス キ				"
86	帯	ボロ織り			"
87	前 掛	毛織物	丈56		"
88	腰 巻	毛織物、型染		裏木綿	"
89	ゾ ウ リ				館蔵 (長野、川中島、吉沢梅吉製)
90	手 甲				"
91	オマチャレ	木綿、縞	丈79		長野、県町、小林勇
92	モンペ	絹、縞	丈87		長野、川合新田、坂口か津美
93	オマチャレ	木綿、縞	丈84		長野、若穂綿内、中村忠義
■蓮田の仕事着					
94	蓮 掘 上 衣	木綿、小倉紺	丈73	鉄砲袖	長野、若穂綿内、安藤光行

No.	資料名	布・織・染	法量cm	その他	所 蔵 者
95	蓮掘股引	木綿、紺	丈96		長野、若穂綿内、安藤光行
96	胴着(綿入)	毛織物、綿入れ	丈64		"
■ワラ製仕事着					
97	セナカチ				館蔵 (長野、小市、大日方英雄製)
98	ネコゼ				(大町、飯島角松製)
99	カブト				(飯山、照岡、深石よね製)
100	カタミノ				(長野、中越、大川成司製)
101	ミノ				(北安、美麻村、松倉旧義製)
102	ヤマガサ				(下水、柴村、中沢栄司製)
103	ヒロロミノ				(下水、柴村、中沢栄司製)
104	フンゴミ				(長野、芋井、小林宗太郎製)
105	ゴンゾウ				(飯山、照岡、渡辺金松製)
106	フンゴミ				(上水、戸隠村、原山繁穂製)
107	ワラグツ				(飯山、照岡、小田切運製)
108	コンゴウ				(上水、中条村、西山定則製)
109	スンベ				(飯山、照岡、深石よね製)
110	コンゴウ				(長野、芋井、小林宗太郎製)
111	ゾウリ				(長野、芋井、小林宗太郎製)
112	ゴザハバキ				(長野、小田切、原山賢一製)
113	ワラジ				(長野、小市、大日方英雄製)
114	"				(上水、中条村、西山定則製)
115	スッペソ				(上水、戸隠村、原山繁穂製)
116	ツグラ				(長野、信更、大矢好武寄贈)
117	人形				(長野、若穂綿内、山口円)
118	釜・釜ヒキ				"
119	ハウロク				(長野、小田切、酒井英知寄贈)
120	ゴトク				(長野、小田切、酒井英知寄贈)
121	自在カギ				(長野、小田切、酒井英知寄贈)
122	爐ブチ				(長野、鶴賀、米沢進寄贈)
123	ワタシ				(上水、戸隠、和田秀次寄贈)
124	火バシ				(長野、篠ノ井、酒井佑治寄贈)
125	ナベ				(長野、篠ノ井、酒井佑治寄贈)
126	戸棚				(長野、梶町、小林勇寄贈)
127	神殿一式				(長野、若穂川田、畑岡房子寄贈)
128	神殿			鍛冶屋仕 事場神棚 祭具	"
129	主婦	ミジカ 木綿、かすり	丈66	舟底袖	(長野、若穂川田、畑岡房子寄贈)
130		モンベ 木綿、かすり	丈84		(長野、若穂川田、畑岡房子寄贈)
131		帯 ポロ織			(長野、川合新田、坂口か津美寄贈)
132		前掛 木綿、紺、さしこ			(長野、川合新田、坂口か津美寄贈)
133	主人	山衣装 木綿、紺	丈98	筒袖	(北安、八坂村、矢口ふじ子寄贈)
134		股引 木綿、紺	丈83		飯山、照岡、深石よね
135		キセル			"
136		タバコ入れ			館蔵 (長野、小田切、酒井英知寄贈)
137	火鉢				(長野、塩崎、鎌田むつ寄贈)
138	ゴトク				(長野、若穂川田、依田寿朗寄贈)
139	鉄ビン				(埴科、坂城町、塩野入希幸寄贈)
140	煙草盆				(埴科、坂城町、塩野入希幸寄贈)
					(長野、塩崎、小島忠男寄贈)
■霜月祭衣装					
141	袴 3点	木綿、型染			下伊、上村、下栗保存会
142	着物	木綿、黒		身ハツロ 付、平袖	"
143	雪袴	毛織物			"
144	チンチャコ衣装3点				"
145	股引(天保12年銘)				"

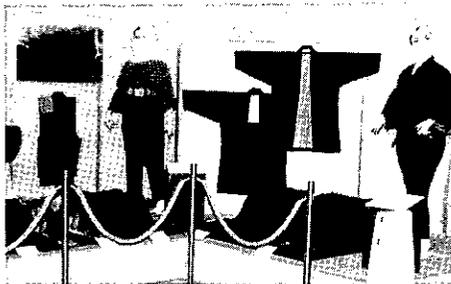
No 資料名 布・織・染 法量cm その他 所 蔵 者

146	着物、帯	絹		女物、平袖	下伊、上村、中郷正八幡社
147	上衣	木綿		"	"
148	補(上・下)	絹		"	"
149	水干・袴	水干…木綿型染 袴…麻		"	"
150	冠物 2点			"	"
151	手甲 2点	木綿、型染		"	"

■熊狩り衣装

152	帽子	子 ラシャ			下水、柴村、山田長治
153	着皮				"
154	タス		イラ草製		"
155	上着				"
156	ズボン				"
157	手皮		カモシカ 毛皮		"
158	ハバキ		毛糸編み		"
159	甲掛				"
160	タビシキ		ワラ製		"
161	皮グツ		カモシカ 毛皮		"
162	ハンコウスキ				"
163	ワカンジキ				"
164	御題棉花図冊拓本				長野、三輪、島田耕一
165	木綿反物一卷				館蔵
166	綿繰機				館蔵 (長野、稻葉、西沢良一寄贈)
167	糸車				(長野、安茂里、美谷島今朝雄寄贈)
168	職人盡絵屏風		六曲一双		埼玉県川越市、喜多院
169	木曾式伐木運材図会		上・下二巻		長野営林局

(敬称略)



北信濃・小谷地方の仕事着



下伊那地方の仕事着

(C) 第9回特別企画展「縄文人の暮らし」

- (1) 期間 昭和59年10月7日～11月25日
(実質開催日数42日)
- (2) 出版物 B2版多色刷ポスター
B3版2色刷ポスター
A4版両面刷二ツ折パンフレット
B5版展示図録61頁
頒価500円
- (3) 入館者 4801人 一日平均114人
- (4) 趣旨 これまで、古墳時代・弥生時代の各時代の主要なテーマを取り上げてきたが、今回は更にさかのぼり、我々日本人の原型とも言える縄文人の暮らしぶりに焦点をあてて、探ってみることとした。考古部門の展示は現在の生活とあまりにかけはなれ、なじみにくいためか、来館者にはほとんど関心が持たれないのが現状となっている。



縄文3周年記念
特別企画展



長野市立博物館 10月7日～11月25日
（月曜と11月14日は休館）
長野市小島田町八幡歴史館公園内 0262-8411
交通：川中島バス東線（長瀬）徒歩10分



ポスター・パンフレット・図録

従って、現在の私たちのさまざまな生活の基盤になったのが縄文時代であるという観点より、「縄文時代の民俗」を示し、縄文人の暮らしぶりを身近に感じていただくという意図のもとにこの展示を企画した。そして来館者が自然と縄文の世界にひたり、驚きと感動をもって、現代の生活との接点を探っていただくことを目的とした。

(5) 展示構成

縄文時代像をわかりやすく展示するため、個々の資料の時期区分にはふれず、また難解な専門用語ではなく、わかりやすいものに統一した。更に遺物の羅列にならないように、ジオラマなどの立体的展示物や想像画を随所に織り込んだ。

- | | |
|----------------|----------------|
| ① 縄文時代の自然環境 | ⑧ 縄文人の道具箱 |
| ② 山あいのムラ | ⑨ 縄文人の身なり |
| ③ 交流と交易 | ⑩ 祈りとまつり |
| ④ 海辺のムラ | ⑪ 縄文人の一生 |
| ⑤ 縄文時代に農耕はあったか | ⑫ 東日本と西日本の縄文社会 |
| ⑥ 縄文人の台所 | ⑬ 縄文時代の人口と寿命 |
| ⑦ 縄文人の生活技術 | |

(6) 資料点数 217件861点

(7) 催物

講演 「縄文人のなぞ」 芹沢長介氏（東北福祉大学教授） 11月3日
映画 「縄文時代」 カラー47分 教育映画株式会社

(8) パネル

No.	題名	種別	大きさcm	No.	題名	種別	大きさcm
1	縄文人の暮らし。開 催にあたって	文字	全倍	30	ウンコ (フン石)	文字	18×26
2	縄文時代の自然環境	"	"	31	煮る・蒸す	図	全倍
3	晩氷期と縄文時代初め の日本列島の植生図と 古地理	図	"	32	籃胎漆器	写真	全紙
4	縄文時代中頃と終末の 日本列島の植生図と古 地理	"	"	33	カゴ (運搬具)	"	30×54
5	縄文時代の自然環境の 変化と現在の植生	"	"	34	生活用具としての土器	文字	18×26
6	山あいのムラ	文字	"	35	補修された土器	"	11×26
7	桜の皮をまいた弓	写真	四ツ切	36	木製の杓子	"	"
8	矢じりの射込まれたシ カの骨	文字	18×26	37	縄文人の生活	絵	90×180
9	シカとイノシシ	"	"	38	縄文の生活技術	文字	全倍
10	動物質食料 (魚)	絵	112×81	39	縄文時代の縄類	写真	"
11	ムラとムラとの交流・ 交易	文字	全倍	40	縄文時代の縄類	文字	18×26
12	黒曜石はこう運ばれた	図	全紙	41	編み物	写真	全紙
13	ヒスイの生産地と交易 先	"	"	42	編み物	"	"
14	ヒスイ (硬玉)	文字	18×26	43	石斧の柄	"	全倍
15	オオツタノハ製の貝輪	"	"	44	丸木舟をつくる	絵	90×180
16	石油鉱床地帯とアスフ ォルト産出地点・アス ォルト付着遺物の遺跡	図	全紙	45	縄文人の身なり	文字	全倍
17	アスファルト	文字	18×26	46	編布	写真	全紙
18	海辺のムラ	"	全倍	47	北相木人 (正面)	"	"
19	網針を使う	図	全紙	48	北相木人 (側面)	"	全紙
20	動物質食料 (魚)	絵	112×81	49	赤漆塗り櫛	"	四ツ切
21	縄文時代に農耕はあっ たか	文字	全倍	50	装身具をつけた女性	絵	90×180
22	打製の石包丁で穂刈を する	絵	四ツ切	51	祈りとまつり	文字	全倍
23	植物質食料 (山菜・根 菜類など)	図	全紙	52	土偶の出土状態	写真	"
24	植物質食料 (ドングリ 類)	"	全倍	53	妊娠した土偶	文字	11×26
25	竪穴住居をつくる	絵	90×180	54	埋葬	"	"
26	打製土掘り具	文字	11×26	55	祈りとまつり	絵	90×180
27	縄文人の台所	"	全倍	56	縄文時代のムラ	"	"
28	製粉具	"	18×26	57	まつりを司どる呪術師	写真	全紙
29	木の実だんご	"	"	58	縄文人の病気	文字	全倍
				59	抜歯習俗にみる成人と 婚姻	"	"
				60	抜歯された人骨	"	18×26
				61	敷石住居	"	"
				62	住居内の埋葬状態	"	全倍
				63	住居内の埋葬状態	写真	"
				64	集団墓地	"	"
				65	東日本と西日本の縄文 社会	文字	"
				66	ムラのおきて	図	"
				67	ドングリのアク抜き技 術図	"	"
				68	縄文時代の人口と人口 密度	表	"
				69	15歳以上の平均死亡年 齢の時代的変遷	"	全紙

(9) 展示資料目録

№	資 料 名	点数	遺 跡 名	所 有 者
1	丸木弓	1	埼玉県寿能遺跡	埼玉県立博物館
2	矢じり	8	上水内郡上浅野遺跡	豊野町教育委員会
3	丸木弓(模造)	1		須坂市立博物館
4	矢(模造)	1		"
5	矢じりのささった鹿の骨	1	静岡県舘塚遺跡	浜松市博物館
6	線刻画のある石(弓引く狩人)	1	茅野市尖石遺跡	尖石考古館
7	猪形土製品	1	青森県十腰内遺跡	弘前市教育委員会
8	ニホンジカ剥製	1		小林徳治郎
9	イノシシ剥製	1		信濃民俗資料館
10	釣 針	3	南佐久郡栃原岩陰遺跡	信州大学医学部
11	土製の漁網錘	35	諏訪市本城遺跡	長野県教育委員会
12	石製の漁網錘	64	諏訪市十二ノ后遺跡	"
13	魚の陰刻ある土器片	1	南佐久郡六角堂遺跡	三石延雄
14	魚骨(サケ・マス類)	10	南佐久郡栃原岩陰遺跡	信州大学医学部
15	獣骨(カモシカ)	3	"	"
16	"(シカ)	7	"	"
17	"(イノシシ)	3	"	"
18	"(ニホンザル)	2	"	"
19	鳥骨(ヤマドリ類)	10	"	"
20	貝類(メダカラガイ)	2	"	"
21	"(オミナエシダカラ)	1	"	"
22	"(ハイガイ)	1	"	"
23	"(ムシロガイ)	1	"	"
24	"(キクスズメ)	1	"	"
25	"(イモガイ)	3	"	"
26	"(ツノガイ)	2	"	"
27	"(ウミニナ)	1	"	"
28	"(カワシンジュガイ)	3	"	"
29	"(カラスガイ)	1	"	"
30	石製農耕具(耕作具)	2	諏訪 曾利遺跡	井戸尻考古館
31	"(中耕除草具)	2	"	"
32	"(収穫具)	2	"	"
33	"(石鎌)	2	"	"
34	鹿角製の網針(複製)	1	宮城県里浜貝塚	楠本政助
35	現代の網針	1		"
36	魚骨他(カニ)	2	宮城県里浜貝塚	東北歴史資料館
37	"(ウニ)	9	"	"
38	"(スズキ)	6	"	"
39	"(フグ)	7	"	"
40	"(アイナメ)	6	"	"
41	"(アナゴ)	13	"	"
42	"(ウナギ)	12	"	"
43	"(サバ)	5	"	"
44	"(イワシ)	23	"	"
45	貝 類(アサリ)	5	"	"
46	"(スガイ)	5	"	"
47	"(ウバガイ)	1	"	"

№	資 料 名	点数	遺 跡 名	所 有 者
48	貝 類 (ツメタガイ)	1	宮城県里浜貝塚	東北歴史資料館
49	〃 (レイシ)	1	〃	〃
50	〃 (アズマニシキ)	1	〃	〃
51	〃 (ホソウミニナ)	1	〃	〃
52	〃 (カリガネエガイ)	1	〃	〃
53	獸 骨 (シカ)	2	〃	〃
54	〃 (イノシシ)	2	〃	〃
55	エイ尾棘製矢じり	1	〃	〃
56	上記のささったシカの肩甲骨	1	〃	〃
57	釣 針	7	〃	〃
58	釣 針 (複製)	6		楠本政助
59	ヤ ス	6	宮城県里浜貝塚	東北歴史資料館
60	固定モリ	4	〃	〃
61	離頭モリ	10	〃	〃
62	固定モリ (複製)	4		楠本政助
63	離頭モリ (複製)	2		〃
64	現代の鉄製離頭モリ	1		〃
65	現代の鉄製三本ヤス	1		〃
66	丸木舟	1	埼玉県老袋遺跡	川越市教育委員会
67	丸木舟の櫂	1	埼玉県寿能遺跡	埼玉県立博物館
68	亀形土製品	1	千葉県江原台遺跡	明治大学考古学陳列館
69	〃	1	岩手県雨滝遺跡	〃
70	貝層の断面	1	福井県鳥浜貝塚	福井県立若狭歴史民俗資料館
71	貝層の断面	1	千葉県西広貝塚	市原市教育委員会
72	和田峠 (和田側) 産黒曜石	1		森山公一
73	和田峠 (諏訪側) 産 〃	1		〃
74	北海道白滝産 〃	1		〃
75	男女倉B地点産 〃	1		〃
76	ヒスイの原石	6	新潟県長者ヶ原・細池遺跡	糸魚川市教育委員会
77	ヒスイの玉	8	〃	〃
78	ヒスイの未製品	11	〃	〃
79	砥 石	4	〃	〃
80	ヒスイのペンダント	1	伊那市常輪寺下遺跡	伊那市考古資料館
81	〃	1	東筑摩郡山形村	日本民俗資料館
82	〃	1	松本市中山遺跡	中山考古館
83	〃	1	松本市北原	古屋人兄
84	〃	1	南安曇郡黒沢川左岸遺跡	日比野允夫
85	天然アスファルトの入った土器	1	青森県是川遺跡	八戸市博物館
86	オオツタノハ製腕輪	2	宮城県里浜貝塚	東北歴史資料館
87	宝貝を模した土製品	1	長野市旭町遺跡	長野市立博物館
88	現生のタカラガイ	1		〃
89	製粉具 (石皿)	1	長野市旭町遺跡	〃
90	〃 (磨石)	3	〃	〃
91	〃 (石皿)	2	上水内郡上浅野遺跡	豊野町教育委員会
92	〃 (磨石)	2	〃	〃
93	木の実割り (凹石)	3	〃	〃
94	〃 (凹石)	3	長野市旭町遺跡	長野市立博物館
95	パン状炭化物	1	諏訪郡曾利遺跡	井戸尻考古館

№	資 料 名	点数	遺 跡 名	所 有 者
96	クッキー状炭化物	13	新潟県沖の原遺跡	津南町歴史民俗資料館
97	木製杓子(複製)	1	鳥取県布勢遺跡	渡辺 誠
98	〃 (〃)	1	千葉県多古田遺跡	〃
99	煮炊きなどの用具	8	諏訪郡居沢尾根1号住居	長野県教育委員会
100	すすが付着した土器	1	岩手県雨滝遺跡	明治大学考古学陳列館
101	ウンコ(フン石)	6	福井県鳥浜貝塚	福井県立若狭歴史民俗資料館
102	〃 (〃)	1	宮城県里浜貝塚	東北歴史資料館
103	出土した木の実(ドングリ)	2	〃	〃
104	〃 (クルミ)	1	〃	〃
105	〃 (クリ)	14	〃	〃
106	〃 (クリ)	22	新潟県沖の原遺跡	津南町歴史民俗資料館
107	製塩土器	1	宮城県里浜貝塚	東北歴史資料館
108	〃	4	茨城県法堂遺跡	明治大学考古学陳列館
109	骨ペラ	2	南佐久郡栃原岩陰遺跡	信州大学医学部
110	補修孔にひもの残る土器	2	福井県鳥浜貝塚	福井県立若狭歴史民俗資料館
111	石器の素材	2	上水内郡上浅野遺跡	豊野町教育委員会
112	磨製石斧の製作工程	4		森山公一
113	打製石器の素材	3		〃
114	釣針の製作工程	20	福島県大畑貝塚	いわき市教育委員会
115	荒砥石	1	宮城県里浜貝塚	東北歴史資料館
116	仕上砥石	1	〃	〃
117	繻み物	6	福井県鳥浜貝塚	福井県立若狭歴史民俗資料館
118	石ヒ(縦形)	5	上水内郡上浅野遺跡	豊野町教育委員会
119	〃(横形)	10	〃	〃
120	骨ペラ	5	宮城県里浜貝塚	東北歴史資料館
121	小形磨製石斧	7	上水内郡上浅野遺跡	豊野町教育委員会
122	石 錐	10	〃	〃
123	骨角製刺突具	3	南佐久郡栃原岩陰遺跡	信州大学医学部
124	鳥骨製刺突具	5	宮城県里浜貝塚	東北歴史資料館
125	矢じり	7	上水内郡上浅野遺跡	豊野町教育委員会
126	骨製の矢じり	3	宮城県里浜貝塚	東北歴史資料館
127	矢じりの根ばさみ	2	〃	〃
128	弓弭形角製品	10	〃	〃
129	砥 石	5	南佐久郡栃原岩陰遺跡	信州大学医学部
130	磨製石斧	7	上水内郡上浅野遺跡	豊野町教育委員会
131	打製土掘り具	31	長野市旭町遺跡	長野市立博物館
132	杭	2	福井県鳥浜貝塚	福井県立若狭歴史民俗資料館
133	容器としての土器	1	長野市旭町遺跡	長野市立博物館
134	土器の中に入っていた土掘り具	7	〃	〃
135	北相木人(成人男子)	1	南佐久郡栃原岩陰遺跡	信州大学医学部
136	〃(女子復顔)	1	〃	〃
137	〃(男子復顔)	1	〃	〃
138	くつ形土製品	1	伊那市手良遺跡	東京大学総合研究資料館
139	骨 針	1	上水内郡上浅野遺跡	豊野町教育委員会
140	〃	10	南佐久郡栃原岩陰遺跡	信州大学医学部
141	カラムシ製の衣服(一部式)	1		故塩野半十郎
142	〃(二部式)	1		東京農工大付属繊維博物館
143	アンギンを編む道具	1		津南町歴史民俗資料館

№	資 料 名	点数	遺 跡 名	所 有 者
144	アングンの原材料 (エラソ)	1		津南町歴史民俗資料館
145	" (オロ)	1		"
146	" (ヨリソ)	1		"
147	アングン (編布)	1		"
148	骨角製の髪飾り	1	茨城県立木遺跡	明治大学考古学陳列館
149	赤漆塗り櫛	7	青森県是川遺跡	八戸市博物館
150	土製の耳飾り	1	上水内郡上浅野遺跡	豊野町教育委員会
151	石製の耳飾り	7	"	"
152	赤漆塗り耳飾り	3	青森県是川遺跡	八戸市博物館
153	石製の耳飾り	1	栃木県出流原遺跡	明治大学考古学陳列館
154	土製の耳飾り	15	小県郡深町遺跡	丸子町郷土博物館
155	耳飾着装模型	3		国学院大学考古学資料館
156	牙製ペンダント	4	宮城県里浜貝塚	東北歴史資料館
157	ペンダント (滑石製)	1	新潟県長者ヶ原遺跡	糸魚川市教育委員会
158	石製の首飾り	1 連	宮城県山王遺跡	明治大学考古学陳列館
159	石製勾玉	3	小県郡深町遺跡	丸子町教育委員会
160	土製勾玉	1	"	"
161	小玉の首飾り	5	"	"
162	猪牙製の飾り具	2	"	"
163	ヒスイ製の小玉	1	宮城県里浜貝塚	東北歴史資料館
164	貝製の腕輪	2	"	"
165	赤漆塗り木製の腕輪	4	青森県是川遺跡	八戸市博物館
166	骨角製の腰飾り	2	宮城県里浜貝塚	東北歴史資料館
167	土 偶	49	山梨県釈迦堂遺跡	山梨県立考古博物館
168	耳飾をつけた土偶	1	山梨県中谷遺跡	都留市教育委員会
169	土 偶	4	岩手県雨滝遺跡	明治大学考古学陳列館
170	土 偶	2	宮城県山王遺跡	"
171	石 棒	2	愛知県稲荷山遺跡	"
172	"	1	長野市旭町遺跡	長野市立博物館
173	"	1	長野市浅川西条遺跡	"
174	土製のお守り	1	宮城県山王遺跡	明治大学考古学陳列館
175	石製のお守り	1	岩手県雨滝遺跡	"
176	飾られた土器 (朱塗り壺)	1	青森県亀ヶ岡遺跡	"
177	" (朱塗り碗)	1	"	"
178	" (朱塗り壺)	1	岩手県雨滝遺跡	"
179	" (朱塗り皿)	1	"	"
180	非日常的な土器 (吊手形土器)	2	諏訪郡前尾根遺跡	原村教育委員会
181	ヘラ形木製品 (弦楽器?)	4	青森県是川遺跡	八戸市博物館
182	仮面をつけた土偶	1	上伊那郡泉水遺跡	辰野町郷土美術館
183	祈りとまつりの場 (敷石住居)	1	諏訪市穴場遺跡	諏訪市教育委員会
184	剣形の石製呪術具	8	小県郡深町遺跡	丸子町教育委員会
185	冠形の石製呪術具	1	"	"
186	三角柱形の石製呪術具	1	"	"
187	三角柱形の土製呪術具	1	"	"
188	冠形の石製呪術具	1	松本市赤木遺跡	古屋人兄
189	妊娠した土偶	1	茅野市尖石遺跡	東洋観光事業株式会社
190	埋 甕	1	長野市旭町遺跡	長野市立博物館
191	抜歯された人骨 (壮年男子)	1	上水内郡宮遺跡	中条村教育委員会

№	資 料 名	点数	遺 跡 名	所 有 者
192	伸展葬人骨(熟年女子)	1	千葉県菊間手永貝塚	市原市教育委員会
193	石棺墓	2	飯山市宮中遺跡	飯山市教育委員会
194	トチむき石(民俗資料)	1	岐阜県大野郡白川村大窪採集	渡辺 誠
195	〃 (〃)	1	岐阜県大野郡白川村長瀬採集	〃
196	北海道置戸産黒曜石	6		宮下健司
197	東京都神津島産黒曜石	2		〃
198	大分県姫島産黒曜石	2		〃
199	長野県麦草峠産黒曜石	4		〃
200	パーライト(黒曜石の粉碎・加熱・参考品)	1袋		〃
201	ヒスイの原石	2	新潟県糸魚川市姫川採集	〃
202	魚 骨(サケ)	3	宮城県里浜貝塚	東北歴史資料館
203	〃 (クロダイ)	2	〃	〃
204	〃 (マグロ)	3	〃	〃
205	石製の耳飾り	1	岩手県雨滝遺跡	明治大学考古学陳列館
206	現生のタカラガイ	1		宮下健司
207	石 皿	1	長野市宮崎遺跡	長野市立博物館
208	打製石斧の製作工程	4		森山公一
209	和田村高松山産黒曜石	1		〃
210	星ヶ塔黒曜石	1		〃
211	神奈川県箱根産黒曜石	1		〃
212	石器製作大割り用ハンマー	2		〃
213	鹿角(石器製作工具)	5		〃
214	アワ	1		中信農業試験場
215	ヒエ	1		〃
216	キビ	1		〃
217	ドングリ(14種)	14		渡辺 誠

(敬称略)



ジオラマ「狩りのようす」



「縄文人のくらし」より

2 天体学習室（プラネタリウム）

1) 運営方針

プラネタリウムの投影室を天体学習室と呼んでいる。通常の平日は、学校教育の一環として理科教育センターが使用し、土曜・日曜日及び祝日は、当博物館が一般投影を行っている。

当館が一般投影を行う場合、あくまでも学習する場、教室と位置づけて、周知徹底させている。

内容的には30～40分程度の物語を構成し、小学校高学年以上に理解できるように制作している。観覧者が自然に星の世界に浸り、難解と思われる宇宙の出来事をわかりやすく、楽しく理解できるように配慮している。

投影時刻は午前9時30分・11時、午後1時・3時の4回である。このほか小中学校が長期休業の時は、平日の午後2時に特別投影を行っている。

2) 投影内容

当館学芸員による自主制作番組であるが、投影画は竹内理恵子氏、録音は株式会社社長野トップにそれぞれ委託している。

(1) 夏の番組「第三惑星地球」（昭和59年6月～8月）

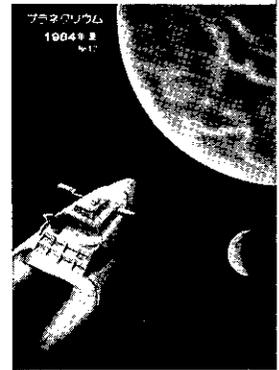
①内容

宇宙人シュテファンは、惑星探検の途中で太陽系を訪れ、第三惑星である地球に興味をいだき、立ち寄ってみることにした。地球をとりまく大気さまざまな情報を解析し、安全を確認して地球に降り立った彼は、そこで地球人の幸三君と知りあった。幸三君とシュテファンは、さっそく仲よしになり、地球のこと・星のこと・宇宙のことなどいろいろな事を話し合った。シュテファンは幸三君に太陽系で最もすばらしい環境を持つ地球の自然を公害などで絶滅させないように、美しい地球を守り育てていくようにと言い残して地球を離れていった。シュテファンは、幸三君のような人間がいる限り、地球は滅びることはないだろうとだんだん小さくなっていく、青く美しい地球をみながら思うのであった。

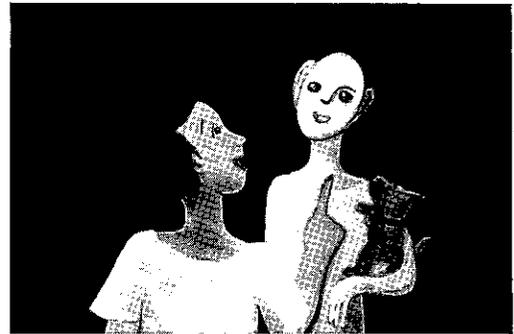
②スカイライン

夏の八幡原・長野市の昼・宇宙船

③星・惑星・星雲・星団等



パンフレット



幸三君とシュテファンはさっそく仲よしになった



水星・金星・火星・木星・土星・天王星・海王星・冥王星・北極星・わし座(アルタイル)・こ
と座(ベガ)・はくちょう座(デネブ)、いて座(南斗六星)・さそり座(アンタレス)・へびつか
い座・夏の三角

④出版物

A 4 版二ツ折 3 色刷パンフレット No.12 「第三惑星地球」

⑤入館者

4045人 1 回平均42人

(2) 秋の番組「合戦場の星」 (昭和59年9月～11月)

①内容

今をさかのぼること、400年前、ここ八幡原は越後の上杉謙信と甲斐の武田信玄が千曲川をはさ
んでにらみあう合戦場であった。武田軍は、山本勘助のきつつき戦法をもって、上杉軍をはさみう
ちにしようと企てた。

しかし、上杉軍は武田軍のこの戦法を見破り、夜の間に妻女山から下っていった。明け方霧が発
生したため、武田軍は上杉軍の動きに全く気づかず、霧が晴れた時、
武田軍は大河のような上杉軍が自軍の前に広がるのを見たのであ
った。

戦国時代にこの武将達が見た星の位置は現在とは少し違っている。
400年前に思いをはせながら、当時の武将達がみなみのうお座で方角
を確め、カシオペヤ座で時を知ったのではないだろうかと合戦場の
星を推測する。

②スカイライン

現在の八幡原・400年前の八幡原・黄道十二宮

③星・惑星・星雲・星団等

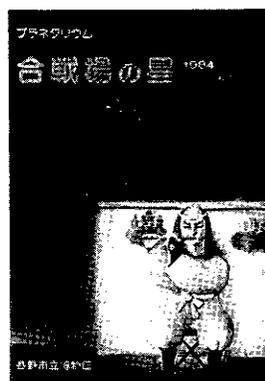
火星(熒惑)・木星(歳星)・北極星・うお座・
やぎ座・おひつじ座・カシオペヤ座・みずがめ
座・みなみのうお座(フォーマルハウト)・ペル
セウス座

④出版物

A 4 版二ツ折 3 色刷パンフレット No.13 「合戦
場の星」

⑤入館者

3409人 1 回平均38人



パンフレット



戦国の武将たちは星をみつめる



夏の八幡原スカイライン

(3) 冬の番組「アインシュタイン博士の不思議な世界」

(昭和59年12月～60年2月)

①内容

A教授のあとを追いかけて研究室のドアを開けた理恵子は、一瞬暗やみの中に引き込まれ、気を失ってしまった。気がついた理恵子は、見知らぬ世界の石の上にすわっていた。そこへアインシュタイン博士が現れ、いっしょに相対性理論を体験してみようと話しかけた。理恵子は、宇宙船の中で博士から相対性理論の話聞き、次々と目の前に起こるさまざまな現象にただ目をみはるばかりであった。そうして次第に不思議な世界にひきこまれていった。

しばらくすると宇宙船は赤色巨星に近づいた。その時、突然巨星が爆発し、ブラックホール化した。宇宙船とともに理恵子は、ブラックホールに吸いこまれていった。友達の声が出て目をさますと、教室では相対性理論の授業が始まろうとしていた。

理恵子は、授業を受けながら、夢の中で体験した不思議な現象を頭に浮かべていた。

②スカイライン

小惑星・宇宙船

③星・惑星・星雲・星団等

オリオン座(ベテルギウス・リゲル・ベラトリックス・サイフ・ミンタカ・アルニタク・アルニラム)・北極星・おおいぬ座(シリウス)・ぎょしゃ座(カペラ)・いっかくじゅう座(バラ星雲)・ペルセウス座・カシオペア座・ふたご座

④出版物

A4版二ツ折三色刷パンフレットNo.14「アインシュタイン博士の不思議な世界」

⑤入館者

1548人 1回平均22人



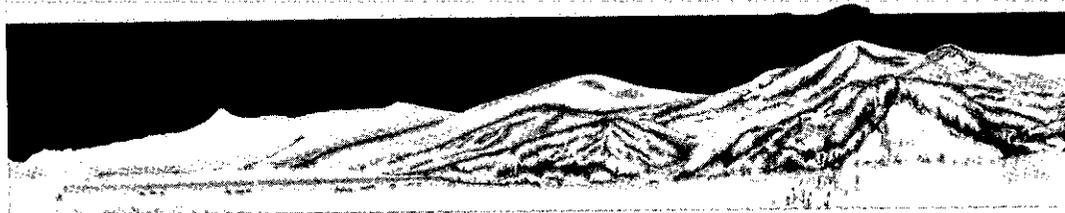
パンフレット



理恵子は、一瞬暗やみの中に引き込まれた



田は全能の神ゼウスに救いを求める



(4) 春の番組「銀河団をたずねて」 (昭和60年3月～5月)

①内容

ある日、小学生のたかし君はおじさんに高妻山の向う側へ連れて行ってもらうことになった。パードラインを経由して到着した場所には、大きな天文台があり、そのドームの中には直径10mという世界一大きな望遠鏡があるという。

やがて日が沈むとおとめ座やうしかい座など春の星座が見えてきた。きらめく春の星座をいろいろと教えてもらったたかし君は、いよいよ世界一の望遠鏡をのぞかせてもらう。望遠鏡の中に見える美しく壮大な銀河団や銀河群は、たかし君にとって初めて見るものであった。たかし君はすっかり遠い宇宙のとりこになってしまった。

夜ふけて帰る車の中で、たかし君は眠ってしまったが、望遠鏡で見た銀河団の姿をいつまでも夢見ていた。

②スカイライン

春の飯綱高原・長野市の夜・高妻山天文台

③星・惑星・星雲・星団等

おとめ座(スピカ)・うしかい座(アルクトウルス)・しし座(レグルス・デネベラ)・北斗七星・りょうけん座・春の大三角・マゼラン星・かみのけ座銀河団・おとめ座銀河団・M82・M91・NGC4565・M83・M106・M104・NGC4567・NGC4568・M87・M51・M81

④出版物

A4版二ツ折3色刷パンフレットNo.15「銀河団をたずねて」

⑤入館者

5439人 1回平均47人



パンフレット



娘は死の国の王に連れさらわれてしまった



母は全能の神ゼウスに救いを求める



冬の八幡原スカイライン

3 調査研究収集活動

1) 考古部門

考古部門の埋蔵文化財の調査では、教育委員会社会教育課が行政・事務的な面を担当し、現場における調査及び整理を博物館が行っている。そのため、青木学芸員（社会教育課兼務）が中心になって、調査・整理を行い報告書を作成している。

ここ2、3年の間に年間の調査件数（緊急調査が大部分を占める）が急増し、4月～12月まで継続調査になっているのが現状である。冬期の2、3か月位の期間では到底整理が追いつかず、報告書作成には過重労働が強いられることになる。次年度以降も多くの調査が待ちうけている。

今のところ、緊急調査のみの体制となっているが、将来には博物館独自に学術調査を計画し積極的に取組んでいかねばならないだろう。

(1) 石川条里的遺跡・第3次（篠ノ井二ツ柳）

期間 昭和59年4月7日～4月9日

10月30日～11月9日

調査原因 団体営ほ場整備に伴う緊急発掘調査

調査結果 前年にひきつづき現在の水田下に埋没している平安時代の水田遺構の調査を実施した。検出された畦畔は通算61ヶ所を数えることとなり、条里的地割に基づいた水田区画のあり方が明らかになりつつある。今後の調査の進展により、現存する条里的の水田景観との関連が注目されることとなろう。



水田の「アゼ」を掘る(石川条里的遺跡)

(2) 旭町遺跡（長門町）

期間 昭和59年4月15日～5月5日

調査原因 市立長野図書館建設に伴う緊急発掘調査

調査結果 調査地は旧県立図書館跡地にあたり建物などによる破壊を免れた縄文時代中期の住居址2軒、土壇、古墳時代以降の住居址4軒などが検出された。市街地での縄文時代遺跡の発掘調査は珍しい例であり、予想を上回る成果が得られたといえる。特に縄文時代中期に属する一群の土器からは、従来不明確であった北信地方独特の型式が抽出し得るものと考えられ、その分析に期待がかけられる。この他石器等豊富な遺物が出土し、空白に近かった当地域において貴重な資料を得ることができた。



縄文時代の敷石住居(旭町遺跡)

(3) 三輪遺跡・美和公園地点（三輪8丁目）

期間 昭和59年5月14日～5月25日

調査原因 都市計画公園事業に伴う緊急発掘調査

調査結果 前年度試掘調査により確認されたもので古墳時代住居址1軒、不明竖穴遺構3、円形周溝1等などが検出された。この他少量ながら縄文中期・弥生後期土器片も出土しており、本遺跡の時代的広がりを示すものといえる。

(4) 土口將軍塚古墳・第3次(松代岩野・更埴土口)

期間 昭和59年7月25日～8月18日

調査原因 重要遺跡確認緊急調査(国庫補助)

調査結果 更埴市と合同ですすめられている本古墳の今年度調査は、前方部の確認を中心として実施された。前方部は2段築成により2重の葺石をめぐるし、中位テラス部と墳頂に埴輪列が検出された。埴輪は叩き目を有する僅少な例品であり、埴輪列が原位置で確認されたのも県内で初例となった。また後円部軸上に設定されたトレンチにおいても葺石・埴輪列が確認され、本古墳の構造が更に明確となった。



2重の葺石の検出(土口將軍塚古墳)

(5) 浅川扇状地遺跡群・バイパスB地点(若槻東条)

期間 昭和59年9月11日～11月22日

調査原因 県道バイパス建設に伴う緊急発掘調査

調査結果 県道長野荒瀬原線建設予定地内に確認された5遺跡中、昭和56年度調査済のA・E地点を除く3遺跡の調査が実施された。B地点においては住居址24軒、溝、土壙等が検出され、古墳時代以降平安時代に至るまで各期にわたり集落地として利用されたことが明らかとなった。最古段階の住居址群からはTK-208併行と考えられる須恵器が多量の土師器とともに伴出しており、当地域に属する須恵器群として注目される。

(6) 浅川扇状地遺跡群・バイパスC地点(若槻上野)

期間 昭和59年11月12日～12月8日

調査原因 県道バイパス建設に伴う緊急発掘調査

調査結果 平安時代末葉に位置づけられる住居址3軒、土壙7基、溝等が検出された。住居址のうち1軒からは多量の鉄滓とともにフイゴ羽口が出土し、小規模製鉄の存在が示唆される。調査地を南北に縦断する溝は、幅2m内外、深さ1m以上を計る大規模なものである。出土遺物から住居址との同時存在が裏づけられるが、奈良時代前期に位置づけられる複台式蓮花文軒丸瓦の瓦当部分が単独で出土した。

(7) 浅川扇状地遺跡群・バイパスD地点(若槻上野)

期間 昭和59年7月17日～7月24日

9月5日～9月20日

調査原因 県道バイパス建設に伴う緊急発掘調査

調査結果 弥生時代中期と古墳時代前期に属する住居址が各2軒ずつ検出された他、遺構に伴わずにほぼ完形の軒平瓦が出土した。軒平瓦は、善光寺境内より破片で出土していたものと同型であり、他に類をみない独特の偏行唐草文を有する点が明らかとなった。他に平瓦破片も出土しているため、瓦窯址、工房址等の存在が予想され、来年度継続される調査に期待がかけられる。



善光寺瓦の出土(浅川・バイパスD地点)

2) 民俗部門

長野市とその周辺地域に伝承される有形及び無形の民俗文化財の調査と記録を鋭意進めている。ここではそうした調査研究と資料収集の実態について記す。

(1) 調査研究

調査月日 昭和59年6月10日・12月16日・

12月23日、昭和60年1月29日

調査地 長野市若穂保科町竜崎

若月正雄氏宅

調査者 山口明

調査内容 上水内郡信濃町の古間や柏原などは早

くから鎌の産地として、技術的にも進んでいたところであった。明治時代の後期には、鎌問屋が古間にあったため、古間鎌の銘柄により、全国各地に販売された。またそれ以前にも北国街道を通る旅人や普光寺詣での土産品として他地域にも広く知れ渡っていたと思われる。明治から大正にかけてさかんに販路を拡大して発展し、信州鎌とも称されるようになる。

若月正雄さんの父貞助さんはこうした信濃町柏原の地に明治30年に生まれた。小学校修了後の12、3才で鎌工の親方のもとに弟子入りした。大正10年頃には柏原を後にして、上高井郡保科村（現長野市）に親方と一緒に出てきた。さらに昭和元年に現在の道路沿いのところに移った。それまでは2～3軒奥に入った所に仕事場と住まいがあった。一緒だった親方がその頃亡くなったため、独立したのかもしれないと言う。

鎌工の弟子はみな住み込みで朝昼の飯時間を除いて、朝は5時頃より夜は9～10時頃まで仕事をした。飯の仕立くも弟子の仕事で鍛冶場の鉄を赤らめる火を炊事用としても使った。従って、鍛冶屋には台所はいらないと言われた。

貞助さんの親方は「平塚」という人で、鎌作りの名人だった。「10丁つくれば1丁になる」と言われる位、どれも寸分違わず作る腕前で、その技術は「平塚流」と呼ばれた。また親方は弟子に「ハンマーを打つ数を数えている」と指導した。むだにハンマーを打つことなく、常に一定していた。

若月貞助さんは、保科に移ってきてから、地域の農民の注文に応じて、鎌はもちろんのこと、そのほかさまざまな農具を作った。大変に手先が器用だったため、地域の人々も色々な注文を持ち込み、その都度、採算を度外視して、いいもの・使いやすいものを工夫し、作りあげてきた。まさに職人氣質を地でいくような人だった。

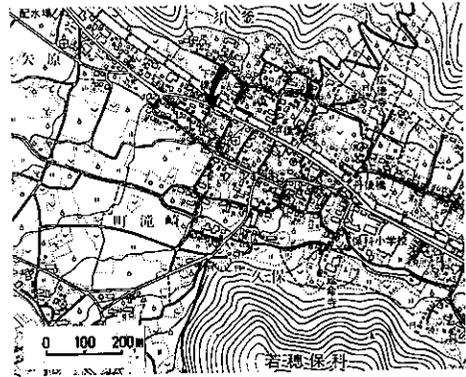
貞助さんのところに弟子入りした弟子は5年修業し、修業後カナシキとフィゴを親方からもらった。カナバシは修業中に自分でつくった。

年が改まり、1月2日の朝飯前に剣の雛型を1本作り、お不動さんに供えて、仕事始めとした。こうして毎年仕事始めに作られた剣がお不動さんの上に横一列に並んでいる。仕事始めの初打ちの雛型は鍛冶の系統によって、鎌・剣・鋏・鉞などがあると言われる。こうして実際の仕事は1月17日より始めた。

貞助さんは昭和49年に野鍛冶としての生涯を77才でとじられた。多勢の弟子が貞助さんのもとで修業し、巣立っていった。

若月貞助さん製作の製品につける刻印は祭（みついちこ）や㊦（まるわか）が用いられた。

正雄さんは小さい頃、フィゴ吹きなどをよくやらされ、みようみまねで製品も作ったりした。し

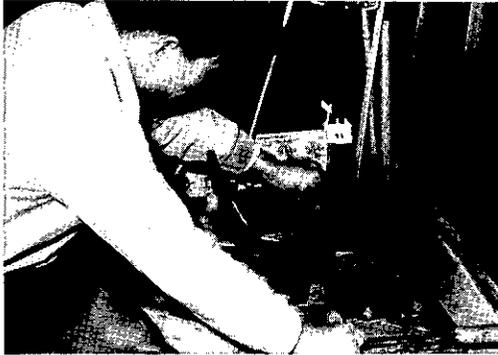


調査地点位置図

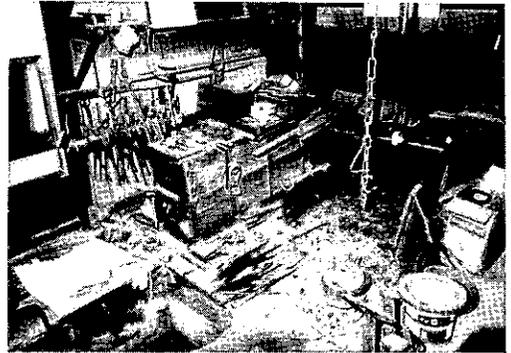
かし、正雄さんは鍛冶屋を継がずに別の仕事に就いたため、貞助さんの代で鍛冶屋は終わりとなった。

昭和49年以來現在まで、この鍛冶場と道具一式が全くそのまま正雄さんの手で守られ、保存されてきた。いつでも仕事ができるようになっており、槌の音が聞えてくるような錯覚に落ち入る。毎日、仕事場に御神酒と手塩が供えられている。

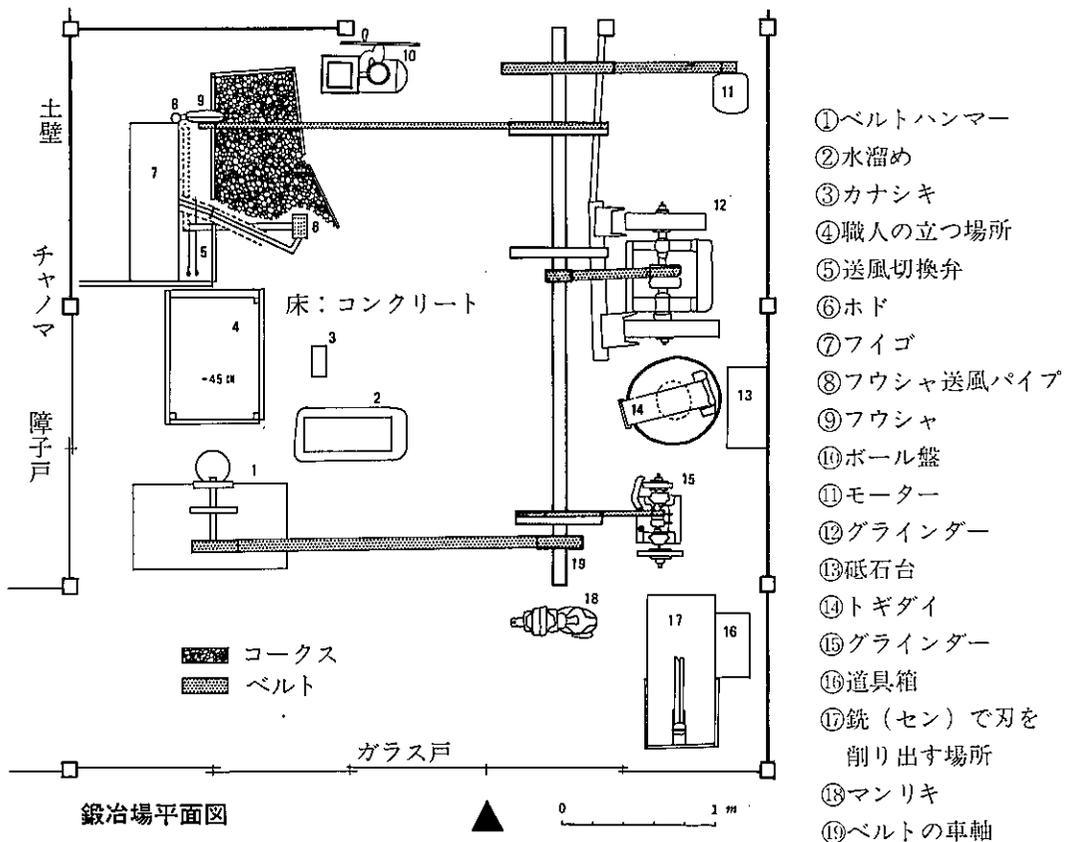
こうした鍛 職の貴重な一括資料を全て当館に寄贈していただくことになり、現場にて調査を行った。しかしまだ調査継続中であることを記しておく。



鎌の刃を銚で削り出す（若月正雄さん実演）



鍛冶場（ファイゴとホド）



(2) 資料収集

開館（昭和56年）以前の準備室の段階より、民具の資料収集は行ってきた。しかしながら現在まで一般市民からの電話連絡による民具の寄贈という手段にたよっているのが現状である。従って、同じような資料（食・住・農耕・養蚕など）の寄贈が多く、収集の際には同一の資料でも実際の物を見て判断し、また比較研究の意味からも同一資料でもある程度の複数の数量を収集するようにしている。

これまでのところ、こうした受身的な資料収集のため、なかなか体系的な資料収集ができず、収蔵資料に甚だかたよりがみられる。こうした点は現在、企画展の事前調査及び収集などを通じて補っている。これまで、「ワラと生活」「仕事着」等の企画展を通じて、収蔵されていなかったワラ製品や仕事着の体系的な収集に努めてきた。

こうした有形の資料はかたよりのあるにせよ現在まで既に収蔵庫が満杯に近いほど収集されている。これに対し、無形の資料（口頭伝承・芸能など）はまだ収集の手をつけていない。無形資料も早晚消えさる運命にあるものが多いと思われる。有形資料と同様に急務を要する。

有形及び無形を問わず、積極的に調査研究と収集活動に努め、資料化していかねばならないのは博物館の責務でもあろう。これらの点は計画的に仕事を進めていく中で取り組んでいかなければならない課題である。

昭和59年度の収蔵資料は874点であった。

3) 自然部門

自然部門では太陽の黒点活動を1981年7月以来、継続して観測している。また1983年以降は長野市とその周辺にある温泉の調査に着手し、現在に至っている。ここではこうした調査の中で特に温泉調査の一端について記すこととする。

温泉調査の目的　長野市とその周辺にある温泉の成分とその含有量を調べ、地震との関連を探るデータを収集し、分析する。

調査月日　4月17日・6月13日・9月11日・11月15日・1月23日・3月13日

調査地点　森・倉科（更埴市）、松代温泉・一陽館・長野市保健保養訓練センター（松代）、温湯（若穂）

調査者　大蔵満・西川昭史

調査内容　調査地点で気温・泉温・電気伝導度・pH・RpHを測定し、採集ビンに泉水を取る。採集ビンに取った泉水は翌日分析する。

成分分析は、陽イオンとしてマグネシウムイオン(Mg^{2+})及びカルシウムイオン(Ca^{2+})、陰イオンとして硫酸イオン(SO_4^{2-})及び塩素イオン(Cl^-)の計4種類について行なった。

測定方法

①気温・泉温　温度補正をした温度計で測定。

②電気伝導度(k)　伝導度計で測定。

③pH・RpH　TB・BTを指示薬として比色法で測定。

④硫酸イオン(SO_4^{2-})　試料水中に含まれている炭酸イオンを分解するために塩酸を加える。その溶液に塩化バリウム-ゼラチン溶液を加えて白色沈澱を作り、分光光度計を使って吸光度を求め、吸光度-濃度曲線より濃度を決定する(吸光光度法)。

⑤塩素イオン(Cl^-)　試料中にクロム酸カリウムを指示薬として加え、赤色のクロム酸銀が出来るまで硝酸銀を滴定する(モール法)。

⑥カルシウムイオン(Ca^{2+})とマグネシウムイオン(Mg^{2+})　試料溶液中にまず塩酸ヒドロキ

シルアミン溶液と塩化アンモニウム溶液を加える。指示薬としてE B T試薬を加え、E D T A溶液を加えるとカルシウムイオンとマグネシウムイオンの合計量が求められる。次に塩化アンモニウム溶液のかわりに水酸化カリウム溶液を加え、指示薬としてN N試薬を加える。そしてE D T A溶液で滴定するとカルシウムイオンだけの量を求めることができる(キレート滴定)。

⑦水 溶液調整のための水は、すべて純水を使った。

測定の結果

得られたデータを分析すると昨年と同じように2つに類別されることがわかる。

1つは弱酸性で、新鮮な空気を入れて激しく振ると弱アルカリ性になるもの。このことは、炭酸イオンを多く含むことを示す。更に電気伝導度や硫酸イオンなどの4つのイオン成分がいずれも高い数値を示す。別表で示したうち、松代温泉、一陽館・長野市保健保養訓練センターが該当する温泉である。

他の一つは弱アルカリ性で、新鮮な空気を入れて激しく振っても変化がないもの。前記のものに比して、電気伝導度や4つのイオン成分の含有量数値がきわめて低いものである。森・倉科・温湯の各温泉が該当する。

今回の測定データは昨年のそれに比して、イオンの含有量・電気伝導度等の各要素にはいまのところ変化はないが、これらの値が変化する可能性も大である。また2つに類別されたものがいったい何を示すのか。更に継続調査の必要性を痛感する。

今後は、炎光光度計を使いナトリウムイオンやカリウムイオンの含有量、炭酸イオンやアルカリ度等を調べ、測定データを増やして精度を高めていかななくてはならない。更に調査地点を増やし、他の地域のデータと比較して、どのような因子が地震と関連を持つのか調査していかなければならないだろう。

事例として11月15日に行った測定値を示す。(電気伝導度kの測定温度は、森・倉科・温湯が泉温の温度、松代温泉・保健保養センター・一陽館が13℃で行った。)

温泉調査の測定値(1984. 11. 15)

場 所	泉 温 (°C)	pH	RpH	$k \times 10^3$ ($\Omega^{-1} \cdot \text{cm}^{-1}$)	Cl^- (mg/kg)	SO_4^{2-} (mg/kg)	Ca^{2+} (mg/kg)	Mg^{2+} (mg/kg)
森	33.3	8.7	8.7	0.9	113.4	60.0	24.9	1.0
倉 科	24.2	8.1	8.1	1.6	255.2	38.0	64.1	1.9
温 湯	28.8	8.5	8.5	0.65	31.9	47.0	12.8	0.9
松代温泉	45.5	6.9	7.2	55(13°C)	6983.7	265.0	1042.1	277.3
松代保養 センター	49.8	6.7	7.3	70(13°C)	8720.7	255.0	1010.0	306.4
一 陽 館	41.4	6.4	7.2	55(13°C)	5636.6	280.0	1322.6	471.8

4 教育普及活動

1) 講演会

(1) 企画展「仕事着」講演会

日時 昭和59年7月29日午後2時～3時30分

会場 特別展示室特設講堂

演題 「仕事着と現代性」

講師 関川信子（信州大学教育学部教授）

聴講者 31人

内容 先生の許可を得て、本年報のⅦ章に講演録を掲載したので、参照されたい。



仕事着講演会（関川信子氏）

(2) プラネタリウム特別講演会

日時 8月26日午後6時～8時

会場 天体学習室

講演 「隕石と宇宙」

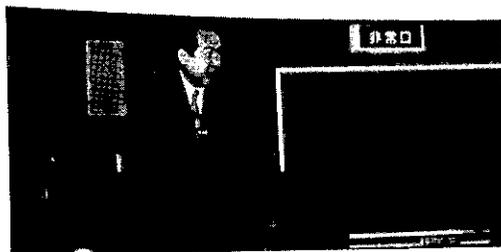
資料 スライド

講師 村山定男（国立科学博物館理化学研究部長）

職講者 105人

内容 日本を代表する隕石の研究者であられる村山先生の生いたちや、隕石研究の道へ入られたいきさつを導入としてユーモアを交えて話された。そして本論へ入って、隕石はどこから来るのか、そしてその正体や隕石の見分け方などをわかりやすく解説され、先生の行われた瀬戸内海の隕石大捜索の話や、最新情報として青森県と宮城県でたて続けに落下した隕石の話など、興味深い話でいっぱいでした。実は宮城県黒川郡富谷町へ隕石が落ちたのは8月22日で、当館での講演がその4日後でしたから、私たちは真先にその話を直接お聞きできたわけで大変幸運でした。

最後に、隕石を見つけた方は是非とも国立科学博物館の村山先生へ御一報をとということでした。



プラネタリウム講演会（村山定男氏）

(3) 特別企画展「縄文人のくらし」講演会

日時 昭和59年11月3日午後2時～4時

会場 会議室

演題 「縄文人のなぞ」

資料 スライド

講師 芹沢長介（東北福祉大学教授）

聴講者 約120人

内容 この講演会も先生の許可をいただいてⅦ章に講演録を掲載したので参照されたい。



縄文講演会（芹沢長介氏）

2) 博物館教室

(1) 地質教室

日時 昭和60年6月17日10時～16時30分

会場 教室・茶白山

講義 「茶白山の化石・恐竜」

資料 スライド・「植物化石の見方」プリント

講師 斉藤豊（信州大学教育学部助教授）

受講者 25人

内容 午前中、教室において、植物化石の見方・特徴について講義を受け、また恐竜公園も現地踏査するので、合せて恐竜の話をしていただいた。昼食後、市庁用バスにて茶白山へ向かい、地層の観察及び化石の採集を行った。ここでは単に化石の採集ではなく、どの層にはどんなものがあるかを勉強しながら、午前の講義資料によって化石の分類・鑑定会を行い、小雨降る中であ

ったが、恐竜公園の恐竜の観察と説明を受け、全員怪我もなく無事終了した。



地質教室

秋の地質教室は、11月11日に、「千曲川東縁の火成岩」を中心に実施する運びであったが、当日降雨が激しかったため中止することにし、この教室は来春実施することにした。

(2) 春の天体教室

日時 昭和59年5月5日・20日18時30分～21時

会場 天体学習室・博物館前庭

資料 「天体教室資料」12頁

視聴覚機器材 プラネタリウム・16mm映画「星の動きを調べる」・「太陽と月」

講師 指導者 大蔵満(学芸員)・西川昭史(専門員)

受講者 5月5日47人・20日49人、ただし、小学生4年生以上の市民と限定。

天体学習室内で、星座早見盤を参考にしながら、星座のさがし方をプラネタリウムの投影を通して勉強した後、博物館前庭にて実際の星座を8cm屈折望遠鏡5台を使用して観察した。今回学習・観察した星座・惑星等は以下のとおりである。空の大時計（北斗七星とカシオペア）・北斗七星から北極星・2重星・春の大曲線（うしかい座・おとめ座・からす座）・春の化け物退治（しし座・うみへび座・かに座）・月・火星等

ただ5月20日は曇天のため、プラネタリウムとスライドの投影による勉強会となった。



星の位置をさがす練習



星座・惑星の観察

(3) 夏の天体教室

日時 昭和59年7月28日・29日19時～21時30分

会場 天体学習室・天体観測ドーム

資料 天体教室資料(1984年夏)7頁

視聴覚機器材 プラネタリウム・16mm映画

「太陽と月」

受講者 7月28日42人・11月29日55人

今回から、プラネタリウムによる星座の位置とさがし方を学習した後、天体観測ドームに上り、15cm屈折望遠鏡で星の観察を行った。学習観察した星座・惑星は次のとおりである。北斗七星(おおくま座)・北極星(こぐま座)・アルクトルス(うしかい座)・スピカ(おとめ座)・デネブ(はくちょう座)・ベガ(こと座)・アルタイル(わし座)・アンタレス(さそり座)・アルビレオ(はくちょう座)・M13(球状星団)・天の川・木星・土星



天体ドームからの観察

(4) 秋の天体教室

日時 10月21日・10月27日18時～20時30分

会場 天体学習室・天体観測ドーム

資料 「秋の天文現象」等16頁

視聴覚機器材 プラネタリウム・16mm映画「太陽系」

受講者 10月21日59人・10月27日58人

今回学習の方法は前回と同様である。学習観察した星座・惑星は以下のとおりである。ペガサス座・アンドロメダ座・カシオペヤ座・ケフェウス座・ペルセウス座・やぎ座・南のうお座・うお座・くじら座・アンドロメダ大星雲・カシオペヤ座の散開星団・こと座のリング状星雲

(5) 冬の天体教室

日時 昭和60年2月16・17日18時～20時30分

会場 天体学習室・天体観測ドーム

資料 「天体教室—昭和59年度冬」11頁

視聴覚機器材 プラネタリウム・16mm映画

「宇宙大いなる挑戦」・スライド

受講者 2月16日40人・2月17日55人

今回は天候の状態が良くなく、実際に観察した星座・惑星は、オリオン大星雲(M42)・金星のみであった。再び天体学習室へもどり、冬の星座(ぎょしゃ座・ふたご座・こいぬ座・おおいぬ座・オリオン座・おうし座等)をプラネタリウムで学習した後、60年秋から61年春に接近するハレー彗星についてスライドをまじえながら勉強した。



満天の空を見上げる

(6) しめ縄教室

日時 昭和59年12月9日・16日10時～16時

会場 会議室

講師・指導者 山口純一(副館長)・藤森治幸
(専門主事)

教材 わら2把・わらすべ・細紐・針金・タ
イ等の飾物・松の小枝

受講者 各回25人(長野市在住の成人で、初
参加の人に限定)

教材費 500円

持ち物 はさみ・昼食



しめ縄教室

今回の教室は、しめ縄の持つ意味や飾る場所等についての講義をまじえながら、ごぼうじめ・輪じめ・しゃくしじめ・大黒じめ等をつくり上げた。

3) 館内展示案内

博物館に入館するにあたり、見所・注意事項等の案内を事前に行っている。これは主として団体の入館者に対応しているもので、事前の申し込みを原則としている。主な団体は、市内の小学校5年生及び他の児童・生徒の団体・地域育成会・婦人団体等である。

展示室での案内・解説は、説明員が常時館内を巡回しながら行っている。

4) 館外での普及活動

外部機関・団体等による講演会・講習会・学習会などに講師・指導者・解説員として派遣依頼を受けたものについて記す。

事業名	期日	主催	講演	派遣者
野外彫刻めぐり	5月23日	広聴課	自然と彫刻との対話	藤森治幸
"	6月26日	"	"	"
"	9月20日	"	"	"
"	10月28日	"	"	"
長野県警察学校研修	5月23日	長野県警察学校	郷土の歴史	和田博
高校事務研修	6月1日	北信地区公立高校事務研修会	"	"
ふるさと学級	6月23日	芹田公民館	信濃のはじまり	"
"	7月7日	"	制度が整ってきた信濃国	"
"	7月21日	"	現地見学	"
"	8月25日	"	善光寺のはじまり	"
"	9月29日	"	善光寺信仰の隆盛	"
"	10月20日	"	現本堂と善光寺詣り	"
"	11月17日	"	信濃の武士	"
"	12月15日	"	地方武士の争い	"
"	1月19日	"	武田氏と信濃	"
"	2月16日	"	川中島の戦	"
"	3月9日	"	天下統一と信濃	"
長野県警察学校研修	7月18日	長野県警察学校	戦国期の信濃	"
"	8月1日	"	信濃の街道の歴史	"
新任職員後期研修	10月2日	職員研修所	長野市の歴史	矢口忠良

くらしの広場後期研修	9月20日	働く婦人の家	信濃の国づくりを進めた人々	矢口忠良
"	10月3日	"	戦いの時代から松代藩制	和田 博
"	10月15日	"	地方文化と博物館	山口純一
郷土史学級	12月11日	篠ノ井公民館	遺跡の発掘と意義	矢口忠良
"	1月29日	"	条里制と遺跡について	"
母親家庭セミナー	2月23日	更北公民館	古代・中世の生活文化	"

5) 刊行物

名 称	月 日	規 格	備 考
オ三惑星地球	6月1日	A 4 ニッ折	プラネタリウムパンフレット
長野市立博物館	6月20日	B 5 変形ニッ折	入館者用パンフレット
解説パンフレット	7月10日	B 6 両面刷	入館者用 4 種
仕事着	7月14日	B 5・45頁	企画展「仕事着」図録
"	"	A 4 ニッ折	" パンフレット
長野市立博物館	9月5日	B 5 ニッ折	博物館案内パンフレット
合戦場の星	8月30日	A 4 ニッ折	プラネタリウムパンフレット
縄文人のくらし	10月6日	B 5・61頁	特別企画展「縄文人のくらし」図録
"	"	A 4 ニッ折	" パンフレット
アインシュタイン博士の不思議な世界	11月30日	A 4 ニッ折	プラネタリウムパンフレット
博物館だより第 5 号	2月28日	B 5・8 頁	館 報
銀河団を訪ねて	"	A 4 ニッ折	プラネタリウムパンフレット
善光寺信仰	3月31日	B 5・60頁	特別企画展「善光寺信仰」図録
"	"	B 4 両面刷	" パンフレット

6) 博物館実習

目標 大学における学習を基盤にして、博物館の実態にふれ、実務を研修体験することによって
学芸員としての資質を培う。

期間 昭和59年9月14～20日（7日間）

実習生 水野恵子（立正大学文学部）

実習日程概要

月/日	曜日	区分	午 前	午 後	備 考	
9/14	金	研 修	実習心得 (副館長)	常設展示構成 (藤 森)		
9/15	土		受付業務 (中殿)	プラネタリウム受付業務 (大 蔵)		
9/16	日	実 習	常設展示受付案内 (水品)	常設展示案内 (和 田)		
9/17	月		← 発掘調査研究参加 → (青 木)		発掘中止の時は 発掘品整理	
9/18	火		← 企画展準備 → (山口 明)			
9/19	水		企画展準備 (山 口 明)	※他施設見学 (副館長)	※天候などにより 日時の変更あり	
9/20	木		常設展示室業務 (水品)	教育業務研修 (矢口)	常設展示室業務 (久保田)	まとめ

2 資料の分類

資料の分類は大分類・中分類・小分類の3段階分類を行ない、それぞれの分類項目を3桁の数字によって表示する。

A. 大分類

- 000……総集（実物以外の資料をここに収める）
- 100……歴史部門
- 2000…考古部門（考古のみ4桁で表示）
- 300……民俗部門
- 400……自然部門

B. 中分類

別表に示した縦の区分（00～90）が中分類を示す。

C. 小分類

別表に示した横の区分（0～9）が小分類を示す。

中分類と小分類の内容と基準は必ずしも同一ではなく、各部門の性質によって、適宜項目を設定した。中分類・小分類の個々の内容については別表の各部門の分類表を参照されたい。

分類表示は、例えば152と記すと、歴史部門の通貨で近世の資料と解される。また311と表示すると民俗部門・生産生業の農耕を表すことになる。

(000) 【総集】

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
000	一般		ジオラマ パノラマ	模型	複製		パネル (文字)	パネル (図表)	パネル (写真)	視聴覚資料	
010	歴史		〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃	
020	考古		〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃	
030	民俗		〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃	
040	自然		〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃	
050											
060											
070											
080											
090											

●総集には実物資料以外の資料をここに収める。

●一般(000)の記号は各部門にわたるもの及びどの部門にも属さないもの。

(100) 〔歴史部門〕

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
100	一般		中世	近世	近代	現代					
110	文書		〃	〃	〃	〃					
120	典籍		〃	〃	〃	〃					
130	古図		〃	〃	〃	〃					
140	武器(具)		〃	〃	〃	〃					
150	通貨		〃	〃	〃	〃					
160	書画		〃	〃	〃	〃					
170											
180											
190											

- 中世 鎌倉幕府の成立(12世紀末)から徳川幕府の成立まで ●近代 明治維新から太平洋戦争終結まで
 ●近世 江戸時代 ●現代 戦後～今日

(2000) 〔考古部門〕

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2000	一般	土製品	石製品	骨角製品	木製品	金属製品	ガラス製品	自然遺物			その他
2100	旧石器時代	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃
2200	縄文 草創期	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃
2210	縄文 早期	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃
2220	縄文 前期	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃
2230	縄文 中期	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃
2240	縄文 後期	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃
2250	縄文 晩期	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃

●考古部門のみ4桁で表示。

(2000) 〔考古部門〕

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2300	弥生期	土製品	石製品	骨角製品	木製品	金属製品	ガラス製品	自然遺物			その他
2310	弥中	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃
2320	弥後	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃
2400	古前	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃
2410	古中	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃
2420	古後	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃

(2000) 〔考古部門〕

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2500	奈良時代	土製品	石製品	骨角製品	木製品	金属製品	ガラス製品	自然遺物			その他
2600	平安時代	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃
2700	中世	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃
2800	近世	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃
2900	近現代	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃

(300) [民俗部門]

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
300	衣食住		衣生活	食生活	住生活						
310	生産業		農耕	山樵	漁撈	狩猟	養蚕	畜産	整染糸織	手工諸職	
320	交通・運輸		交通	運輸	通信						
330	交易		金融、決済	商業用具	計量具	看板その他	証手書形	印章			
340	社会生活		村の生活	年令集団、講集、集団	家と家族	雇用関係					
350	信仰民俗知識		神仏信仰	神法、事会	信仰用具	巫者祈禱	占呪、いい	医療保健	天文気象数、理	動植鉱物	
360	芸能娯楽		民俗芸能	遊戯、娯楽	童戯						
370	人生儀礼		産育	成人	婚姻	年祝い	喪葬	弔祭			
380	年中行事		正月行事	春の行事	夏の行事	盆行事	秋の行事	冬の行事	歳暮行事		
390	口頭伝承		説話	民謡	生活語その他						総記

●総記は399とする

●分類項目は『日本民俗文化財事典』(文化庁編)に拠った。

(400) [自然部門]

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
400	一般	長野	松代	篠ノ井	若穂	更北	川中島	信更	七二会	市外	県外
410	天文・気象	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
420	地形・地質土壌	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
430	鉱物・岩石	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
440	化石	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
450	火山	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
460	地震	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
470	陸水	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
480	植物	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
490	動物	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

●よこ0の長野地域には芋井・小田切を含む。

IV 博物館収蔵資料

1 購入資料

1) 図 書

角川日本地名大辞典12千葉県	角川書店
日本考古学講座(全7巻)	河出書房
京都府史蹟勝地調査会報告第1冊～第8冊	臨川書店
京都府史蹟名勝天然記念物調査報告(9～20)	"
京都府文化財調査報告21・22	"
京都府史蹟名勝天然記念物調査報告総目次・総索引	"
長野県水産史	長野県漁業協同組合連合会
長野県発掘調査報告書要覧I 1982	長野県考古学会
天竜川上流域地質図・天竜川上流域地質解説書	中部建設協会
阿智村誌(上巻・下巻)・阿智村年表(阿智村誌別冊)	阿智村誌刊行委員会
新潟県史(資料編5・10・12・18・23)	新潟県
津南町史(資料編上巻・下巻)	津南町役場
考証江戸切絵図	三樹書房
史館第11号～第16号	市川ジャーナル社
民族学関係雑誌論文総目録1922～1959	誠文堂新光社
科学新聞縮刷版(1983年1月～6月・7～12月)	科学新聞社
神道大辞典(第1巻～第3巻)	臨川書店
高遠町誌上巻歴史1・2	高遠町誌刊行会
大阪文化財センター調査報告XXX	大阪文化財センター
友井東(3の2)・付図	"
田山遺跡	"
西岩田(本文編・図版編・付図)	"
山賀(その1)	"
山賀(その2)	"
山賀(その3)本文編・図版編・付図	"
山賀(その4)	"
学芸員のための美術品保存の基礎知識(西洋絵画I)	清春芸術村
漢式鏡	雄山閣
古鏡聚英(上篇・下篇)	東京堂出版
奈良六大寺大観(第1巻～第14巻)	岩波書店
角川日本地名大辞典14 神奈川県	角川書店
日本図会全集1～6	吉川弘文館
銀河写真選集	東京大学出版会
日本図会全集2期1～6	日本随筆大成刊行会
日本図会全集3期1	"
浪合村誌(上巻・下巻)	浪合村誌刊行会
考古学研究(第11巻～第17巻)	「考古学研究」復刻版刊行会
長野県史近世史料編第9巻全果	長野県史刊行会
長野県史民俗編第4巻(1)北信地方 日々の生活	"
朝鮮考古資料集成(5・13～17)	出版科学総合研究所
千葉東南部ニュータウン(4～14)	千葉県文化財センター
千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書VII	"
千葉市城の腰遺跡、図版	"
千葉市西屋敷遺跡	"
成田新線建設事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書(I～III)	"

千葉県文化財センター研究紀要 5・6
 千原台ニュータウン I
 千原台ニュータウン II
 茂原市山崎横穴群
 成田市三里塚馬場遺跡
 富津市岩坂大台遺跡
 佐倉市立山遺跡
 芝山町山田古墳群・山田出口遺跡
 千葉市大道遺跡・生実城跡発掘調査報告書
 主要地方道成田松尾線 I
 千葉市谷津台貝塚
 古代玉作形成史の研究
 日本水産製品誌〈復刻版〉
 日本水産捕採誌〈復刻版〉
 江戸学事典
 星百科大事典
 原色日本蝶類生態図鑑(III)
 図録農民生活史事典
 図録山漁村生活史事典
 図録都市生活史事典
 板画絵本 冬のお田植
 OKADAIRA SHELL MOUND AT HITACHI(常陸陸平貝塚)
 土器製塩の研究
 流星とその観測(天体観測シリーズ7)
 日本大古石器考
 月の科学
 新・太陽系
 日本人はどのように建造物をつくってきたか 3 大坂城
 空中写真による日本の火山地形
 毒物及び劇物取締法令集
 戸隠 松瀬孝一写真集
 阿南町の化石
 冬虫夏草菌図譜
 琉球伊波貝塚発掘報告
 信州松本の古作押絵雑
 自然環境の生い立ち 第四紀と現在
 図説天文学における望遠鏡の歴史
 図説 日本大歳時記
 角川日本地名大辞典19(山梨県)
 長野県史 考古資料編(主要遺跡中信・南信)
 琉球萩堂貝塚
 PREHISTORIC JAPAN
 自然環境の変貌
 北陸人類学会誌
 原色新日本高山植物図鑑(II)
 原色日本甲虫図鑑(IV)
 星の方言と民俗
 角川日本地名大辞典9 栃木県
 現代の太陽系科学(上・下)
 仏像のみかた(技法と表現)
 長野県民100年史 1~4
 日本常民生活絵引(第1巻~第5巻・総索引)
 日本原始織物の研究
 地球観測百年
 服飾変遷の原則

千葉県文化財センター
 " "
 " "
 " "
 " "
 " "
 " "
 " "
 " "
 " "
 " "
 吉川弘文館
 岩崎美術社
 "
 弘文堂
 地人書館
 保育社
 柏書房
 "
 "
 ほおずき書籍
 第一書房
 青木書店
 恒星社厚生閣
 第一書房
 岩波書店
 培風館
 草思社
 東京大学出版会
 薬務公報社
 白文社
 阿南町教育委員会
 保育社
 第一書房
 山麓舎
 朝倉書店
 "
 講談社
 角川書店
 長野県史刊行会
 第一書房
 "
 東京大学出版会
 第一書房
 保育社
 "
 岩崎美術社
 角川書店
 東京大学出版会
 第一法規
 榊郷土出版社
 平凡社
 文化出版局
 東京大学出版会
 文化出版局

2) 16mm映画フィルム

木曾山今昔一檜と暮らしの記録 縄文時代	教育映画配給社 教育映画株式会社
------------------------	---------------------

2 寄贈資料

1) 歴史資料

煉革赤漆塗二枚胴具足	岡宮照子 (北石堂町)
------------	-------------

2) 自然資料

(1) 県内産動物化石

学 名	和 名	寄 贈 者
	魚の頭骨	森山 公一 (信濃町)
	クジラの肋骨	矢口 忠良 (篠ノ井)

(2) 県外産化石

学 名	和 名	寄 贈 者
<i>Blackwelderia sinensis</i> (BERGERON)	サンヨウ虫	中塚敬之助 (京都市)
<i>Peronopsis interstridus</i>	"	"
<i>Schedohalysites kitakamiensis</i> SUGIYAMA	クサリサンゴ	"
<i>Falsicatenipora shikokuensis</i> NODA & HAMADA	床板サンゴ	"
<i>Favosites</i> sp.	ハチノスサンゴ	"
<i>Mucrospirifer</i> sp.	腕足貝	"
<i>Pentremites rusticus</i>	ウミツボミ	"
<i>Coelocladia spinosa</i>	海 綿	"
<i>Archimedes terebreformis</i>	蘚 虫	"
<i>Lophophyllum profurdum</i>	四射サンゴ	"
<i>Tabulophyllum</i> sp.	"	"
<i>Siphonodendron pseudomartini</i> (YABE & HAYASAKA)	"	"
<i>Fenestella hikoroichiensis</i> SAKAGAMI	蘚 虫	"
<i>Phricodothyris insolita</i> GEORGE	腕足貝	"
<i>Parafusulina japonica</i> GUMBEL	紡錘虫	"
<i>Yabeina globosa</i> (YABE)	"	"
<i>Bellerophon</i> sp.	ベレロフォン	"
<i>Conodont</i>	コノドント	"
<i>Pentacrinites</i> sp.	五角ウミユリ	"
<i>Belemnitella americana</i> MORTON	矢 石	"
<i>Neohibolites</i> sp.	"	"
<i>Exogyra arietina</i>	二枚貝	"
Fromicidae の一種	羽アリ	"
<i>Elrathia</i> (複製)	サンヨウ虫	"
<i>Calymene</i> (")	"	"
<i>Neuropteris</i> sp.(")	シダ植物	"
<i>Favosites</i> sp.	ハチノスサンゴ	森島 一夫 (名古屋市)
<i>Yabeina</i> sp.	紡錘虫	"
<i>Temnopleurus toreumaticus</i> (LESKE)	サンショウウニ	"

<i>Cladoplebis racidorskii</i>	ZEILLER.R	シダ類	"
<i>Metasequoia glyptostroboides</i>	HU & CHENG	メタセコイア	"
<i>Bellerophon jonesianus</i>	DE KONINCK	ベレロフォン	"
<i>Bellerophon sp.</i>		"	"
<i>Naticopsis</i>		オウム貝	"
<i>Crinoid</i>		ウミユリ	"
<i>Haueliceras</i>		アンモナイト	"
<i>Goudryceras</i>		"	"
<i>Mesopuzosia</i>		"	"
"		"	"
<i>Podozamites</i>		ソテツ類	"
<i>Onychiopsis</i>		シダ類	"
<i>Teredo</i>		テレド	"
		硅化木(メタセコイア)	"
		貝化石	"
<i>Shasticroceras nipponicum</i>	MATSUMOTO	アンモナイト	行松敏明(名古屋市)
<i>Inoceramus japonicus</i>		三角貝	"

3) 民俗資料

分類	収蔵番号	名 称	数 量	寄 贈 者
1・a 衣 (被物) (服物)	59A163	山高帽	1	岡 宮 照 子 (北石堂町)
	59A318	シルクハット	1	佐 藤 その (上田市)
	59A 95	ヤマイショ	1	深 石 よね (飯山市)
	59A105	逓田用上着	1	安 藤 光 行 (若穂綿内)
	59A107	ソデナシ	1	"
	59A111	ミジカ	1	松 本 静 雄 (鬼無里村)
	59A115	ハンテン	2	坂 口 清 子 (荒木)
	59A119	標準服上衣	1	横谷しず代 (神楽橋)
	59A123	綿入着物	1	縣 統 祥 (松代町)
	59A 81	道 行	1	長田たつ代 (稲里町)
	59A138	着物 (島原)	1	岡 宮 照 子 (北石堂町)
	59A 79	単衣着物	1	長田たつ代 (稲里町)
	59A125	"	1	縣 統 祥 (松代町)
	59A 80	袷羽織	1	長田たつ代 (稲里町)
	59A124	"	1	縣 統 祥 (松代町)
	59A117	羽 織	1	丸山けさ子 (稲里町)
	59A116	打 掛	1	"
	59A137	" (しゅす)	1	岡 宮 照 子 (北石堂町)
	59A136	" (ななこ)	1	"
	59A316	ワイシャツ	1	佐 藤 その (上田市)
	59A315	燕尾服 (一式)	4	"
	59A317	蝶ネクタイ	1	"
	59A 82	半巾帯	1	長田たつ代 (稲里町)
	59A118	ダテマキ	1	丸山けさ子 (稲里町)
	59A126	"	1	縣 統 祥 (松代町)
	59A 94	股 引	1	深 石 よね (飯山市)
	59A100	"	1	中 村 忠 義 (若穂綿内)
	59A106	"	1	安 藤 光 行 (若穂綿内)
	59A 98	サルモモヒキ	2	新井八重子 (戸隠村)
	59A103	"	1	大日方喜一郎 (芋井)
	59A104	キナサモンベ	1	"
59A113	モンベ	1	松 本 静 雄 (鬼無里村)	

	59A 99	オマチャレ	1	中村 忠義 (若穂綿内)
	59A114	"	2	坂口 清子 (荒木)
(履物)	59A112	雪 袴	1	松本 静雄 (鬼無里村)
	59A165	足 袋	4	岡宮 照子 (北石堂町)
	59A 96	スンベ	1	深石 よね (飯山市)
	59A 4	駒下駄	1	小池 あい子 (丹波島)
	59A160	朴高下駄	1	岡宮 照子 (北石堂町)
	59A161	塗高下駄	1	"
(裁縫洗濯用具)	59A162	ゴザ打塗下駄	4	"
	59A 3	手まわしミシン	1	小池 あい子 (丹波島)
	59A168	張 板	2	岡宮 照子 (北石堂町)
	59A 75	針 箱	2	中村 典三 (三才)
	59A300	アイロン	1	小川 つね (松代町)
	59A146	洗濯機	1	岡宮 照子 (北石堂町)
1・b 食 (貯蔵具)	59A147	桶	2	岡宮 照子 (北石堂町)
	59A153	"	1	"
(炊事用具)	59A234	タワランバセ	3	桑原 忠慶 (川中島町)
	59A 47	羽 釜	1	塩野入希幸 (坂城町)
	59A 71	広 蓋	2	中村 典三 (三才)
	59A 48	緑巻き縄	1	塩野入希幸 (坂城町)
	59A152	籠	1	岡宮 照子 (北石堂町)
	59A306	米あげ笊	1	小川 つね (松代町)
(醸造製造具)	59A 76	箱 篩	1	中村 典三 (三才)
	59A140	豆つぶし	1	岡宮 照子 (北石堂町)
	59A228	"	1	井堀 五郎 (篠ノ井)
	59A226	みそ釜	1	"
	59A227	みそ釜用かまど	1	"
(調理用具)	59A253	醤油しぼり	1	桑原 忠慶 (川中島町)
	59A 12	こね鉢	1	塩野入希幸 (坂城町)
	59A219	"	1	倉島 忠義 (篠ノ井)
	59A323	"	1	倉崎 安衣 (小島田町)
	59A299	のし板	1	小川 つね (松代町)
(飲食用具)	59A 58	ほうろく	1	北沢 昭男 (川端)
	59A 78	箱 膳	1	中村 典三 (三才)
	59A329	"	2	倉崎 安衣 (小島田町)
	59A309	膳	9	小川 つね (松代町)
	59A220	二の膳	15	倉島 忠義 (篠ノ井)
	59A221	黒漆塗オヒラ	43	"
	59A222	黒漆塗飯椀	49	"
	59A223	黒漆塗汁椀	78	"
	59A 70	おかもち	2	中村 典三 (三才)
	59A 72	ビール瓶	4	"
	59A302	釜 敷	1	小川 つね (松代町)
1・c 住 (イロリ他)	59A 46	かまど	1	塩野入希幸 (坂城町)
	59A 86	鉤つけ	1	稲里町田牧荒屋区
	50A307	ワタシ	1	小川 つね (松代町)
	59A 43	銅 壺	1	塩野入希幸 (坂城町)
	59A232	"	1	桑原 忠慶 (川中島町)
	59A141	十 能	3	岡宮 照子 (北石堂町)
	59A142	火おこし	1	"
(照明具)	59A275	火かき棒	1	"
	59A 84	灯 明	3	稲里町田牧荒屋区

	59A158	ランプ	1	岡宮照子(北石堂町)
	59A 87	火消壺	1	稲里町田牧荒屋区
	59A251	碍子	6	桑原忠慶(川中島町)
	59A 1	原油	2.5瓶	酒井実(浅川)
(暖房具)	59A 65	ランプ	3	中村典三(三才)
	59A308	行火	1	小川つね(松代町)
	59A156	電気こたつ	1	岡宮照子(北石堂町)
	59A157	こたつやぐら	1	"
	59A159	足温器	1	"
	59A166	投げ込みヒーター	1	"
(収納具)	59A259	練炭	2	桑原忠慶(川中島町)
	59A 62	長持	1	北沢昭男(川端)
	59A 88	"	1	小林公太郎(西町)
	59A314	"	1	小川つね(松代町)
	59A310	櫃(衣類)	1	"
(寝具)	59A139	柳行季	4	岡宮照子(北石堂町)
(その他)	59A164	箱枕	2	"
	59A 49	掛時計	1	塩野入希幸(坂城町)
	59A127	風呂敷	1	縣統祥(松代町)
	59A245	野菜ツグラ	1	桑原忠慶(川中島町)
	59A246	ハエ取り器	1	"
	59A303	火吹き竹	1	小川つね(松代町)
	59A305	蛇の目傘	1	"
	59A311	障子	8	"
	59A150	ビク	2	岡宮照子(北石堂町)
2-a 農耕(耕作用具)	59A 36	馬鋤	1	塩野入希幸(坂城町)
	59A143	細鋤	1	岡宮照子(北石堂町)
	59A 37	犁	1	塩野入希幸(坂城町)
	59A213	踏鋤	1	小山積永(西風間)
	59A215	筋引き	1	"
	59A254	筋付け	1	桑原忠慶(川中島町)
	59A 69	田舟	2	中村典三(三才)
	59A101	"	1	中村忠義(若穂綿内)
	59A225	ガンツメ	1	青木保(篠ノ井)
	59A256	"	1	桑原忠慶(川中島町)
	59A 63	田押し車	2	中村典三(三才)
	59A102	田車	1	中村忠義(若穂綿内)
	59A282	カルチベーター	1	北村たけ子(小島田町)
	59A 41	鋤簾	1	塩野入希幸(坂城町)
	59A144	"	1	岡宮照子(北石堂町)
	59A170	麦の土入れ	1	田口直衛(松代町)
	59A313	"	1	小川つね(松代町)
(収穫調製用具)	59A 67	水鉄砲	1	中村典三(三才)
	59A169	稲刈機	1	田口直衛(松代町)
	59A148	篩	1	岡宮照子(北石堂町)
	59A149	箕	1	"
	59A151	籠通し	1	"
	59A 68	万石	1	中村典三(三才)
	59A 2	唐箕	1	宮尾政雄(篠ノ井町)
	59A 89	"	1	深石よね(飯山市)
	59A 55	米選機	2	稲里町田牧荒屋区
	59A240	脱穀機	1	桑原忠慶(川中島町)
	59A 64	土摺白	1	中村典三(三才)
	59A 66	バツタリ	1	"

	59A 28	麦打杵	1	塩野入希幸 (坂城町)
	59A 174	麦のくれたたき	1	田口直衛 (松代)
	59A 39	粃穀焼き用煙突	1	塩野入希幸 (坂城町)
	59A 145	木製柄	1	岡宮照子 (北石堂町)
	59A 260	農用送風機	1	桑原忠慶 (川中島町)
	59A 50	麻袋	1	塩野入希幸 (坂城町)
2・b 山樵	59A 42	トツ (トチ)	7	塩野入希幸 (坂城町)
2・c 漁撈	59A 14	笠	1	塩野入希幸 (坂城町)
	59A 44	追い込み網の縁	1	"
2・d 養蚕	59A 237	稚蚕飼育箱	2	桑原忠慶 (川中島町)
	59A 248	蚕用網かけ	1	"
	59A 31	蚕かご	4	塩野入希幸 (坂城町)
	59A 34	給桑台	1	"
	59A 331	"	1	倉崎安衣 (小島田町)
	59A 22	桑抜き	2	塩野入希幸 (坂城町)
	59A 279	"	3	田口直衛 (松代町)
	59A 18	桑抜き箕	1	塩野入希幸 (坂城町)
	59A 35	桑ボテ	2	"
	59A 236	押し鎌	1	桑原忠慶 (川中島町)
	59A 23	スクラ編み器	1	塩野入希幸 (坂城町)
	59A 252	"	2	桑原忠慶 (川中島町)
	59A 261	繭うけ箕	1	"
	59A 243	繭の毛羽取り器	1	"
	59A 32	蚕室暖房用火桶	1	塩野入希幸 (坂城町)
	59A 33	蚕室暖房用火桶の筒	1	"
2・e 畜産	59A 24	鶏の水くれ	2	塩野入希幸 (坂城町)
	59A 38	牛の爪	7	"
2・f 整糸 (整糸) 染織	59A 273	ネウシ	1	桑原忠慶 (川中島町)
	59A 325	"	1	倉崎安衣 (小島田町)
	59A 301	真綿かけ	2	小川つね (松代町)
	59A 321	"	1	倉崎安衣 (小島田町)
	59A 30	真綿の木枠	1	塩野入希幸 (坂城町)
	59A 25	小枠	13	"
	59A 285	"	15	小川つね (松代町)
	59A 320	"	1	倉崎安衣 (小島田町)
	59A 51	大枠	1	塩野入希幸 (坂城町)
	59A 235	糸枠	30	桑原忠慶 (川中島町)
	59A 21	糸車	1	塩野入希幸 (坂城町)
	59A 74	"	1	中村典三 (三才)
	59A 247	"	1	桑原忠慶 (川中島町)
	59A 324	"	1	倉崎安衣 (小島田)
	59A 7	座繰	1	小池あい子 (丹波島)
	59A 16	"	3	塩野入希幸 (坂城町)
	59A 90	"	1	深石よね (飯山市)
	59A 241	"	2	桑原忠慶 (川中島町)
	59A 286	"	1	小川つね (松代町)
	59A 322	"	1	倉崎安衣 (小島田町)
	59A 13	綿繰器	1	塩野入希幸 (坂城町)
	59A 214	"	1	小山積永 (西風間)
	59A 11	手動再繰機	1	塩野入希幸 (坂城町)

(織機)

59A 15 糸撚機
 59A 290 撚り車
 59A 19 足踏紡毛機
 59A 291 糸かえし台
 59A 17 かな返し
 59A 296 かな返し台
 59A 330 繰上げ台
 59A 292 縞本
 59A 297 経台
 59A 20 整経機
 59A 239 "
 59A 262 高機
 59A 319 "
 59A 298 はたご
 59A 29 機織用具
 59A 295 機くさ
 59A 242 杼(いざり機)
 59A 258 "
 59A 288 "
 59A 327 "
 59A 270 綜統
 59A 271 " (竹製)
 59A 26 糸綜統通し竹
 59A 73 箴
 59A 269 "
 59A 294 "
 59A 332 "
 59A 27 管
 59A 287 "
 59A 293 管巻
 59A 257 伸子
 59A 289 遊びかけ用竹の棒他

2・g 手工 (手工)
識職

59A 53 ゾウリ(ミョウガ製)
 59A 92 ゾウリ(ワラ製)
 59A 93 ゾウリ(トウモロコシ製)
 59A 109 " (")
 59A 110 ゾウリ(竹皮製)
 59A 91 カプト(スゲ製)
 59A 96 スンベ
 59A 108 腰みの
 59A 263 宝船
 59A 268 ゾウリ作り
 59A 45 俵編み
 59A 173 "
 59A 249 俵編み器
 59A 233 縄ない機
 59A 224 ムシロ機
 59A 250 コモデザイン
 59A 77 柿渋しぼり
 59A 133 下駄鼻緒
 59A 326 石臼用手斧
 59A 328 皮靴の鉄打台
 59A 175 道具箱
 59A 176 定規

(諸職)

1 塩野入希幸(坂城町)
 1 小川つね(松代町)
 1 塩野入希幸(坂城町)
 1 小川つね(松代町)
 1 塩野入希幸(坂城町)
 1 小川つね(松代町)
 1 倉崎安衣(小島田町)
 2 小川つね(松代町)
 1 "
 1 塩野入希幸(坂城町)
 1 桑原忠慶(川中島町)
 1 "
 1 倉崎安衣(小島田町)
 1 小川つね(松代町)
 2箱 塩野入希幸(坂城町)
 1 小川つね(松代町)
 1 桑原忠慶(川中島町)
 4 "
 3 小川つね(松代町)
 1 倉崎安衣(小島田町)
 4 桑原忠慶(川中島町)
 1 "
 1 塩野入希幸(坂城町)
 1 中村典三(三才)
 3 桑原忠慶(川中島町)
 13 小川つね(松代町)
 1 倉崎安衣(小島田町)
 1かん 塩野入希幸(坂城町)
 1箱 小川つね(松代町)
 1 "
 3 桑原忠慶(川中島町)
 2 小川つね(松代町)
 2 宮原重勝(上山田町)
 1 深石よね(飯山市)
 1 "
 7 桜井伴(清内路村)
 1 "
 1 深石よね(飯山市)
 1 "
 1 桜井伴(清内路村)
 2 佐々木力男(吉田)
 1 小山積永(西風間)
 1 塩野入希幸(坂城町)
 1 田口直衛(松代町)
 2 桑原忠慶(川中島町)
 1 "
 1 池田輝男(篠ノ井町)
 7 桑原忠慶(川中島町)
 1 中村典三(三才)
 5 小池万吉(中村)
 1 倉崎安衣(小島田町)
 1 "
 2 小山積永(西風間)
 2 "

	59A177	長火鉢等のテカテ	15	小山積永(西風間)
	59A178	鉋(特殊カンナ)	1	"
	59A179	"(ヒラガンナ)	2	"
	59A180	"(キワガンナ)	7	"
	59A181	"(ソトマル)	3	"
	59A182	"(ウチマル)	5	"
	59A183	"(マルガンナ)	1	"
	59A184	"(ソコトリ)	6	"
	59A185	三ツ目錐	6	"
	59A186	錐	3	"
	59A187	坪錐	3	"
	59A188	ホルト錐	1	"
	59A189	手斧	2	"
	59A190	罫引	11	"
	59A191	ハタ(ハタガネ)	10	"
	59A192	ハギダイ	1	"
	59A193	ミシン台	1	"
	59A194	墨壺	1	"
	59A195	ノミ	5	"
	59A196	キガネ	3	"
	59A197	物差	3	"
	59A198	折れ尺	6	"
	59A199	金ヤスリ	7	"
	59A200	紙マスリ	若干	"
	59A201	ツヤダシ	2カン	"
	59A202	金剛砂	1ピン	"
	59A203	刷毛	9	"
	59A204	万力	1	"
	59A205	飾り把手の型	26	"
	59A206	ニカワ	若干	"
	59A207	木釘	"	"
	59A208	トクサ	"	"
	59A209	トノコ	"	"
	59A212	額縁用半製品	1	"
	59A 59	茶精製用ふるい	2	北沢昭男(川端)
	59A 60	茶選別・精製用ふるい	1	"
	59A 61	茶運搬用ざる	1	"
3・a 運輸	59A274	肩下げかご	1	桑原忠慶(川中島町)
	59A244	背負子	1	"
	59A 97	負い縄	1	深石よね(飯山市)
	59A267	馬の荷鞍	1	高橋徹(西鶴賀)
	59A280	リヤカー	1	北村たけ子(小島田町)
3・b 通信	59A 8	16ミリ映写機	1	長野南消防署
4・a 交易	59A 83	棒ばかり	2	稲里町田牧荒屋区
	59A171	"	1	田口直衛(松代町)
	59A172	"	1	"
	59A283	"	1	北村たけ子(小島田町)
	59A217	"	1	小山積永(西風間)
	59A218	皿ばかり	1	"
	59A 85	分銅	1	稲里町田牧荒屋区
	59A284	"	1	北村たけ子(小島田町)
	59A304	"	1	小川つね(松代町)

5・a 社会生活	59A 255	一斗栴	2	桑原忠慶(川中島町)
	59A 56	板木	1	稻里町田牧荒屋区
	59A 54	消防ポンプ	1	"
	59A 278	"	1	宮本昇一(松代町)
6・a 芸能・娯楽	59A 154	テレビ	1	岡宮照子(北石堂町)
	59A 155	ラジオ	1	"
	59A 281	蓄音機	1	北村たけ子(小島田町)
	59A 238	オルガン	1	桑原忠慶(川中島町)
	59A 128	六角凧	2	小池万吉(中村)
	59A 129	四角凧	1	"
	59A 130	奴凧	1	"
	59A 131	連凧	1	"
	59A 132	イカ凧	1	"
	59A 40	下駄スケート	1	塩野入希幸(坂城町)
	59A 277	乗馬用鞍	1	高橋徹(西鶴賀)
59A 312	輪まわし	2	小川つね(松代町)	
7・a 年中行事	59A 52	宝船	1	宮原重勝(上山田町)
	59A 57	雛人形	1	北沢昭男(川端)
	59A 167	御祭礼稚児行列衣装(一式)	1	岡宮照子(北石堂町)

4) 文献資料

東京都の自然 第10号	東京都高尾自然科学博物館
郷土資料館資料シリーズ第23号 石川日記(六)	八王子市教育委員会
岐阜県博物館調査研究報告 第5号	岐阜県博物館
食の文化展	調布市郷土博物館
志賀自然教育研究施設 研究業績 第21号	信州大学教育学部
福井県立博物館開館記念特別展 福井の文化財	福井県立博物館
はだしの峠 一滴鮮記一	堀米和雄
間山	中野市教育委員会
産業文化会館博物館紀要 第6号	産業文化会館博物館
小松市立博物館研究紀要 第21集	小松市立博物館
所蔵品目録 I	"
研究紀要 1	群馬県埋蔵文化財調査事業団
藪田東遺跡	"
広郷8遺跡 (I)	北見市立北見郷土博物館
半田山遺跡発掘調査報告書	浜松市教育委員会
半田山古墳群A小支群・半田山III遺跡	浜松市博物館
特別展 濃飛の戦国武将	岐阜県博物館
研究報告 第6巻	香川県自然科学館
宇和島地方の自然 愛媛の自然文献資料集その2	愛媛県立博物館
愛媛県立博物館展示解説	"
愛媛県立博物館 自然科学普及シリーズ4 小動物の採集と飼育	"
平塚市博物館所蔵資料目録 IV	平塚市博物館
平塚市博物館年報 No.7	"
平塚市博物館研究報告 自然と文化 No.7	"
等々力 世田谷区民俗調査第4次報告	世田谷区教育委員会
世田谷区指定有形文化財 阿弥陀如来坐像修理報告書	"
世田谷の民家 第3集・西部地区調査報告	"
松本市文化財調査報告No.29 松本市下神・町神遺跡	松本市教育委員会
" No.30 松本市前田木下遺跡	"
" No.31 松本市島内遺跡群	"
" No.32 松本市島立南栗遺跡	"

松本市文化財調査報告No.33 推定信濃国府 第2次調査報告書
 豊田市郷土資料館報告21 豊田市郷土資料館収蔵品図録Ⅳ
 文化財グラフ ぎふ 第7号 '84-3
 平出遺跡考古博物館 歴史民俗資料館 紀要 第1集
 第17回企画展 遺跡は語る
 上の台遺跡
 総合研究資料館展示解説 文化史・自然史の研究紹介
 所蔵品目録
 長野県信濃美術館 館報No.4
 特別展図録 玩具の今昔
 記された世界 一大阪府下出土の墨書土器・文字瓦と木簡展—
 第7回企画展 はなひらく 縄文文化
 中 村 長野県佐久市根岸中村遺跡調査報告書
 北海道開拓記念館調査報告 第23号
 " 研究年報 第12号
 北海道開拓記念館収蔵資料分類目録4 産業Ⅰ
 長家家資料目録 北海道開拓記念館一括資料目録 第16集
 資料解説シリーズNo.6 松前藩主・一族書状集・Ⅱ
 " No.7 北海道の馬糧
 神奈川県立博物館人文部門資料目録(6) 工芸品資料目録
 特別展 ひな人形の世界
 板橋区立郷土資料館紀要 第3号
 森將軍塚古墳 一保存整備事業第3年次発掘調査概報—
 横沢遺跡群 Ⅱ
 八幡遺跡群 北稻付遺跡
 屋代遺跡群 大宮遺跡
 博物館資料目録
 いみずの水道
 いみずの水 射水上水道企業団十年史
 新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集 上新バイパス関係遺跡発掘調査報告Ⅰ
 歌舞伎遺跡
 沼津市文化財調査報告書第31集 土手頭南遺跡発掘調査報告書
 金沢市文化財紀要41 金沢市新保本町チカモリ遺跡 一石器編—
 " 42 金沢市畝田・寺中遺跡
 " 43 金沢市高尾公園遺跡
 " 44 金沢市額谷ドウシダ遺跡・金沢市無量寺B遺跡Ⅱ
 " 45 金沢市南新保三枚田遺跡
 " 46 金沢市大友・近岡遺跡
 " 47 金沢市埋蔵文化財調査年報
 小矢部市埋蔵文化財調査報告書第12冊 小矢部市埋蔵文化財分布調査概報Ⅳ
 " 第16冊 " V
 神奈川県立埋蔵文化財センター 年報2
 " 調査報告3 栗原中丸遺跡(付図)
 " 4 裏八幡西谷遺跡
 飯山市埋蔵文化財調査報告第9集 長野県飯山市 田草川尻遺跡Ⅲ
 " 第10集 北町遺跡
 上田市文化財調査報告書第22集 創置の信濃国府跡 推定地確認調査概報Ⅱ
 糠塚古墳・柿沢東遺跡・大原遺跡・中島遺跡
 山寺遺跡
 大町市埋蔵文化財調査報告書第8集 五十畑(遺構編)
 国学院大学文学部考古学実習報告第5集 壬遺跡
 " 第6集 東京都三宅村伊豆 物見処遺跡
 野々間市町御経塚遺跡
 檀原考古学研究所年報 S57年度
 長野県発掘調査報告書要覧 Ⅰ

松本市教育委員会
 豊田市郷土資料館
 岐阜市教育委員会
 塩尻市立博物館
 群馬県立歴史博物館
 佐久市教育委員会
 東京大学総合研究資料館
 長野県信濃美術館
 "
 市立市川歴史博物館
 大阪府立泉北考古資料館
 栃木県立博物館
 佐久市教育委員会
 北海道開拓記念館
 "
 "
 "
 "
 "
 "
 神奈川県立博物館
 大田区立郷土博物館
 板橋区教育委員会
 更埴市教育委員会
 "
 "
 "
 岩手県立農業博物館
 射水上水道企業団
 "
 新潟県教育委員会
 群馬県埋蔵文化財調査事業団
 沼津市教育委員会
 金沢市教育委員会
 "
 "
 "
 "
 "
 "
 小矢部市教育委員会
 "
 神奈川県立埋蔵文化財センター
 "
 "
 飯山市教育委員会
 "
 上田市教育委員会
 塩尻市教育委員会
 茅野市教育委員会
 大町市教育委員会
 国学院大学文学部考古学研究室
 "
 野々間市教育委員会
 奈良県立檀原考古学研究所
 長野県考古学会

ふるさとの山々と生活展
 食の民具展
 もめん展
 真壁地方の考古資料展Ⅱ
 竹と生活展
 大工・木挽・桶・下駄職人の手道具展
 紀 要 1984
 館報 駒 場 野 第35号
 気象庁 地震観測所技術報告 第5号
 群馬県立歴史博物館紀要 第5号
 第18回企画展 漁 具
 調布の古民家
 古代研究 27
 小堀鞆音展
 富山県水見市 小久米古墳群・小久米A遺跡試掘調査報告書
 石動山信仰文化展
 石動山信仰遺跡遺物調査報告書
 読谷村立歴史民俗資料館年報 第9号
 昭和59年度 運営打合せ会議資料
 松代群発地震資料報告 No.21
 植物と自然 第7巻 第9号 抜刷
 動植物目録
 自然教育園報告 第15号
 三沢西原遺跡
 縄文から弥生へ
 焼きもののふる里 篠 窯 跡 群
 京都府埋蔵文化財情報 第8号
 " 第9号
 " 第10号
 " 第11号
 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第11集 針ヶ谷新田古墳群
 " 第12集 上の原古墳・向山根遺跡・二ヶ山遺跡
 " 第13集 鶴舞塚古墳
 " 第14集 聖山公園遺跡Ⅱ
 中 尾 (遺物篇)
 岐阜県恵那市 正家積石塚群
 待兼山遺跡
 御経塚ツカグ遺跡(御経塚B遺跡)発掘調査報告書 I
 尼崎市猪名寺廃寺跡
 広島市の文化財第26集 九郎杖遺跡 権地遺跡 発掘調査報告
 " 第27集 佐久良遺跡発掘調査報告
 " 第28集 末光遺跡群発掘調査報告
 " 第29集 中畦遺跡発掘調査報告
 " 第30集 広島経済大学構内遺跡群 発掘調査報告
 奈良県遺跡調査概報 (第1分冊)
 " (第2分冊)
 埼玉県立自然史博物館研究報告 第2号
 教育普及部門研究報告1 博物館周辺の自然観察路の開発(その1)
 " 2 視覚障害者による触察とその考察
 " 3 自然史博物館から見た自然観の育成
 仙台市科学館時報 第16号
 小諸市埋蔵文化財発掘調査報告第7集 曾根城遺跡
 研究連絡誌 第4号
 富津市 岩坂大台遺跡
 信濃の古代寺院

真壁町歴史民俗資料館
 " "
 " "
 " "
 " "
 下諏訪町立博物館
 東京都近代文学博物館
 気象庁地震観測所
 群馬県立歴史博物館
 " "
 調布市郷土博物館
 西山 要 一
 佐野市郷土博物館
 水見市教育委員会
 水見市立博物館
 水見市教育委員会
 読谷村教育委員会
 松代地震センター
 " "
 堀 米 和 雄
 国立科学博物館附属自然教育園
 " "
 静岡県菊川町教育委員会
 帝塚山考古学研究所
 京都府埋蔵文化財調査研究センター
 " "
 " "
 " "
 " "
 宇都宮市教育委員会
 " "
 " "
 " "
 " "
 群馬教育委員会
 南山大学人類学博物館
 大 阪 大 学
 石川県野々市町教育委員会
 尼崎市教育委員会
 広島市教育委員会
 " "
 " "
 " "
 奈良県立橿原考古学研究所
 " "
 埼玉県立自然史博物館
 " "
 " "
 " "
 仙台市科学館
 小諸市教育委員会
 千葉県文化財センター
 " "
 上田市立信濃国分寺資料館

特別陳列 祈りのかたち 奉納和船	京都府立丹後郷土資料館
尾崎遺跡	大分市教育委員会
鳥取県の自然と歴史 6 久松山 鳥取城	鳥取県立博物館
全国博物館館職員録	日本博物館協会
北見郷土博物館紀要 第14集	北見郷土博物館
小淵沢町の集い ものを通して見た生活文化の変遷 「ワラの文化」を考える	「ワラの文化」研究会
宇都宮市埋蔵文化財報告10 宇都宮の遺跡	宇都宮市教育委員会
筏 遺跡 II	小川村教育委員会
千葉県市原市 皿郷田茂遺跡	市原市教育委員会
〃 豊成作ノ丈遺跡 調査報告	〃
〃 辰巳ヶ原遺跡 発掘調査報告	〃
上総国分寺台発掘調査概要Ⅱ 諏訪台古墳群	〃
小諸市埋蔵文化財発掘調査報告第8集 久保田	小諸市教育委員会
栗原遺跡 第7次・第8次発掘調査報告書	新井市教育委員会
特別展図録 土偶 一繩文人の祈り一	八戸市博物館
月岡遺跡発掘調査報告書	新井市教育委員会
川越石窯址	佐久市教育委員会
千葉県文化財センター 研究紀要 8	千葉県文化財センター
研究連絡誌 第5号	〃
〃 第6号・	〃
〃 第7・8合併号	〃
千葉県文化財センター年報 No.9	〃
成東町真行寺廃寺跡研究調査報告	〃
房総考古学ライブラリー1 先土器時代	〃
近世村落における農村荒廃と復興	水野恵子
C4 小野地区遺跡群 一平安時代の水田址と住居址の調査一	藤岡市教育委員会
小野地区遺跡群 C4 昭和55年度発掘調査概報	〃
里浜貝塚 I	東北歴史資料館
栃原岩陰遺跡発掘調査報告書	信州大学
野際遺跡 II・III地点発掘調査概報	磐田市教育委員会
匂坂上2号遺跡・遠江国分寺跡周辺発掘調査概報	〃
若宮遺跡(周防畑遺跡群)	佐久市教育委員会
佐久市遺跡群細分布調査報告書	〃
埼玉県立博物館 紀要 5	埼玉県立博物館
〃 6	〃
〃 7	〃
〃 8・9	〃
〃 10	〃
新装開館記念特別展 武蔵武士	〃
埼玉県立博物館館有資料目録 1	〃
〃 2	〃
〃 3	〃
埼玉県立博物館展示解説 郷土学習	〃
〃 歴史 I	〃
〃 〃 II	〃
〃 古美術	〃
〃 近代美術	〃
〃 民俗	〃
芭蕉と清風 おくのはそ道・尾花沢	芭蕉清風歴史資料館
郷土史 真島本道	小山義登
第25回 特別展 アイヌの装い	北海道開拓記念館
北海道開拓記念館 要覧	〃
信濃路	信濃路出版(株)
昭和58年度 埋蔵文化財調査概報 三沢西原遺跡	静岡県菊川町教育委員会

綾羅木川下流域の条里遺構
 伊倉遺跡
 綾羅木郷遺跡
 埋もれていた郷土の古代 最近の調査の成果
 正家1号窯発掘調査報告書
 特別展 美濃の蘭学
 弘前の文化財
 弘前の文化財 一考古一
 開館10周年記念特別展 甲州街道
 特別展 南米ポリビアの化石展
 新豊院山墳墓群 D地点調査概報
 開館5周年記念 第19回企画展 街道
 鹿島町徳前C遺跡調査報告(Ⅳ)
 輪島市三井新保遺跡
 七尾市古府タブノキダ遺跡
 押水町宿向山遺跡 第1次発掘調査概報
 鳥井田・横吹・城の腰・安岡城遺跡
 若狭小浜城跡
 常設展示図録
 埼玉県入間東部地区の民俗 民俗社会
 " 民具
 上福岡市遺跡調査報告書
 川崎遺跡(第3次)長官遺跡発掘調査報告書
 埋蔵文化財の調査(Ⅲ)
 " (Ⅳ)
 " (Ⅴ)
 " (Ⅵ)
 長官遺跡第8次の調査
 羽場堀之内遺跡
 七瀬町誌
 西郷孤月画集
 縄文図譜 第1~3
 安源寺
 立教大学博物館研究
 古代の装い
 10年のあゆみ
 仙石氏史料展
 八王子の織物 養蚕から織物まで
 気象庁 地震観測所
 奈良県 遺跡調査概報(第一分冊)
 " (第二分冊)
 馬渡埴輪製作遺跡
 長野盆地周縁の地質構造
 森遺跡 中I遺跡 中II遺跡
 年報 一三一
 縄文人の祈り 樺山・八天・九年橋
 縄文の風景 大地と呪術
 鳥浜貝塚
 平城京 左京 三条二坊三坪発掘調査報告
 羽場堀之内遺跡
 明治大学刑事博物館年報
 明治大学刑事博物館資料 第6集
 牧野義雄・敏太郎展
 水見市立博物館年報 第2号
 昭和58年度 市立市川考古博物館年報

下関市教育委員会
 "
 "
 小松市立博物館
 名大 齊藤基生
 岐阜県博物館
 弘前市教育委員会
 "
 "
 調布市郷土博物館
 富山市科学文化センター
 磐田市教育委員会
 群馬県立歴史博物館
 石川県立埋蔵文化財センター
 "
 "
 "
 伊那市教育委員会
 小浜城跡発掘調査団
 上福岡市教育委員会
 "
 "
 "
 "
 "
 "
 "
 千曲川水系古代研究所
 中川政幸
 信濃毎日新聞社
 尖石考古館
 中野市教育委員会
 立教大学
 鳥根県立八雲立つ風土記の丘
 秋田県立博物館
 上田市立博物館
 八王子市郷土資料館
 松代地震センター
 奈良県立橿原考古学研究所
 "
 勝田市教育委員会
 富沢恒雄
 群馬県教育委員会
 群馬県埋蔵文化財調査事業団
 北上市立博物館
 岩手県立博物館
 福井県教育委員会
 奈良県教育委員会
 上山田町教育委員会
 明治大学刑事博物館
 "
 豊田市教育委員会
 水見市立博物館
 市立市川考古博物館

熊襲と隼人 南九州の古代社会
 縄文時代の酒造具 有孔罎付土器展
 下総国分尼寺跡 II
 開館5周年記念特別展 描かれた大田区
 昭和58年度 市立市川歴史博物館年報
 市川市史料目録 第1集
 縄文時代の気仙
 近江の縄文時代
 市内遺跡発掘調査報告書
 仁川旭ヶ丘古墳群調査報告
 安倉地区埋蔵文化財試掘調査報告書
 宝塚市指定文化財図録
 宝塚市雲雀山古墳群
 摂津万籟山古墳
 仁川高台弥生遺跡
 長尾山の古墳群調査集報
 宝塚市指定文化財図録
 摂津旧清遺跡
 縄文時代の石器 一その石材の交流に関する研究一
 貝塚博物館紀要 第11号
 十三塚 現況調査編
 細 田
 市原市史資料集(古代編)
 " (中世編)
 市原市史 下巻
 " 別巻
 宿 場 展
 熊野堂遺跡(I)
 信濃 御殿田
 信濃土器洞窯跡
 飯田風越窯跡
 朝臣洞窯跡
 下伊那郡鼎町日向田遺跡とその遺物
 伊那谷南部における初期仏教文化とその歴史的背景
 大釜遺跡 金山古墳群
 武蔵野郷土館展示案内 I
 佐野市の文化財展
 八幡屋礒五郎の七味唐がらし
 三島の文化財展
 大鳥羽遺跡 I
 箱清水遺跡(2)
 石川条里的遺構 上駒沢遺跡
 天 神 沢
 条里制の諸問題 II
 富山市考古資料館紀要 第1号
 発掘された古代の水田
 越後上布・小千谷縮
 結 城 紬
 史跡赤穂跡本丸発掘調査報告書 I
 周世入相遺跡発掘調査報告書
 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報 第6集
 川崎市文化財調査集録
 県史跡 西福寺古墳
 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報 第7集
 横 尾

浜松市博物館
 山梨県立考古博物館
 市川市教育委員会
 大田区立郷土博物館
 市立市川歴史博物館
 "
 大船渡市立博物館
 滋賀県立近江風土記の丘資料館
 勝田市教育委員会
 宝塚市教育委員会
 "
 "
 "
 "
 "
 "
 "
 千葉市立加曾利貝塚博物館
 "
 平 凡 社
 佐久市教育委員会
 市原市教育委員会
 "
 "
 "
 丸子町郷土博物館
 群馬県教育委員会
 下伊那歴史考古学研究所
 下伊那考古学研究所
 "
 "
 遮那真周 遮那藤麻呂
 "
 群馬県教育委員会
 東京都公園協会
 佐野市郷土博物館
 信州の旅社
 三島市郷土館
 上中町教育委員会
 長野市遺跡調査会
 "
 森 章 彦
 奈良国立文化財研究所
 青 木 和 明
 "
 山 口 明
 "
 赤穂市教育委員会
 "
 佐賀県教育委員会
 川崎市教育委員会
 "
 佐賀県教育委員会
 川上村教育委員会

川上村遺跡詳細分布調査報告書
 折戸80号窯発掘調査報告書
 日進町の地質
 株山地区埋蔵文化財発掘調査報告書
 条里制の諸問題 III
 公立文化会館運営状況調査
 二子・溝口 宿場の民俗
 赤穂の民俗その一 坂越編
 所蔵品目録 I
 信州書芸展図録
 よみがえった久保泉丸山遺跡
 第三文明展
 物見処遺跡
 多摩ニュータウン遺跡 昭和57年度 第1分冊
 " 第2分冊
 " 第3分冊
 " 第4分冊
 " 第5分冊
 文化財学報 第三集
 小田原城跡八幡山遺構群
 神奈川県立埋蔵文化財センター 年報3
 森山塚
 東京都埋蔵文化財センター 年報3
 曾根城遺跡
 久保田
 舞台遺跡
 塚穴遺跡 鞍掛遺跡 天神遺跡
 川越石窯址
 若宮遺跡
 考古学論叢 第8冊
 " 第9冊
 三郷町 平 隆 寺
 見田 大沢古墳群
 おじいちゃんの時代展 子どもの暮らし
 十年の歩み
 ワラと生活 藁
 みくにの文化財
 佐久市遺跡詳細分布調査報告書
 中部高地の考古学 III
 いちはら'84 市原市 市勢要覧
 紀 要
 ガイドブック 秋吉台の地質
 秋吉台の自然を子供たちと学ぶために 第1集
 " 第2集
 " 第3集
 秋吉台の自然観察
 秋芳洞の研究史 —秋芳洞の文献目録—
 秋吉台科学博物館報告 第18号
 " 第19号
 自然の驚異 秋芳洞・秋吉台
 スペイン絵画・ベラスケスとその時代
 アンドリュウワイエス展
 近代日本美術史におけるパリと日本
 サンパウロ美術館展
 ロビンソン・コレクションを中心に フランス名作展

川上村教育委員会
 日進町教育委員会
 "
 "
 奈良国立文化財研究所
 文化庁文化部文化普及課
 川崎市教育委員会
 赤穂市教育委員会
 小松市立博物館
 信州書芸会
 佐賀県教育委員会
 第三文明展実行委員会
 国学院大学文学部考古学研究室
 東京都埋蔵文化財センター
 "
 "
 "
 "
 "
 奈良大学文学部文化財学科
 神奈川県立埋蔵文化財センター
 "
 国学院大学文学部考古学研究室
 東京都埋蔵文化財センター
 小諸市教育委員会
 "
 東部町教育委員会
 "
 佐久市教育委員会
 "
 榎原考古学研究所
 "
 "
 調布市郷土博物館
 "
 三島市郷土館
 三国町教育委員会
 佐久市教育委員会
 長野県考古学会
 市原市広報公聴課
 富山県自然博物館「おいの里」
 秋吉台科学博物館
 "
 "
 "
 "
 "
 "
 森 山 公 一
 "
 "
 "
 "

ゴヤ展	森山公一
ティグリス=ユーフラテス文明展	"
インカ黄金の秘宝展	"
フランス文明の源流展	"
ボナール展	"
ボラルコレクション	"
マチスと野獣派展	"
科学者 レオナルド ダビンチ展	"
松方コレクション長野展	"
未知の遺産 マヤ文明の秘宝展	"
アステカ文明展	"
インカ文明とミイラ展	"
イタリア・ルネッサンスのブロンズと素描	"
ベルシャ美術展	"
古代アンデス文明展	"
モネ展	"
インカ帝国の秘宝展	"
博物館 明治村	"
古代オリエント展	"
近代日本美術の歩み展	"
弁天池北遺跡(別冊・別図付)	山口明
東京八王子市石川天野遺跡 1979年度調査 B地区第八小学校裏遺跡A地区	"
" 1980年度調査	"
" 1981年度調査	"
深沢遺跡・小田野城跡 一発掘調査概報一(別図付)	"
伊場遺跡発掘調査報告書第5冊 伊場遺跡遺物編3(本文編)	浜松市教育委員会
半田山B古墳群(Ⅳ) 初生遺跡発掘調査報告書 一先端産業施設建設予定地内の調査その2-	"
篠ノ井公民館ふるさと学級 ふるさとの遊び	篠ノ井公民館
1985年刊 美術家名鑑	美術倶楽部
長野県勢要覧 S59年版	長野県
青柳寄居遺跡 発掘調査報告書	前橋市教育委員会
後閑Ⅱ遺跡 S	"
端気遺跡群 Ⅱ	"
小神明遺跡群 Ⅱ	"
柿木遺跡	"
昭和58年度 文化財調査報告書 第14集	"
元総社明神遺跡 Ⅱ S59.3	"
芳賀団地遺跡群第1巻 芳賀東部団地遺跡Ⅰ 一古墳~平安時代編その1-	"
坊山遺跡 S58年度	"
穂別町立博物館研究報告 第1号	穂別町立博物館
志賀自然教育研究施設 研究業績 第22号	信大教育学部
第10回企画展 中世下野の仏教美術	栃木県博物館
土 偶	水戸市立博物館
上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告第1集 十二原遺跡・大原遺跡・前中原遺跡	群馬県教育委員会
駒方古屋遺跡 発掘調査報告書	別府大学附属博物館
山形県立博物館研究報告 第5号	山形県立博物館
紅花関係資料所在目録	"
宮内熊野大社史	宮内熊野大社
群馬県立歴史博物館年報 第5号	群馬県立歴史博物館
執 睨 録	別府大学附属博物館
展示解説 かわちのくに	東大阪市立郷土博物館
植物目録	箱根町立箱根湿生花園
国学院大学 考古学資料館要覧	国学院大学考古学資料館
年報 1	群馬県埋蔵文化財調査事業団
" 2	"

年報 3

善光寺如来縁起 元禄5年版
遺跡調査室年報Ⅲ S57年度
博物館の管理・運営に関する調査研究報告書
奈良県文化財調査報告書第42集 二上山北麓石器製作遺跡の調査
国立科学博物館専報 第17号
神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告7 小池遺跡
長野県上高井郡高山村四ツ谷遺跡群 八幡添遺跡
京都府埋蔵文化財情報 第12号
昭和59年度 国文学研究資料館 要覧
長野県更埴市八幡遺跡群 北稻付遺跡
橿原考古学研究所年報 S58年度
第4回 小中学生宇宙展作品目録
法音寺 一永遠との語らいを求めて
緑と太陽 尾張あさひ
中国古代文物展図集
長野市の埋蔵文化財第16集 石川条里的遺構(3) 付 上駒沢遺跡
望月町文化財調査報告書第15集 望月城跡
郷土資料館資料シリーズ第24号 石川日記(7)
東京都の自然 第11号
八王子市郷土資料館 考古資料収蔵目録I
甲斐善光寺
読谷村民話資料集6 字座の民話
国学院大学考古学資料館紀要 第1集
国学院大学 博物館学紀要 第9集
特別展 昔の民俗学
稲作の作期拡大のための技術進歩の過程
沼津市文化財調査報告第32集 興国寺城跡伝天守台跡・伝東船着場跡発掘調査報告書
" 第34集 築地鼻北遺跡発掘調査概報
第32回 全国博物館大会報告書
鑄師屋遺跡群 野火付遺跡
豊田市郷土資料館報告22 豊田市郷土資料館収蔵品図録V
研究報告 第7巻
古戦場の村々の記録
沖繩の船 サバニ
第2回特別展 北前船と越前・若狭
博物館の概要
福井県立博物館 常設展示図録
小松市立博物館研究紀要 第22集
所蔵品目録II
小諸市埋蔵文化財発掘調査報告第9集 宮ノ反
尼崎市文化財調査報告第17集 尼崎の農具
調府の年中行事
収蔵品展 木とくらし
年報
目で見える八戸の歴史2 縄文の美
浜松市半田山遺跡(Ⅲ)・下滝遺跡(Ⅰ) 発掘調査報告書
1985年2月 引佐郡三ヶ日町殿畑遺跡
宮反 一宮反遺跡緊急発掘調査報告書一
長野市統計書 S58年版
特別展 濃飛の縄文時代
岐阜県博物館調査研究報告 第6号
ガイドブック6 平塚の遺跡 見つける・調べる・歩く
平塚市博物館資料No.31 湘南植物誌I
" No.32 大磯丘陵の地質3

群馬県埋蔵文化財調査事業団
小林一郎
立正大学熊谷校地遺跡調査室
日本博物館協会
奈良県立橿原考古学研究所
国立科学博物館
神奈川県立埋蔵文化財センター
高山村教育委員会
京都府埋蔵文化財調査研究センター
国文学研究資料館
更埴市教育委員会
奈良県立橿原考古学研究所
千葉市立郷土資料館
法音寺
尾張旭市
長崎中国歴代博物館
長野市教育委員会
望月町教育委員会
八王子市教育委員会
東京都高尾自然科学博物館
八王子市郷土資料館
甲斐善光寺
沖繩県読谷村教育委員会
国学院大学考古学資料館
国学院大学博物館学研究室
静岡市立登呂博物館
岩手県立農業博物館
沼津市教育委員会
"
日本博物館協会
御代田町教育委員会
豊田市郷土資料館
香川県自然科学館
川中島町公民館
白石勝彦
福井県立博物館
"
"
小松市立博物館
"
小諸市教育委員会
尼崎市教育委員会
調府市郷土博物館
"
福井県立若狭歴史民俗資料館
八戸市博物館
浜松市教育委員会
三ヶ日町教育委員会
中野市教育委員会
長野市企画調整部
岐阜県博物館
"
平塚市博物館
"
"

平塚市博物館年報 No.8
 富山県氷見市 小久米A遺跡発掘調査報告書
 氷見の石造美術
 平塚市博物館研究報告 自然と文化 No.8
 福岡市立歴史資料館 研究報告 第9集
 歴 博 第9号
 国立歴史民俗博物館 研究報告 第5集
 長野県アトラス 風土・生活・歴史
 飯山市埋蔵文化財調査報告第11集 長野県飯山市長者清水・水の沢遺跡
 県単道路改良事業(沢波・高遠線伊那市中殿島)一緊急発掘調査報告一 宮場岡様1号墳
 広域営農団地農道整備事業(長野県伊那西部地区)一緊急発掘調査報告一 小沢原遺跡
 国営伊那西部農業水利事業 一緊急発掘調査報告一 名廻・北丘B・柳沢・山の下遺跡
 上田市文化財調査報告書第23集 原田遺跡
 " 第24集 染屋台糸里水田跡遺跡調査概報 創置の信濃国跡推定地確認調査概報
 山ノ神 一長野県塩尻市山ノ神遺跡発掘調査報告書一
 堂の前・福沢・青木沢 塩尻東地区県営圃場整備事業発掘調査報告書
 郷土の文化財15 梨久保遺跡(写真図版編)
 大田市埋蔵文化財調査報告書第6集 借馬遺跡Ⅲ・追分遺跡・前田遺跡・南原遺跡
 " 第9集借馬遺跡Ⅳ・花見遺跡
 広郷8遺跡(Ⅱ)
 収蔵資料目録 第1集 西区拾六町ツイ遺跡
 日本産新生代貝類の群集特性 研究成果要旨集
 第20回企画展 弥生文化と日高遺跡
 大官大寺 一飛鳥最大の寺一
 研究調査報告書第12集
 沼津市文化財調査報告第33集 寺林南遺跡発掘調査報告書
 " 第35集 埋蔵文化財発掘調査報告書
 展示解説(理工編) 一水と管の世界一
 沼津市明治史料館 江原紫六記念館
 特別展 万博の殿様
 福井市立郷土自然科学博物館研究報告
 研究紀要 第7号
 山形県の絵馬 一所在目録一
 檀原考古学研究所紀要 考古学論叢
 安房・華房蓮華寺跡の調査
 昭和60年度事業計画
 細川家コレクションを中心とした 中国の仏像展
 研究紀要 一2一
 文化財を守るために No.24
 " No.26
 シンポジウム「文化財と自然環境を守る」浜松大会発表要旨
 '85特別展 古代人の衣・食・住Ⅲ 古代の住まい
 氷見市立博物館年報 第3号
 池ノ内遺跡発掘調査概報
 市原市文化財センター調査報告書第2集 石川城郭跡
 " 第3集 片又木遺跡
 京都府埋蔵文化財情報 第13号
 神奈川県川崎市 細山代官山遺跡
 川崎市 文化財調査集録 20
 東京都埋蔵文化財センター調査報告第5集 多摩ニュータウン遺跡 S58年度(第1分冊)
 " " (第2分冊)
 " " (第3分冊)
 " " (第4分冊)
 " " (第5分冊)
 " " (第6分冊)

平塚市博物館
 氷見市教育委員会
 氷見市博物館
 平塚市博物館
 福岡市立歴史資料館
 国立歴史民俗博物館
 " "
 平凡社
 飯山市教育委員会
 伊那市教育委員会
 " "
 " "
 上田市教育委員会
 " "
 塩尻市教育委員会
 " "
 岡谷市教育委員会
 大田市教育委員会
 " "
 北見市郷土博物館
 福岡市埋蔵文化財センター
 昭和59年度科学研究費補助金一総合研究A:59340053一
 群馬県立歴史博物館
 飛鳥資料館
 浦和市立郷土博物館
 沼津市教育委員会
 " "
 富山市科学文化センター
 沼津市明治史料館
 水戸市立博物館
 福井市立郷土自然科学博物館
 埼玉県立歴史資料館
 山形県立博物館
 奈良県立檀原考古学研究所
 立正大学文学部考古学研究室
 山形県立博物館
 熊本県立美術館
 群馬県埋蔵文化財調査事業団
 文化財保存全国協議会
 " "
 " "
 鳥根県立八雲立つ風土記の丘
 氷見市博物館
 米子市教育委員会
 千葉県市原市文化財センター
 " "
 京都府埋蔵文化財調査研究センター
 細山代官山遺跡発掘調査団
 川崎市教育委員会
 東京都埋蔵文化財センター

東京都埋蔵文化財センター調査報告第5集 多摩ニュータウン遺跡 S58年度(第7分冊)
 東京都埋蔵文化財センター 年報4 S58年度
 " 研究論集III
 浦和市遺跡調査会報告書第44集 松木・三室・南宿南・馬場小室山遺跡発掘調査報告書
 " 第45集 大間木内谷・和田北・和田南・西谷・宮前遺跡発掘調査報告書
 " 第46集 井沼方遺跡(第7次)発掘調査報告書
 " 第47集 東原遺跡発掘調査報告書
 " 第48集 大古里遺跡(第6地点)発掘調査報告書
 宇都宮市埋蔵文化財報告第1集(再版) 牛塚古墳
 " 第15集 駒生道下塚
 " 第16集 権現山古墳
 " 第17集 稻荷古墳
 " 第18集 聖山公園遺跡
 " 第19集 瓦塚古墳群・日満遺跡
 国学院大学文学部考古学実習報告第9集 北堂C遺跡・明神堂遺跡
 " 第10集 物見処遺跡
 東京大学文学部 考古学研究室研究紀要 第3号
 金沢市文化財紀要50 金沢市東市瀬遺跡
 " 52 金沢市松寺遺跡
 " 53 金沢市千木イワスクリ遺跡
 " 54 金沢市新保本町東遺跡・西遺跡・金沢市近岡カントンボ遺跡
 " 55 昭和59年度 金沢市埋蔵文化財調査年報
 長者ヶ平
 長者ヶ平遺跡 II
 " III
 " IV
 豊沢貝塚
 中村遺跡
 秋田県立博物館研究報告 第10号
 埼玉県立自然史博物館研究報告 第3号
 松代藩文化施設の概要
 生活科学資料室収蔵品目録 第1集
 " 第2集
 聖母女学院短期大学研究紀要第14集(抜刷) 生活用具に関する研究
 年報 第1号 S58年度
 研究紀要 第1巻
 学秀・津要仏 ふるさとの仏像
 産業文化会館博物館紀要 第7号
 長野県更埴市 横沢遺跡群
 松本市文化財調査報告No.34 松本市赤木山遺跡群I
 " No.35 松本市島立南栗・北栗遺跡, 高綱中学校遺跡, 条里的遺構
 " No.36 松本市島内遺跡群 北方遺跡・南中遺跡
 " No.37 推定信濃国府 一第3次調査報告書一
 相原遺跡
 森將軍塚古墳 一保存整備第4年次発掘調査概報一
 せたがやの文化財
 大迫町埋蔵文化財報告第10集 観音堂遺跡 一第6次発掘調査概報一
 奥 沢 世田谷区民俗調査第5次報告
 瑞浪市化石博物館研究報告 第11号
 日田の文化財
 日田文化 28
 S59年度 グラントヤ古墳群発掘調査概報
 日本の歴史と文化 国立歴史民俗博物館展示案内
 写真と文字で綴る 麦作りとその用具
 特別展図録 埋もれていた日用品の美

東京都埋蔵文化財センター
 "
 "
 浦和市遺跡調査会
 "
 "
 "
 "
 "
 宇都宮市教育委員会
 "
 "
 "
 "
 "
 "
 国学院大学文学部考古学研究室
 "
 "
 東京大学文学部考古学研究室
 金沢市教育委員会
 "
 "
 "
 "
 "
 長野市南千歳町 高木厚史
 "
 "
 "
 "
 "
 "
 秋田県立博物館
 埼玉県立自然史博物館
 松代藩文化施設管理事務所
 聖母女学院短期大学生生活科学資料室
 "
 "
 八戸市博物館
 "
 "
 川崎市立産業文化会館
 更埴市教育委員会
 松本市教育委員会
 "
 "
 "
 高木厚史
 更埴市教育委員会
 世田谷区教育委員会
 岩手県大迫町教育委員会
 世田谷区教育委員会
 瑞浪市化石博物館
 日田市教育委員会
 "
 "
 国立歴史民俗博物館
 埼玉県立歴史資料館
 大田区立郷土博物館

3 寄託・借用資料

開館時から常設展示用資料として寄託・借用されたものが、本年度末で契約が切れることになった。このため引き続き向う3年間の契約を改定したものは、以下のとおりである。

名 称	数量	寄託・借用者	(繩)垂玉		
両耳付甕形土器	1	島田ちづ枝(信更町)	石 鏃	1	信田小学校
土 器 片	2箱	"	石 鏃	38	熊井恒雄(浅川)
打製石斧	11	"	石匙(縦形3・横形3)	6	"
横刃形石器	5	"	石 鏃	4	"
スクレイパー	8	"	凹 石	2	"
石 鏃	6	"	打製石斧	3	"
箱清水式土器大壺	1	穂苅綱夫(篠ノ井)	磨製石斧	4	"
" 丹塗壺	1	"	直 刀	5	浅川東条公民館
埴輪円筒棺	1	川柳将軍塚保存会	刀 子	6	"
湯ノ入遺跡出土壺	3	"	鉄 鏃	13	"
" 甕	5	"	轡	2	"
" 浅鉢	1	"	金 環	3	"
" 埴	1	"	勾 玉	2	"
国鉄車輛基地遺跡出土壺	3	神保美見(中 越)	管 玉	9	"
" 甕	3	"	丸 玉	5	"
" 小形甕	2	"	ガラス玉(大)	12	"
" 甗	1	"	" (小)	8	"
" 蓋	2	"	滑石製小玉	11	"
口留番所(覚一正徳3年)	1	鈴木守雄(小川村)	土 錘	1	"
穀物通切手(木製)	1	"	伊勢宮遺跡出土扁平片刃石斧	1	塩崎文化財保存会
馬通切手(木製)	1	"	" 太形蛤刃石斧	1	"
和田英肖像画写真	1	和田一雄(町田市)	" 打製石斧	1	"
和田英自筆原稿六工社寄宿人名簿	4	"	" 打製石包丁	3	"
富岡日記(続)一部清書	3	"	" 石鏃	3	"
" 六工社創業2年目の春原稿	11	"	銅 鈴	1	小島貞雄(篠ノ井)
" 第2年目開業原稿	10	"	銅鈴石製模造品	1	"
わが母の記原稿	7	"	子持勾玉	3	更級横田神社
御雇仏国人フムエナ条約書	16	"	土 錘	1	"
写 真	2	"	カップ形土器(須恵器)	1	清野小学校
善光寺道標	1	三才区	獸脚付羽釜	1	寺尾小学校
伝馬宿書出し(慶長16年9月3日)	1	本井弘己(若 穂)	平 瓦	2	田中繁躬(篠ノ井)
川田宿並附近古図	1	"	丸 瓦	2	"
和田英富岡日記	1	中沢 泉(桐 原)	善光寺古瓦字瓦	1	善光寺事務局
" 六工社創立第1年の巻	1	"	" 鍍瓦	1	"
上ヶ屋 a 石器群	18	森鳴 稔(戸倉町)	彦神別神社遺跡之図	1	関川千代丸(三輪)
" b 石器群	16	"	善光寺本堂図面	1	"
" c 石器群	14	"	善光寺如来堂造営木寄帳	1	霜田常雄(中御所)
" d 石器群	10	"	善光寺如来堂木寄不足帳	1	"
神子柴型石斧	1	清水一男(松代町)	善光寺御用一卷	1	"
風 字 硯	1	"	諸色入料勘定帳	1	若麻織千冬(元善町)
(旧)尖頭器	1	信田小学校	文禄4年中水鉋村下水鉋村御検地帳	1	青木修一郎(稲里町)
(平)古瓦(平・丸・鍍)	3	"	山 車	1	西町上区
			双体道祖神(石造)	1	相沢忠男(松代町)

手 甲	1足	後町小学校	土井利勝書状	1	柳島利雄(丹波島)
百人一首	1組	"	尾張中納言書状	1	"
紙 凧	3	"	丹波島本陣間取図	1	"
旗 印	1	柳島利雄(丹波島)	明治11年御巡幸ノ時御下賜料包紙	1	"
柳島太目録(柳島太郎左エ門あて)	2	"	明治11年御巡幸ノ時御小休ノ札	1	"
大久保石見守書状	1	"	煙火打上用筒木製 (大正5年) 二尺玉用	1	長野市商工会議所
酒井忠勝家臣等連署手形	1	"	" 尺玉用	1	"
宛行状(柳島太郎左エ門あて)	1	"	春雷筒記鑄鉄(大正10年9月)	1	"
定 書	2	"	妻科庚申請人別帳	1	井上 蛟
宛行状(柳島七之丞あて)	1	"	蛙打切り文書	1	大豆島区
宛行状(柳島甚五郎あて)	1	"	蛙打切り文書 (慶長16年辛亥8月29日)	1通	"
加賀大守書状	7	"	蛙打切り文書(午8月4日)	1通	"
真田侯諱拝領	1	"	異体字日月銘内行花文鏡他5面	6	布制神社(篠ノ井)
水野準人正の書状	1	"	琴柱状石製品	2	"
水帳(久保寺村)	1	"	勾 玉	4	"
天和二年高田檢地中日記	1	"	玉 類	3	"
真田昌幸書状	1	"	管 玉	103	"
乘馬術伝授起請文	1	"	小 玉	2連	"
諏訪出雲守譜文	1	"	阿久遺跡出土深鉢	1	長野県教育委員会
関所手形下附願書状	1	"	大石遺跡出土深鉢	1	"



善光寺道標(三才区)



山車(西町上区)

V 博物館管理・運営

1 建物概要

1) 建物床面積

単位は㎡

	地 階	1 階	2 階	3 階	4 階	5 階	計
1号館		1,613.6	1,378.9				2,992.5
2号館	474.2	2,111.9	1,323.0	249.0	87.5	19.6	4,265.2
合 計	474.2	3,725.5	2,701.9	249.0	87.5	19.6	7,257.7

敷地面積 95,000
建築面積 5,223.4

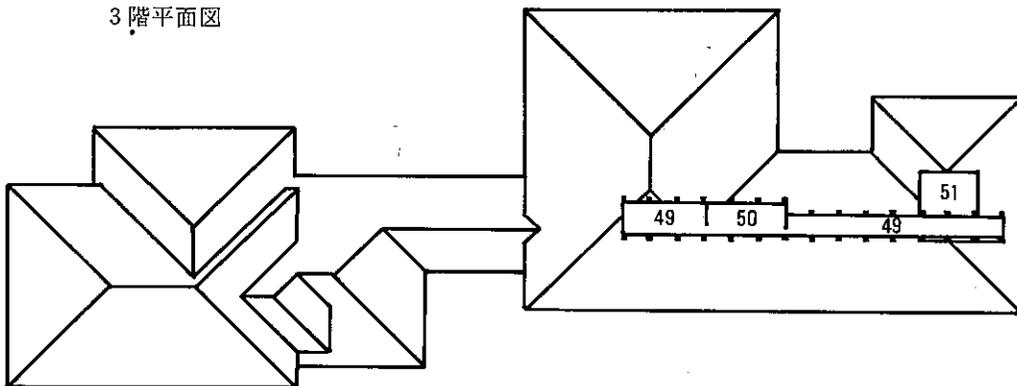
2) 部屋別床面積

1号館 1階	風 除 室	37.8	2号館 1階	20荷 解 室	170.0	2号館 2階	42地学研究室	39.7	
	1口 ビ ー	396.6		21特展準備室	53.3		43第一実験室	99.2	
	2展 示 室	740.3		22消 毒 室	11.4		44第二実験室	99.2	
	3事 務 室	80.1		23管 理 室	32.5		45会 議 室	116.9	
	4教 室	84.2		24館 長 室	33.3		46便 所	43.9	
	5相 談 室	17.6		25外来研究室	33.3		47所 員 室	79.4	
	6便 所	44.1		26学芸員室	64.9		48リフト室	18.5	
	7機 械 室	102.5		27文献資料室	32.7		そ の 他	236.9	
	8ハロンボンベ室	32.9		28写 真 室	20.1		計	1,323.0	
	9エレベーター	19.7		29湯 沸 室	7.9		2号館 地階	機 械 室	344.9
そ の 他	57.8	30便 所	41.0	倉 庫	10.4				
計	1,613.6	31制 作 室	27.4	ボイラー室	49.8				
1号館 2階	10展 示 室	953.3	32救 護 室	32.5	発 電 気 室	33.0			
	11収 蔵 庫	138.5	33プラネタリウム	251.7	制 御 室	13.2			
	12収蔵庫前室	30.0	34風 除 室	15.3	そ の 他	22.9			
	13休憩コーナー	29.4	35リフト室	18.5	計	474.2			
	14便 所	26.5	そ の 他	408.4	3階	49倉 庫		132.4	
	15機 械 室	97.1	計	2,111.9		50電 気 室		71.2	
	16エレベーター	19.7	36収 蔵 庫	273.5		そ の 他		45.4	
	そ の 他	84.4	37収蔵庫前室	54.2	計	249.0	4階	天体教室	74.8
	計	1,378.9	38工 作 室	64.7	そ の 他	12.7		計	87.5
	1号館 3階	17特別展示室	573.2	39機 械 室	75.6	5階		51天体ドーム	19.6
18収 蔵 庫		230.8	40化学研究室	41.9	計		19.6		
19収蔵庫前室		53.7	41生物研究室	79.4					

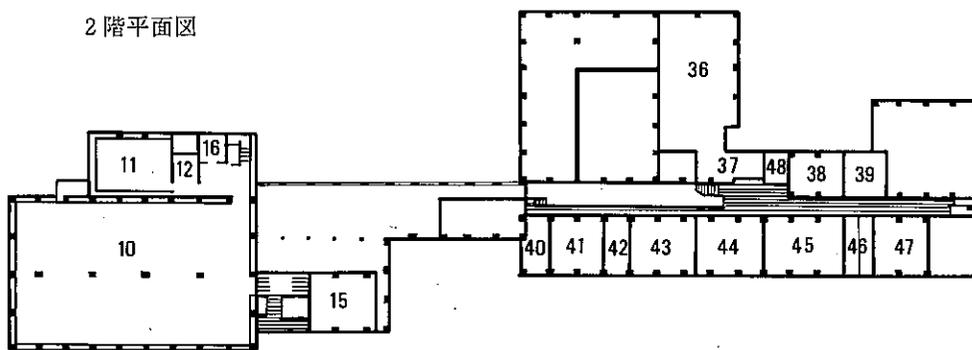
単位は㎡

3) 建物施設

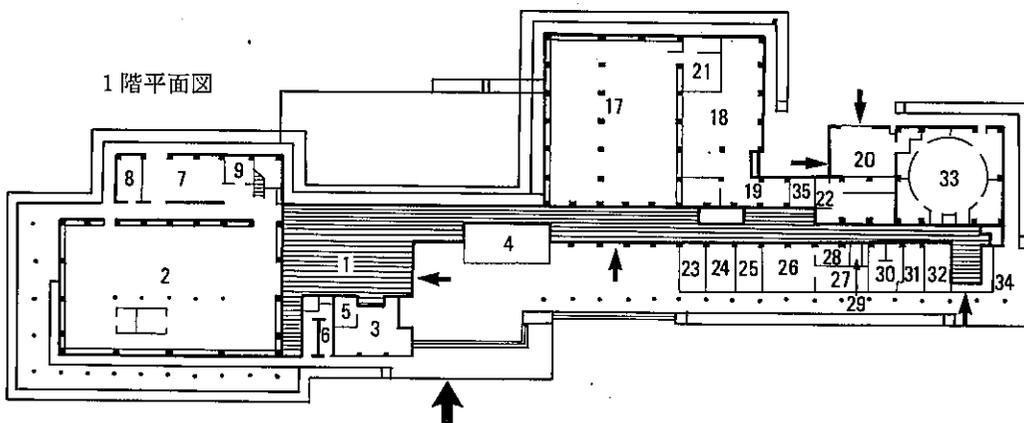
3階平面図



2階平面図



1階平面図



2 昭和59年度歳出予算概要

(単位千円)

節	内 訳	予 算 額	運 営 費	事 業 費				A 事業費
				企 画 展 覧 会 「仕事展覧会」	特別企画展 「建文のくらし」	特別企画展 「普光堂恒例」	各種講座	
(1)報 酬		1,919	1,919					
(2)給 料		18,323	18,323					
(3)職 員 手 当 等		11,617	11,217	100	100	100	100	
(4)共 済 費		4,514	4,514					
(7)貸 金		10,943	9,870	150	629	294		
(8)報 償 費		985	155	200	420	50	160	
(9)旅 費		937	427	50	280	150	30	
(11)需 用 費		34,377	30,707	570	1,480	1,210	110	300
(消 耗 品 費)		(2,845)	(2,242)	(50)	(120)	(100)	(30)	
(燃 料 費)		(4,764)	(4,764)					
(食 糧 費)		(115)	(55)	(20)	(10)		(30)	
(印 刷 製 本 費)		(5,782)	(2,772)	(500)	(1,350)	(1,110)	(50)	
(光 熱 水 費)		(20,206)	(20,206)					
(修 繕 料)		(660)	(660)					
(医 薬 材 料 費)		(5)	((5)					
(12)役 務 費		8,694	568	300	5,000	2,826		
(13)委 託 料		21,966	17,696	200	1,000	970		2,100
(14)使用料及び賃借料		931	356	400	175			
(15)工 事 請 負 費		2,960	100	200	760	800		1,100
(16)原 材 料 費		536		80	156	300		
(18)備 品 購 入 費		3,500	2,000					1,500
(19)負担金及び交付金		145	145					
(27)公 課 費		9	9					
計		122,356	98,006	2,250	10,000	6,700	400	5,000

A 事業費…鉄鍍形複製委託・展示室格子パネル製作委託・国道バイパスへ道路案内標識設置
庁用器具購入・掲示板設置工事

3 管理委託業務

(単位千円)

名 称	金 額		金 額
空調設備等管理	5,450	玄関マットレンタル	216
し尿浄化槽	648	庭園管理業務	470
清掃業務	5,920	プラネタリウム保守点検	740
自家用電気保安点検	378.48	ターボン冷凍機	500
エレベーター保守	576	展示模型映像機器	240
警備業務	384	くん蒸処理	880
		合 計	16,402.48

4 入館者状況

(昭和59年4月～昭和60年3月)

1) 常設展示

常設展示月別入館者数

区分 月	個 人			団 体			合 計			視 察		総合計	開館日数	一日平均
	一般	高校生	小中学生	一般	高校生	小中学生	一般	高校生	小中学生	県内	県外			
4	2,516	78	1,008	1,271	287	508	3,787	365	1,516	12	6	5,686	26	219
5	3,753	104	1,590	1,806	580	3,065	5,559	684	4,655	35	17	10,950	27	406
6	1,500	29	523	1,476	0	3,159	2,976	29	3,682	63	39	6,789	26	261
7	1,923	79	465	1,591	434	1,102	3,514	513	1,567	23	63	5,680	26	218
8	4,164	248	2,397	1,243	389	361	5,407	637	2,758	41	59	8,902	27	330
9	2,689	62	1,029	1,925	0	672	4,614	62	1,701	40	26	6,443	26	248
10	1,778	51	682	2,846	155	1,913	4,624	206	2,595	67	127	7,619	25	305
11	1,903	38	482	1,719	38	1,120	3,622	76	1,602	77	45	5,422	26	209
12	609	13	194	393	0	117	1,002	13	311	1	15	1,342	24	56
1	457	5	206	10	0	231	467	5	437	3	0	912	17	54
2	946	20	294	113	0	0	1,059	20	294	0	61	1,434	24	60
3	1,540	98	814	246	0	40	1,786	98	854	0	31	2,769	26	107
計	23,778	825	9,684	14,639	1,883	12,288	38,417	2,708	21,972	362	489	63,948	300	213

常設展示曜日別入館者数

区分 曜日	個 人				団 体				合 計				開館 日数	一日平均 入館者数
	一般	高校生	小中学生	小計	一般	高校生	小中学生	小計	一般	高校生	小中学生	小計		
月	370	32	508	1,410	195	0	65	260	1,065	32	573	1,670	3	556
火	2,288	78	579	2,945	2,142	75	3,027	5,244	4,430	153	3,606	8,189	48	170
水	2,452	90	689	3,231	2,034	699	1,880	4,613	4,486	789	2,569	7,844	49	160
木	2,970	78	839	3,887	2,107	596	3,231	5,934	5,077	674	4,070	9,821	49	200
金	2,554	75	853	3,482	1,992	173	3,233	5,398	4,546	248	4,086	8,880	50	177
土	4,017	158	1,621	5,796	1,825	190	165	2,180	5,842	348	1,786	7,976	50	159
日	9,478	314	4,595	14,387	4,344	150	687	5,181	13,822	464	5,282	19,568	51	383
合計	24,629	825	9,684	35,138	14,639	1,883	12,288	28,810	39,268	2,708	21,972	63,948	300	213

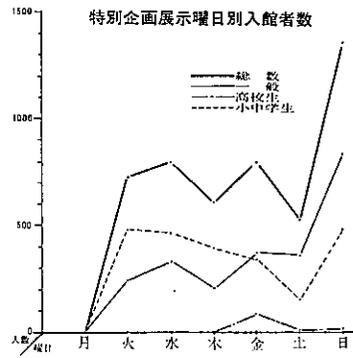
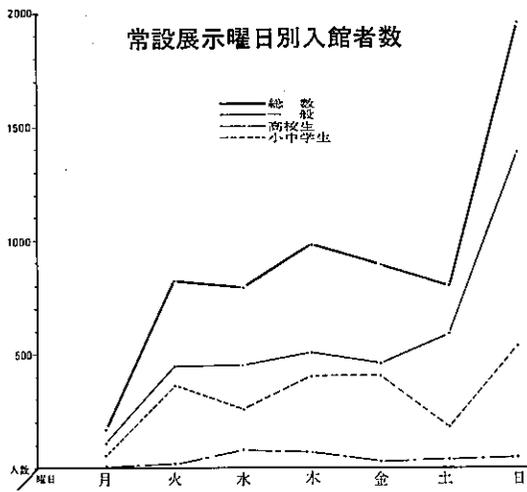
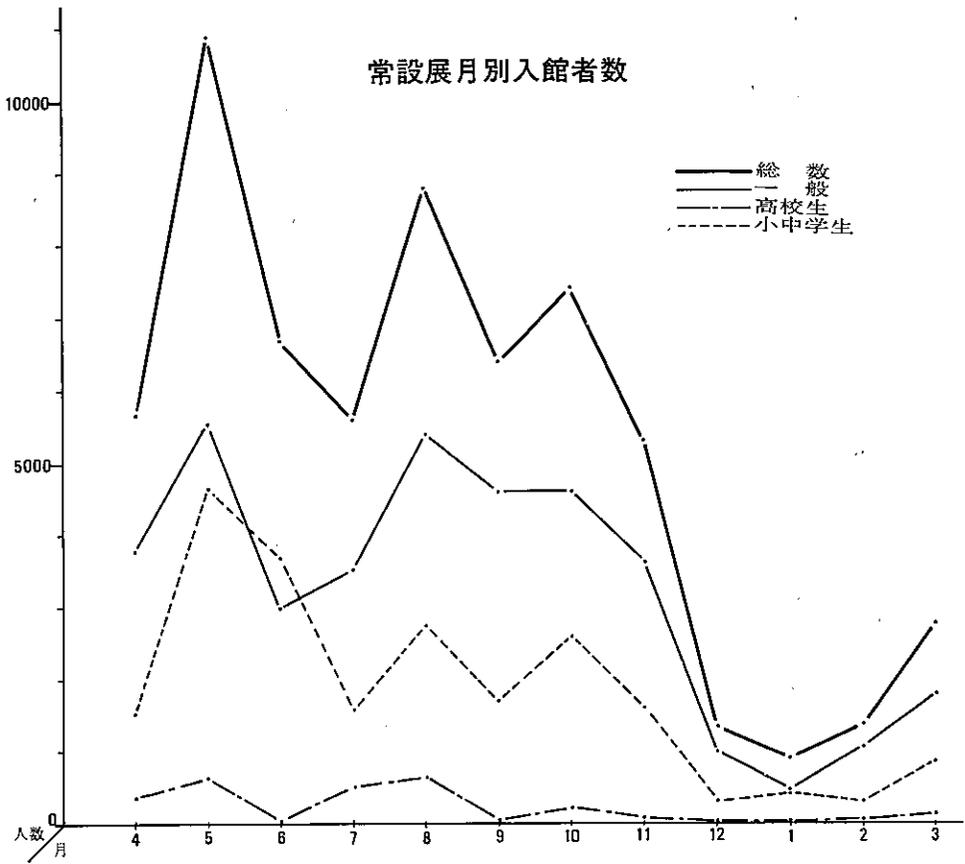
※視察者数は個人一般に含む

2) 特別企画展示

特別企画展示曜日別入館者数 (10月7日～11月25日)

区分 曜日	個 人				団 体				合 計				開館 日数	一日平均 入館者数
	一般	高校生	小中学生	小計	一般	高校生	小中学生	小計	一般	高校生	小中学生	小計		
月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
火	154	1	22	177	89	0	457	546	243	1	479	723	7	103
水	273	2	74	349	59	0	389	448	332	2	463	797	7	113
木	143	2	1	146	65	0	393	458	208	2	394	604	6	100
金	282	5	73	360	89	80	270	439	371	85	343	799	7	114
土	319	11	104	434	41	0	47	88	360	11	151	522	7	74
日	783	17	408	1,208	75	1	72	148	858	18	480	1,356	8	169
合計	1,954	38	682	2,674	418	81	1,628	2,127	2,372	119	2,310	4,801	42	114

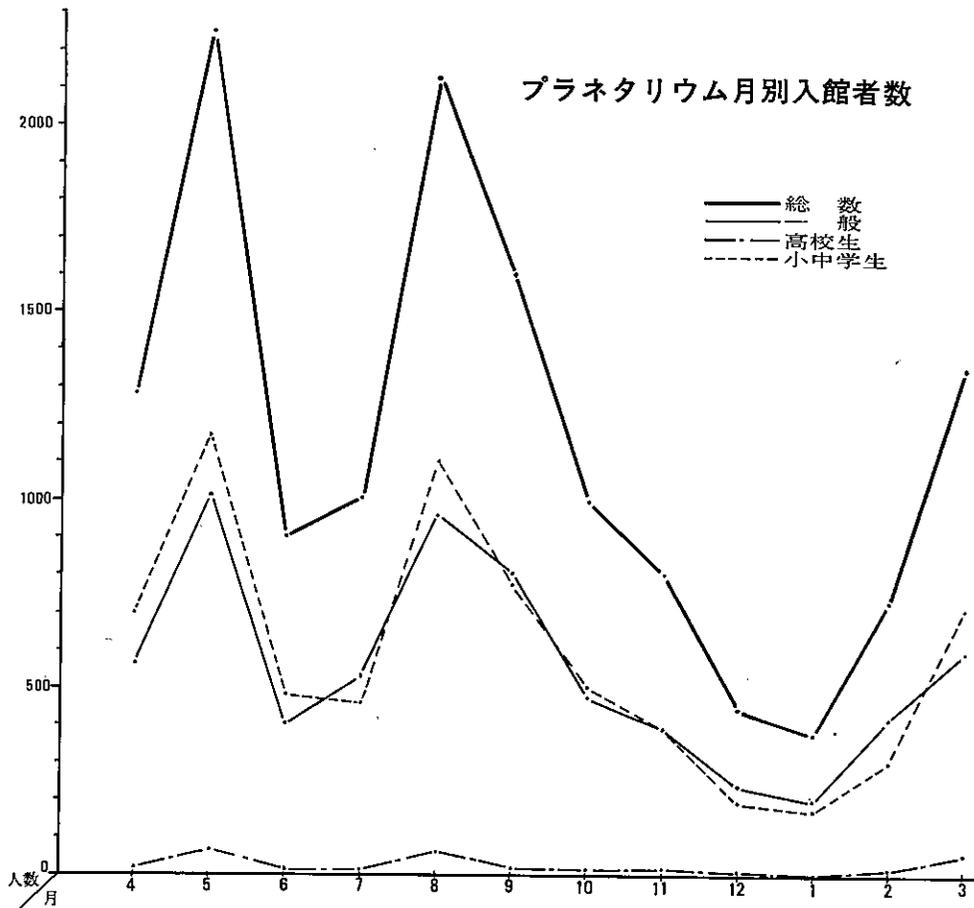
※月別入館者数 10月 2,412人 11月 2,389人



3) 天体学習室

プラネタリウム投影月別入館者数

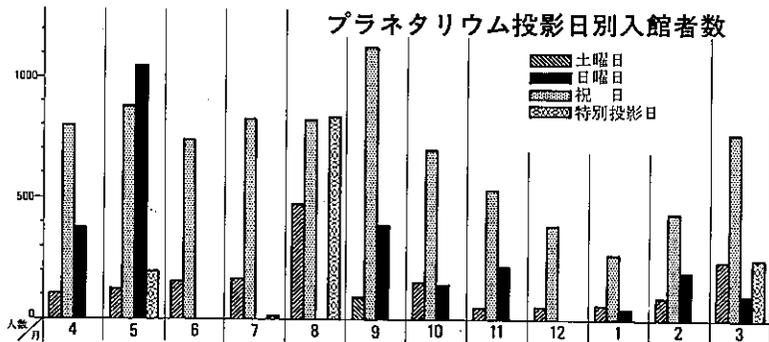
区分 月	個人				団体				合計				上映 回数	一回 平均 (人)	
	一般	高校生	小中学生	合計	一般	高校生	小中学生	合計	件数	一般	高校生	小中学生			合計
4	546	19	626	1,191	19	0	75	94	1	565	19	701	1,285	33	39
5	917	29	965	1,911	96	37	209	342	9	1,013	66	1,174	2,253	39	58
6	322	17	334	673	81	0	151	232	6	403	17	485	905	28	32
7	420	16	371	807	113	0	89	202	3	533	16	460	1,009	33	31
8	874	60	966	1,900	89	2	140	231	4	963	62	1,106	2,131	45	47
9	754	21	674	1,449	51	0	104	155	3	805	21	778	1,604	36	45
10	430	15	461	906	47	0	46	93	1	477	15	507	999	32	31
11	379	19	340	738	16	0	52	68	2	395	19	392	806	30	27
12	238	12	194	444	0	0	0	0	0	238	12	194	444	22	20
1	196	2	142	340	2	0	30	32	1	198	2	172	372	20	19
2	418	13	301	732	0	0	0	0	0	418	13	301	732	28	26
3	592	53	643	1,288	5	0	67	12	2	597	53	710	1,360	44	31
計	6,086	276	6,017	12,379	519	39	963	1,521	32	6,605	315	6,980	13,900	390	36



プラネタリウム投影曜日別入館者数

区分 曜日	個人				団体					合計				上映回数 (回)	一回平均 (人)	
	一般	高校	小中学生	合 計	一般	高校	小中学生	合 計	件 数	一般	高校	小中学生	計			
4 土 日 祝	50	1	55	106	0	0	0	0	0	0	50	1	55	106	8	13
	372	13	415	800	0	0	0	0	0	0	372	13	415	800	20	40
	124	5	156	285	19	0	75	94	1	143	5	231	379	5	76	
5 土 日 祝 特	22	0	22	44	18	0	67	85	2	40	0	89	129	7	24	
	361	13	388	762	50	0	67	117	4	411	13	455	879	17	52	
	464	13	469	946	26	0	75	101	2	490	13	544	1,047	10	105	
70	3	86	159	2	37	0	39	1	72	40	86	198	5	40		
6 土 日	64	8	65	137	3	0	18	21	1	67	8	83	158	12	13	
	258	9	269	536	78	0	133	211	5	336	9	402	747	16	47	
7 土 日 特	49	4	29	82	36	0	49	85	1	85	4	78	167	12	14	
	367	8	335	710	77	0	40	117	2	444	8	375	827	20	41	
	4	4	7	15	0	0	0	0	0	4	4	7	15	1	15	
8 土 日 特	177	12	189	378	38	0	58	96	1	215	12	247	474	16	30	
	314	24	369	707	45	2	68	115	2	359	26	437	822	16	51	
	383	24	408	815	6	0	14	20	1	389	24	422	835	13	64	
9 土 日 祝	43	6	40	89	0	0	0	0	0	43	6	40	89	8	11	
	514	9	445	968	51	0	104	155	3	565	9	549	1,123	20	56	
	197	6	189	392	0	0	0	0	0	197	6	189	392	8	49	
10 土 日 祝	75	0	79	154	0	0	0	0	0	75	0	79	154	12	13	
	280	15	312	607	47	0	46	93	2	327	15	358	700	16	44	
	75	0	70	145	0	0	0	0	0	75	0	70	145	4	36	
11 土 日 祝	29	8	12	49	0	0	0	0	0	29	8	12	49	9	5	
	241	6	220	467	16	0	52	68	2	257	6	272	535	15	36	
	109	5	108	222	0	0	0	0	0	109	5	108	222	6	37	
12 土 日	29	0	25	54	0	0	0	0	0	29	0	25	54	6	9	
	209	12	169	390	0	0	0	0	0	209	12	169	390	16	24	
1 土 日 祝	34	1	27	62	0	0	0	0	0	34	1	27	62	6	10	
	132	1	104	237	2	0	30	32	1	134	1	134	269	11	24	
	30	0	11	41	0	0	0	0	0	30	0	11	41	3	14	
2 土 日 祝	48	6	38	92	0	0	0	0	0	48	6	38	92	10	9	
	261	7	172	440	0	0	0	0	0	261	7	172	440	15	29	
	109	0	91	200	0	0	0	0	0	109	0	91	200	3	67	
3 土 日 祝 特	91	19	134	244	0	0	0	0	0	91	19	134	244	17	14	
	397	25	344	766	0	0	0	0	0	397	25	344	766	20	38	
	55	3	40	98	0	0	0	0	0	55	3	40	98	3	33	
49	6	125	180	5	0	67	72	2	54	6	192	252	4	63		
計	6,086	276	6,017	12,379	519	39	963	1,521	32	6,605	315	6,980	13,900	390	36	

※曜日の項の「特」は春休み夏休みの特別投影を意味する



4) 来館者の声

北佐久郡望月町立布施小学校4年生のみなさんが5月に当館を訪れ、その際の感想をいろいろと寄せてくれました。

博物館を見学して

山浦 美香

長野博物館を見せてくれてどうもありがとうございました。

一階の「しか」えーこんなに大きいというほどのつ。私はあまり大きくてこわいほどでした。こんなに大きいしかがいていたら望月町はめっちゃめっちゃになってしまうと思います。

石でできていたおはかはとても大きかったですね。私はおはかではなくて昔の家かと思っていました。中は石がごろごろしていました。今とくらべて昔は一つのでっかいおはかに、なくなった人を何人も入れたのに、今は一つの小さなおはかに一人しか入れないので今はお金がいっぱいあるのかなーと思いました。

二階では農村のくらしがありました。家はわらの家。くつもわら。しかもくつは自分で作るんですね。

えのかんのん様をあつしちゃんが「あうん」といっていました。いち番はじつこにあります。本当に「あうん」というんですか。

昔の遊びで今もやっている遊びがありました。昔はいろいろな遊びがあるんですね。みんな自分で作った遊びでした。

米作りの一年は今とちがうようでした。昔はてつなんて一つもつかっていないとゆうことが分かりました。そのきかいは自分で作ったんですか。昔はきかいは道具がぜんぜんちがうんですね。今はとてもくらしがらくになったということが分かりました。

戸井口 恵美

おじさん博物館の中を見せていただいてどうもありがとうございました。おかげでよい勉強になりました。ボタンをおすとそのかめん絵がうつりその絵をせつめいしたりしていい勉強になりました。

一階にヘラジカ(ムース)というシカがありましたね。あれはほん物ですか。あれはオオツノジカのなかまだそうですね。

むかしの子どものあそんだ物は、トランプ、コマ、おて玉、玉つき、おはじきそんなようなものでむかしの子どものあそんだそうですね。

いねかりをするには、むかしの人は、石ぼうちょうというのでかったみたいですね、私は石ぼうちょうってどうやって作るのかなーと思いました。おじさんはしていますか。

雨のふったときは、みのというのをきてどこかにいったりしたんですね。

私はあんなに大きいシカを私は目のまえではじめてみてびっくりしました。私はおもわず、「わー」とこえをだしそうになりました。私は家の人にみせてあげたかったです。でも家にもって帰るわけにはいかないしとてもざんねんでした。

プラネタリウムを

みて

鈴木 亜由美

プラネタリウムで星をたくさんみせてくれてありがとうございました。私は、星はきせつをおしえてくれるとはしらなかったのととてもいい勉強になりました。春の星座はたくさんありますね。からすは昔本当にきれいないろをしていて人間のことばをはなしていたんですか。私は、しんじられませんが、きのうの日曜日におばあちゃんのおてつだいをしていたらからすがあまりうるさいのでおばあちゃんに「どうして」ときいたら「からすの子わかれだ」といいました。もし、からすが人間のことばをはなしていたらからすの子が「おかあさん」といってないたんじゃなかなと思えました。

私は、プラネタリウムでいろいろな星座を見て、いろいろな星座を空で見たいしどんなでんせつがあるかしらべたくになりました。

春原 恵

私たちは、星のべんきょうをまだならっていないけどよく見ていたら分かってきました。七つの星は、ほんとうに、よくみでみると、ひしゃくのような形をしていますね。からすは、むかし、ほんとうに、しゃべっていたんですか。わたしは、からすをみると、からすがいたずらをするようなかんじがします。お母さんがよく分かんないんだけど、からすが、よくなくと、へんなことがおきるといっていました。また、できたら夜の8時ごろ、ベランダに行き、星をみようと思います。ちょっと、くびがつかれたけどだんだん分かってきました。

土屋 緑

プラネタリウムはとてもためになって本当にありがとうございます。でも行ってきてからずっと天気がわるくてちっとも星が見えません。でもはじめ入ったときもらった一升星と七つ星の紙で星の名前を見ておぼえています。プラネタリウムに行く前は、「ああ星がきれいだな」とみていました。それに名前もどうでもよかったです。見てから、「ああ。あれに、にた星は、あるなあ。よしみつけてやるぞ。」と言ってみつけたくなりました。でもそれより春の大曲線のひき方をおぼえようと思いました。やってみるととてもかんたんでした。

すばるという名前だけきいたことは、あったんだけど日本語ということは、しりませんでした。それにすばるというのがすべる星という意見ということも一度もきいたことがありませんでした。

よくはれた星のよく見える日に外にでて空をみていろんな星を調べたいです。

5 利用状況

1) 資料の館外貸出し

貸出番号	貸出先	貸出資料名	点数
59-01	小淵沢町の集い実行委員会	ウマノクツゴウなどワラ製品・写真パネル	50点
02	上田市立信濃国分寺資料館	田中窯址出土瓦	2点
03	長野市篠ノ井農業協同組合	備中鍬などの農具	14点
04	長井雲坪保存会	長井雲坪筆水墨夏景山水図	1点
05	望月町教育委員会	ミノなどワラ製品	44点
06	三島市郷土館	"	35点

2) 資料等の特別利用

利用番号	申請者名	利用資料名	点数	利用の方法	利用月日
59-01	信濃毎日新聞	昭和58年度新収蔵資料展		報道	4月8日
02	NHK	"		"	"
03	読売新聞	"		"	"
04	石本建築事務所(兵庫)	博物館建物		写真撮影	4月20日
05	初芝写真(大阪)	常設展示		"	4月22日
06	原幸次(東京)	"		"	5月3日
07	馬場 亘(新潟)	"		"	"
08	スタジオゆにーく	善光寺旧如来堂絵図	1	"	5月14日
09	松村 毅	庚申塔(松代町東条)	1	"	"
10	長野工業高校建築課	博物館建物		"	5月17日
11	今村 龍夫	常設展示		"	5月26日
12	上原 珠枝	博物館建物		"	6月17日
13	須坂市教育委員会	展示ケース		"	7月10日
14	信越放送	第8回企画展「仕事着」		報道	7月15日
15	NHK	"		"	"
16	中日新聞	"		"	"
17	竹中順子	"		写真撮影	7月17日
18	田口智樹(東京)	博物館建物		"	7月26日
19	中島由加利	常設展示		"	8月1日
20	"	"		"	8月5日
21	東条小学校	民具	5	"	8月9日
22	丸田信重(東京)	博物館建物		"	8月15日
23	宮本幸一	"		"	8月16日
24	長野県財務部	常設展示		"	8月28日
25	NHK	"		報道	9月4日
26	江田豊(神奈川)	"		写真撮影	"
27	日本アートセンター	駒沢遺跡出土壺と器台	2	写真掲載	9月11日
28	松代中学校	"		"	9月12日
29	徳島市役所営繕課	常設展示と建物施設		"	9月19日
30	青柳興昌	常設展示		"	10月5日
31	週刊長野	第9回特別企画展「縄文人の暮らし」		写真撮影	10月7日
32	信濃毎日新聞出版部	「米法山水」(長井雲坪作)		"	10月26日
33	京都科学	常設展示		"	11月6日
34	大日方幸一	"		"	11月17日
35	NHK	第9回特別企画展「縄文人の暮らし」		報道	11月22日
36	長野放送	しめ縄教室		"	12月9日
37	NHK	もちつき(常設展民家内)		"	12月23日
38	銀河書房	松代町笹塚古墳レプリカ	1	写真撮影	2月11日
39	宮本建築設計事務所	博物館建物		"	3月6日
40	根岸秀(神奈川)	常設展示		"	3月17日
41	福島県立博物館(福島)	常設展示と施設		"	3月19日
42	昭文社リュエル(東京)	常設展示		"	3月31日

VI 彙 報

1 長野市立博物館条例改正

博物館条例改正（6月1日）

区 分	常 設 展 示		プラネタリウム	
	個 人	団体（20人以上の 場合）1人につき	個 人	団体（20人以上の 場合）1人につき
一 般	250円	200円	150円	100円
高 校 生	100円	80円	50円	40円
小中学生	50円	40円	30円	20円

常設展示 大人200円→250円
団体160円→200円

プラネタリウム 大人100円→150円
団体 80円→100円

2 長野市立博物館協議会

1) 協議会委員

職 名	氏 名	住 所	選出区分
会 長	花岡直一	長野市上松二丁目20-9	学校教育
副 会 長	小出ふみ子	〃 中御所78-1	社会教育
委 員	浅川欽一	〃 駒沢3333-4	学識経験
〃	倉田稔	〃 松代町松代1475-2	学校教育
〃	小林計一郎	〃 鶴賀658-2	〃
〃	佐藤進	〃 箱清水2221	〃
〃	島 垣	〃 上松三丁目11-5	〃
〃	中島正美	〃 上松一丁目6-39	学識経験
〃	矢沢頼忠	〃 松代町松代163	社会教育
〃	米山一政	〃 妻科750	学識経験

（任期 昭和59年9月25日から2年間）

2) 協議会審議経過

昭和59年6月26日開催

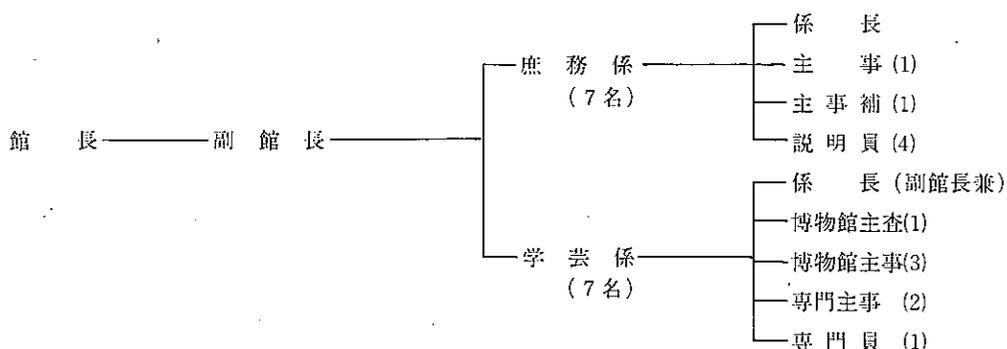
- (1)長野市立博物館運営について
- (2)自然史博物館建設について
- (3)その他

昭和60年3月14日開催

- (1)長野市立博物館協議会、会長、副会長の選出
- (2)昭和59年度博物館事業報告
- (3)昭和60年度事業報告及び予算について
- (4)自然史博物館建設について
- (5)その他

3 組 織

1) 組 織 図



(昭和59年4月1日現在)

2) 職 員

館長	掛川 一夫	
副館長	山口 純一	
庶務係長	佐野 孝康	
主事	豎岩百合子	
主事補	河口 英明	
説明員	水品 紫乃	(学芸員)
"	大林 育葉	(")
"	坂口 清子	(")
"	久保田仁太郎	
学芸係長	(山口純一)	
博物館主査	矢口 忠良	(学芸員)
博物館主事	山口 明	(学芸員、民俗担当)
"	大蔵 満	(学芸員、自然科学担当)
"	青木 和明	(学芸員、考古担当)
専門主事	藤森 治幸	(学芸員、歴史担当)
"	和田 博	(歴史担当)
専門員	西川 昭史	(自然科学担当)

(昭和59年4月1日現在)

VII 講演会収録

1 仕事着と現代性

関川 信子(信州大学教授)

- 衣服の変遷 作業衣にかかわる衣服の変遷を捉えながら作業衣の一部について述べます。
- 喜多院「職人畫絵」 展示されている狩野吉信作の川越喜多院所蔵の屏風絵「職人畫絵」にある職人の種類は25種と確認しましたが、この絵の中に示されている室町時代以来江戸時代の職人、町人の様子を息づくように見ることができ
- 信州における仕事着 この屏風絵と同時に展示されている信州における仕事着は、その構造までよく示されていて、形態的特徴による地域性とか仕事の内容の違いまでも推察されます。日本の服飾史として見た場合でも労働着の宝庫と見ることができます。
- 労働着の宝庫
- 衣服の起源 仕事着について衣服の存在又は衣服のはたらきが人間とどうかかわってきたのか、衣服がどのように発生してきたのかその起源についても触れて見たいと思います。
- 衣という生活資材 現在でも一部の部族では裸で生活していますが哺乳類の特徴として、はじめは体毛に覆われていたといわれます。その時代には自然に対して体を守る機能があったものと思いますが、次第に体毛が退化して気候調節とか生態保護機能を他に求めるようになり、それが衣という生活資材を發明し利用するきっかけとなったと見ることができます。
- 洞窟の中の人物画 先史時代のある時期に、ヨーロッパに現れた人間らしい動物が洞窟生活をしていたといわれます。スペインや南フランスのロッセル洞窟の遺跡にある人物画は裸体で、その裸の胸の所に二本の線が刻まれた男子の立像があるといわれます。この二本の線は帯を示したものであって、衣服の糸口になるものといわれています。その帯はヒモであって紐の衣と書いて紐衣といわれる衣服の一種です。主要材貨である食住と共通する動機として、食物を拾い集めなければならないという激しい欲求から紐が胸に巻きつけられたものと思われま
- 紐衣 す。その紐は、獲物をとる武器を携帯するのに重要な役割を果たしていたものと思われま
- 衣服の基本 紐衣が生活を能率的にするはたらきを持ったというように考えて見ると、生きるための必然の發明として紐衣が生まれ、労働を支えるための衣服であったと思われま
- ①ドレーパリー(巻衣型) このヒモのほかに衣服の基本となっているものの形態は4~5種類あるといわれています。一つはドレーパリーといわれるもので、一枚の布を体に巻きつけ衣服の形態をとる巻衣型といわれているものです。この巻衣型と同じように巻くものとして腰布、いわゆる腰巻きがあります。体全体を布で巻き肩の所をずらして巻く腰巻きと、布をただ巻きつけただけのものと少し違いがあります。ドレーパリーには巻衣型と腰布いわ
- 腰布・腰巻

サロン	ゆるサロンがあり、現在のサロンエプロンと共通するものを考えればよいと思います。
サリー	最もよく知られているものにインドの民族衣裳サリーがあります。
②ポンチョ	二つにはポンチョです。これは風呂敷状の布の真ん中に穴を開けて頭を通して前後に垂らして着る貫頭衣型といわれるものです。現在では登山用具の簡単な雨具としてポンチョ型が売られているようです。
③カフタン	三つには、日本の和服に関係の深いカフタン型の衣服があります。前開きの衣服、着物を想像されればよいのですが、モンゴル人が古くから用いていたものです。また、アラビヤやトルコに見受けられる衣服ですが、ここで使われる場合のカフタンは、ほとんどが脚衣（ズボン）と組み合わせて使われます。仕事着の下半身に用いるズボンは、脚衣の袴と分類されており山袴といわれています。この山袴は、仕事着の重要な衣服の一つと考えられます。
山袴	基本型を4種とした場合は脚衣を別扱いにしていますが、今回の展示でも脚衣は衣服の基本型の中でも大切な位置を占めるものと考えられますから、袴は五種の中の一つと考えて分類するのが良いと思います。
④チューニック	残りの一つはチューニック型といわれるものです。ポンチョという貫頭型衣服の両脇を縫い合せた型に変わったもので、更に腕を通す分だけ開けて、そこに袖をつけたものがチューニックです。貫頭型を基本とする筒型のものに袖の付いた衣服がチューニックと思えば良いでしょう。
中世被服文化の基本	以上のような衣服の基本は、中世被服文化の基本となったものでもあります。 衣服は、目的別に着分けられるようになるまでの、被服がまだ未分化だった時代には一枚の衣服が色々な役割をもっていたのではないかと考えられます。
仕事着	仕事着とは、人間が何か仕事をする際に着るものを意味します。現在は、官吏、会社員、教職員が着用するものは、制服としたり、自由服も用いられます。又背広的なものをワーキングウエア、ビジネスコートといっています。又肉体的作業をする際に着用するものを労働着といっているように使い分けていますが、被服文化が進んでいなかった時代には、一つのものが仕事着になったり外出着になったり多用されていたと考えられます。
制服・自由服	
労働着	
職種と衣服	仕事着も職種がふえてくると、農工商の職種の特徴を衣服の着方によっても表わすようになったと考えられます。
農工商の衣服	工は、袴天、腹掛け、股引 <small>こまたひき</small> が代表的な衣服。商人は、着物に角帯、前垂れ姿。農民は、野良着、田圃着 <small>いんぼく</small> 、ジバン、そして上着の上から前垂れを下げるというものでした。
	最近或る職場で全員がサンダルを履いて仕事をしている所、視察に来た上司が「日本で最低の職場だ」と批評したと聞きます。ある銀行では地域性に合わせて浴衣 <small>ゆかた</small> を取り入れ全行員が着ていたというように、仕事の内容によって又地域性に合わせて仕事着がきまり、能率面だけではな

野良着の着方 一部式構成 二部式構成	<p>くて客観的、一般的、視覚的面も考慮されるところだと思えます。</p> <p>さて野良着の着方には地域別男女の別があったと思われま。文献によれば近畿以西は一部式、ワンピース形式のものが着られていましたが、東北へ行くに従って二部式構成になっているのが特徴といわれます。信州の野良着も二部式のものが多いは、ここから東北に行くにつれて、二部式構成になっていると考えることができます。</p> <p>男女の別を野良着に見ると、帯は縄とか細紐が男に使われ、女には巾の狭い裂き織り（古くなった衣服を切って織っていくもので、普通の織物より大変締りがよくきちんと固定される）のものが使われていました。</p>
農村における労働着	<p>野良着は色々種類がありますが、水田や畑作に適合した形が考案されたものと考えられます。特に農村男女の労働の服装は、野良着のことに表現されるように、野外で着る衣服であって社会生活における生産に携わる時の生産者が着る労働着として封建社会において大事な衣服であったと考えられます。</p>
ミノ	<p>屋外で着る衣服として考える時何が問題になるかと云えば、寒さ暑さや雨や雪など自然との戦いであつたと思われま。これは仕事をする人にとって想像以上の苦痛を強いられたものと考えられます。</p> <p>またミノは、雨や日光を防ぐという反面、どんな天候のもとでも仕事をしなければならぬという厳しい理由があつたからだといわれています。</p>
野良着としての条件	<p>野良着としての条件は、体を束縛しないで雨風を防ぎ動作が自由にでき、しかも汗や雨に濡れた時に着脱ぎが容易にできることだと思えます。これは被服衛生学という人間にとってどのような衣服をどのように着るかという点から考えても、濡れたものをずうっとそのまま着つづけていると人体にとって色々な障害の原因にもなります。特に夏の暑い時に汗をかいたまま着ていると汗が引くと同時に冷えて体を痛める、特に腹を冷やすという問題がでてくるので、労働着は着ることも容易でなければいけないが、脱ぐことも容易なことが一つの条件となります。</p>
被服衛生学	
小袖	<p>上衣としてカフタン型に代表される小袖は、室町時代後期から我が国の衣生活の中心になった衣服です。平安時代以来の装束衣類の上衣（一番表面に着る衣服）は大袖といっていました。袖の形などの違う小さな袖を持った衣服を小袖といいますが、当時の小袖はどのように着られていたかと云うと束帯とか直衣とか狩衣などの大袖形式の装束の一番内側に着るものとして用いられていました。</p>
大袖	
直衣 狩衣	
內衣	<p>內衣として着られていた一方では庶民の日常の実用衣として古くから用いられていたといわれます。平安末期頃から王朝服飾が簡略になり、下層武士階級が頭をもち上げてくると、今まで内側に着ていた衣服がだんだんに表面に現われて、表着（上着）として使われるようになります。</p>
表着（上着）	<p>16世紀以降の我が国の服飾はこの完成された上着として小袖を中心に展開してきました。今日、われわれが伝統服とか民族服とか云っているキモノにつながっていると考えると良いと思えます。従って古くからの內衣、</p>
キモノ	

労働着としての小袖
上衣としての小袖

または労働着としての小袖と後世の上衣となった小袖というのは両者には性格の違いがあります。

袖の形

前で打ち合わせて着るカフタン型のキモノ、これは労働着としても便利で着たり脱いだりする便利さがあって労働着に使われたと考えます。

タスキ・腕抜き
手甲

手の動きについては、袖の形に色々と工夫がされています。これは作業能率向上のために特に工夫がこらされている部分だと考えます。従ってその袖に因んだ名前が随分使われています。例えば半袖、筒袖、ツツポ、モジリ、袖なしなどがそれです。上半身のキモノが袖の形で呼ばれていることで明らかです。その袖に袂たもとがつくと邪魔になりますので、タスキという紐などが使われているのです。袖無しの場合は腕抜きなどといって腕の部分にはめるものとか、手甲など手の甲に用いるものが出てきていますが、これは野良で働く衣服として必要になったもので、昆虫や茨の害を避けるのが一つの目的でありますし、日焼けを防ぐ日よけになるという利点にもなっていると見てよいでしょう。

コギン・コシキリ
ハンチャ・ミジカ

職人盡絵屏風の中に着流しの小袖姿なども見られますが、水田作業などの本格的な農耕労働に対しては、コギン・コシキリ・ハンチャ・ミジカなどの名がでできます。これは総じて腰丈こしぐらいの身丈みぢの短い衣服を指しています。呼び方が示すように腰までの短い着丈きぢのもので、腰脇とか裾脇には5~10センチ位の馬乗りが付いています。馬乗りは現在の洋服に使われているサイドベンツとかスリットとか裂け目の付いた部分が上体の動きにうまく対応してくれるものです。すっかり縫われていると固定されて自由に動かせませんが、馬乗りは上体の屈伸を自由に動き易くしています。それが野良着の特徴にもなっているのです。

馬乗り

ジュバン

仕事着の中でジュバンに触れなかったのはジュバンは、日本の伝統的的衣服の中から除外して見た方がよいと思うのです。

小袖形式のものは、日本の伝統的的衣服が踏襲されていると見てよいが、ジュバンの上衣は外来文化が入って来てからのものと考えられるからです。

ジュバンはイスパニア語でジュボンという言葉があり、ポルトガル語でジュバンとかジバンとかのいい方がされています。日本のジュバン、今我々が着ているジバンもそうですが着物の下にきる長ジバンも含めて、日本語のジュバンはポルトガル語に由来するというのが定説になっています。

「観衣考」

当時肌小袖として使われていたものがジュバンと呼ばれるようになったのは具体的には、南蛮文化の影響であるとの指摘があります。

遠藤武博士の「観衣考」の中にも指摘されています。

展示中のジュバンも日本古来のものではなく、ポルトガルからの外来文化として取り入れられたジュバンに由来するものと考えるのがよいと思います。それが野良着として地域性に富んだ、仕事のし易いものに改良されていったと考えるべきではないでしょうか。

脚衣

次に下半身に用いられる脚衣について述べると、日本衣服に関する考え方を変える大きなきっかけとなったといわれている、南蛮文化の影響

カルサン
タツツケ
日本袴

を受けていることは疑いがないと思います。仕事着としてカルサンとかタツツケという名が挙げられています。それは南蛮風俗としてズボンの機能が日本袴に導入されたことがわかるでしょう。それが形を変えて日本で消化吸収され、庶民の衣服として定着した所が大事なことで、今回の展示を見て驚きを感じずる所です。

山袴類

中部山岳地帯の交通不便な村が多い山国の地獄的条件から生み出された、農民の手による運送手段の中馬ウチウマとかポッカという運搬業者は信州の産物の米、タバコ、生糸などを運び、帰りは信州で産出しない塩、茶、魚、綿織物などを持ち帰る交易に大きな役割を果たしております。産物と同時に当然新しい文化が持ち込まれたことが考えられます。その一つがカルサンやタツツケにあらわれています。カルサン、タツツケの山袴類には南蛮文化が取り入れられていると見られますから、信州にも南蛮文化が取り入れられたわけで、進取の気性に富んだ信州人の気概が感じられます。

マチ

カルサン、タツツケをはじめとする山袴類は、農村の労働着として改良を加えられていたと思われる。それはマチの形とか付け方に色々な方法が考案され改良されていることから云えます。この点から当時の人々はズボンの機能性に強い関心を持っていたように思われます。また庶民の生活にも浸透したであろうことから考えて、庶民服というものは活動性が大事な一つになっているともいえるでしょう。

南蛮服飾

南蛮服飾研究家の丹野都博士によると、ポルトガル人によってもたらされたズボンは、16世紀末頃から17世紀に導入されたと言われています。職人盡絵屏風は丁度この年代に当たっていると思います。狩野派の絵師による南蛮服飾の屏風がありますが、これも同年代の風俗を描き出したものと見ることができます。

キュロット

展示されているカルサンは改良されたものと思われ、カルサンという名称はその土地に生れたものとは考えられません。名称は一般に短いズボンでふくらみに特徴を持っているもので、これがカルサンの名称になっています。フランス語ではキュロットと云っています。女の人のズボンの様に左右の足に分れて履くスカート、それをキュロットスカートなどと呼んでいます。このようにズボン形態のものをフランス語でキュロットと云っているようです。キュロットでなければカルサンという呼び方をしていたようです。スペイン語でカルソンと云っていたようです。

ポルトガル語でもカルサン又はカルソンエスなどと呼んでいるようです。カルソンはイタリア語でカルソーニに由来するものだとされていますが、イタリア語で下の意味を持つカルツァが語源となってカルサンという語が生れたといわれています。

ポルトガル人着用の膝ぐらいまでの半ズボン、そのカルソンエスは南蛮屏風や文献によって西欧型のズボンとなっていることが明らかになっています。カルサンに最も類似した遺品として徳川家康着用といわれているみじか袴が紀州の東照宮所蔵となっているといわれています。

皮袴

日本人はカルサンの利点を取り入れて日本服を改良し、古いものでは織田信長着用とされる皮袴があります。これはタツツケバカマといわれています。タツツケとカルサンの違う点は、カルサンは膝までの丈で割合いにふくらんだ半ズボンですが、タツツケは皮でできている所に特徴があり、鹿皮のズボンでその裾の方にキャハン状のハバキがついているもの、それがタツツケバカマといわれています。キャハン状の所は麻の布を二枚合せた形にして膝下の所へ取り付けているといわれています。

鹿皮製タツツケ

上杉神社所蔵の上杉謙信着用といわれている鹿皮製のタツツケも信長着用のものとはほぼ同形のものだといわれています。

洋風仕立て

このタツツケの遺品は二つとも大変に洋風の仕立てが取り入れられている所に特徴があります。西洋風の洋服仕立ての大変精巧な技法が駆使されているといわれます。例えば日本で使われているズボンは直線裁ちのものが多いのですが、ポルトガルの外来文化として取り入れられたカルサンなどの股上またがの所が今の洋服に見られるようにカーブされて作られているのが大変特徴であるといわれています。今回展示されているものが、股上がそれと同じ構造になっているかどうかということに興味があります。

股アキ

もう一つは、股の所にアキが作られています。渡来したカルサンは股上が開くようになっているし、タツツケも下の部分にボタンホールがあるなど大きな特徴があります。

以上16世紀、17世紀の職人盡絵の職人の風俗やその当時から伝えられてきたと思われる信州の野良着の形は、現在も息づいていると思いますし、野良着としての形態を考えた時には昔から伝えられている野良着が最も適しているように思われます。

ジバン風シャツスタイル
ブラウス

食についても日本の食生活が外人に大変好まれて、栄養学的にも良い点が多々あるということで、料理に取り入れられていると云われています。日本の野良着は形態ばかりではなく材質も見直される時期にきているのではないのでしょうか。もうすでに見直されているかも知れません。それは現在の生活服として外来文化のジバン風のシャツスタイルがあります。女の人ですとブラウス、手を上げた時にカカシの様な形に袖口が非常に広くて、直線裁ちのジバンの袖をくっつけただけの衣服も、ことし流行していて大変開放的で夏は涼しい衣服と思いますが、それとあわせて下の方を見るとパンツルックなどといわれるモンベ式のもので、割合いにぶかっとして体を締めつけない様に着るものや膝までの丈びのズボンが現代の生活にうまくマッチして取り入れられているのではないかと思います。これは又デザイナーがアラビア風のゆるやかなズボンからヒントを得てファッション化したとも云われています。

パンツルック

シャワール

アラビア風のズボンはシャワールと呼ばれ体の巾の二倍もある様な大きなズボンで、形式ははぎ合せの布の枚数によって形が色々変わるといわれていますが、非常にダブダブしたズボンです。ですから現在は男女共にファッション化された衣服も、古い感覚で見ますとモンベスタイルなどと云ってイメージ的にあまり良い評価はできませんが、着て見ると

案外涼しくて夏には快適で離せないファッションではないかと思われ
ます。ですから男女共にそうしたものが使われるのではないかと思います。

刺子
コギン

今回の展示の中には、布を補強するために刺した刺子は少ないよう
です。津軽地方のコギンというのは信州のものと随分性格を異にしてい
ると思います。それは津軽地方では綿織物は他所から移入しなければなら
ないので庶民は着ることを禁止されていました。従って自家用の麻を栽
培して自給自足の生活をしていたので、綿を使わないという建て前から
麻の野良着が使われていたようです。津軽地方の野良着と信州のものと
違う大きな特徴は、全面的に良く刺してあるということです。

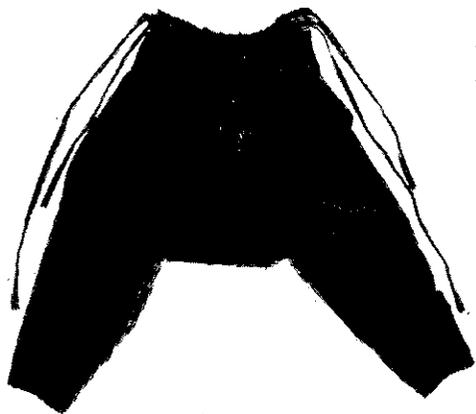
麻は綿よりも丈夫さに欠けるので、丈夫でないものを如何に長持ちさ
せて着るかという所に特徴があったようで、木綿糸などで布の様な状態
にギッチリと刺して長く着るといのがコギンなのです。コギンが津軽
地方で発達したのは、貧しい生活を強いられた中から生れた生活の知恵
であり、民芸ではないかと思われま。それから考えると津軽に比して
信州は豊かであったと思われま。中馬やボッカによって外から綿織物
などが持ち込まれ、庶民に使われることも多分にあったと思われま。
今回の展示の野良着の中にも綿織物が多く見られます。

紺染め

補強の面から見ると紺染めにしたのも大変意味があると思われま。藍
で染めることによって木綿の布が大変丈夫になり、洗濯にも耐えるとい
う特徴があります。麻なども補強のために紺染めされたといわれま。し、
もう一つは野良で働く性格上色々な害虫から身を守るはたらきもあつた
ようです。マムシは藍の染料の臭いを嫌うようです。ですから染料なども
詳しく調べ草木染めなどを見ていくと大変意味があるのではないかと
思われま。

草木染め

(昭和59年7月29日 第8回企画展記念講演会にて収録)



イツコギ (鬼無里村)

「仕事着」展示資料より

ミジカ (鬼無里村)



2 縄文人のなぞ

芹 沢 長 介 (東北福祉大学教授)

- 大沢和夫先生
古代の石器の感触
- 八幡一郎先生
「諏訪史第一巻」
- 中石器時代の痕跡
諏訪湖底曾根遺跡
- 縄文時代の石器の作り方
- 相沢忠洋さん
「南佐久郡の考古学的調査」
- 馬場平遺跡
- 中の原遺跡
矢出川遺跡
杉久保遺跡
- 縄文文化の起源
- 長野県は私にとって大変縁の深い所であります。考古学に初めて興味を覚えたのは、静岡中学1年の時大沢和夫先生から国史の授業を受けて、その第1時間目に縄文時代の石斧や弥生時代の石斧・土器を教室に持って来て見せていただいた。中学に入ったばかりの私は、古代の石器の感触に非常に大きな感銘を受けて、それ以来考古に縁の切れない生活を送って50年になります。大沢先生はまだ下伊那で考古学の仕事にご活躍中です。
- 少し考古学を始めたあと中学2、3年の頃、東京におられた長野県出身の八幡一郎先生のお宅へ出入りし、八幡先生の学風に強くひかれて先生の研究を一生懸命理解し、学ぼうという一時期がありました。八幡先生は南佐久郡、北佐久郡の考古学の調査や、それ以前に鳥居先生が書かれた『諏訪史第一巻』など先生がその骨子を殆どお書きになったと伺っています。
- 私が八幡先生に目をかけて頂くようになった昭和10年代に先生は盛んに、日本に中石器時代的な痕跡が残っていると力説されていました。その資料として諏訪湖底の曾根遺跡の遺物などを取り上げて、縄文文化の起源の古さ、その源をたどれば北方大陸から中石器時代的な要素を持ったものが日本に渡来したと説かれました。
- 縄文時代には、石器の作り方が四つあり、礫核石器、剥片石器、磨り切り石器などの大きな石器作りの四つの流れが、すべて北方大陸につながるものであるといわれました。私は八幡先生の影響を強く受け、その後他の先生の影響も受けましたが、私が今日まで縄文時代の起源、縄文時代の石器さらに旧石器時代の石器に強い関心を持ちながら考古学の仕事を続けて来たのは、大沢先生、八幡先生のお蔭であろうと考えています。
- 昭和24年に私が群馬県桐生市に住む相沢忠洋さんに初めて会い、相沢さんの発見によって、日本にも縄文時代以前に旧石器時代の遺物が多く残されていることを初めて教えて貰い、その後八幡先生の書かれた『長野県南佐久郡の考古学的調査』の中にも、縄文時代の遺物と異なるものが入っていることに気がつきました。例えば南佐久郡川上村馬場平出土の遺物を、本の中で不思議だと感じ、馬場平へ行って調べてみました。そしてこれは縄文時代より古いものだと確信し、馬場平、中の原さらに矢出川とか少し遠く離れた野尻湖の杉久保遺跡を注目して調査するきっかけになりました。これも相沢さんとの出会いがきっかけで、八幡先生の報告書が機縁となったものです。
- 昭和10年頃からこの方、私の興味の中心の一つは、日本における縄文文化の起源、縄文人の起源の研究をどの様にして進めていったらよいか、この問題に強くかかわって来ました。

縄文人の特質

縄文人は、何処から何時この日本列島にやって来て、これ程華やかな縄文文化を各地に残すようになったのか、結局縄文人の特質の根底になるものがその由来であろうと思うようになったのであります。由来がはっきりすれば、縄文人のくらしも解きほぐしていけるのではないかとずうっと考えてきました。相沢さんによる岩宿遺跡発見以来、縄文以前の研究を長く続けてきたのも、縄文人の起源、由来を考えるためにどうしても通らなければならない過程であったと思います。

今まで30年間に毎年ほぼ一つ位の遺跡を発掘してきました。北海道から九州にわたって30か所の遺跡を掘ってきました。これが日本の旧石器時代から縄文時代を含めた日本石器時代の縦のつながりを示すひとつの契機となるような、そして一連の資料として役に立つような意味をこめて発掘を続けてきました。私の仕事は2、3年前までにほぼ一応の段落を付けたのではないかと考えています。

岩宿遺跡の発見

縄文時代のすぐ前にはどんな文化があったのか。岩宿遺跡発見までは無人島の日本へ丸木舟に乗った縄文人の祖先が何処からか移り住んだというのが一般的な考え方でした。岩宿遺跡発見以後は縄文時代以前にも日本に人間が住んでいたことが明らかになったのです。

縄文時代以前の文化

縄文時代直前の文化はどんなものであったか、縄文人以前の人間はどんな文化を持っていたのか、その文化を持つ最古の人間と縄文人とはどんな関係があったかということを一時期真剣に追究したことがありました。

日本最古の縄文文化

撚糸文土器群

放射性炭素測定

9,000～9,500年前

昭和25～28年頃にかけて、日本最古の縄文文化は、関東地方に分布している撚糸文土器群を持つ文化であると考えられていました。撚糸文土器群の年代が放射性炭素の測定によると約9千年から9,500年前と判ってきました。すると縄文時代直前の人間は9,500年から1万年位前の時期に住んだ人間ということになります。一体どんな人間であるかと数年間発掘をしながら考えていました。おおよそ南佐久郡南牧村の矢出川遺跡に代表される非常に細かい石器を持つ細石器文化を作った人間が、縄文時代の直前まで日本に住んでいたことが判ってきました。この段階では細石器が終った頃に縄文時代の撚糸文文化が南関東に始ったのではないかと考えていました。その後昭和35年になって九州長崎県の福井洞穴を発見しました。縄文時代早期約8,000年前の土器の層が一番上にあり、その下の第2、第3層からは、細石器と土器を同じ層から出すような文化層が二つ続いて見つかり、第4層は全く土器を持たない細石器の文化が見つかったのです。

細石器文化

撚糸文文化

福井洞穴

細石器文化層

旧石器から縄文への

過渡期

そこで日本には細石器文化が1万年前に二つ続いていて、その後細石器の伝統を強く持ちながらも新しい文化要素としての土器を製作する時期が続いて、そのあとに土器が出てくることが判りました。旧石器時代と縄文時代との過渡的な一時期が福井洞穴によってはっきり把握できたのです。

こうした調査を続けてくると縄文文化或いは縄文文化以前の旧石器時代の終り頃の文化を、日本の中からだけでなく、外国人の目或いは外国

日本の石器時代文化

の側から日本の石器時代文化、縄文文化或いはユーラシア大陸における日本の石器時代文化、その中の縄文文化を外から見る事が非常に重要なことではないかと感じてきました。その後そうした意識を持って、シベリアに2回、韓国へ1回、中国へ1回など10回ほど外国へ行って、日本に接する東アジアの各国において、そこから見た縄文文化とはどういうものか。東アジア全体の石器や歴史の中から縄文文化はどう位置づけられるものであるかを考えてきました。

次にその一端を紹介しましょう。

今回の展覧会では、縄文人が何時何処から来たか、縄文人の祖先はどの方向から来たか。縄文人の東アジアにおける特色はどこにあるかという問題は殆ど取り上げられていません。

そこで外国各地から日本を眺めるといって縄文文化を見直すと、どういうことになるかをスライドを見て頂きながら探って行きたいと思います。

この5～6月まで1か月シベリアのノースブルックにあるアカデミーの歴史言語哲学研究所の所長デレビヤンコ氏の招請を受けて、民族学博物館の加藤久祚さんと筑波大の加藤晋平さんと3人で西シベリアのアルタイ山麓にある旧石器時代洞穴の発掘キャンプに参加しました。日本人としてソビエト、特にシベリアの洞穴発掘に参加するのは異例のことで、おそらく初めての経験であろうと思います。非常に尊い経験を多く得て来ました。研究所の主催で日本の研究者が考えることのできないかなり大規模な発掘が行われていました。私は洞穴の前に20ほど張られた大きなテント村の中の一つのテントを当てられて、その中で生活しアルタイ1号の洞穴の発掘にたずさわりました。5mほど掘り進められた洞穴調査の中で、ジニソバヤ洞穴、カミンガヤ洞穴、昔から有名な蒙古の国境に近いウシキカン洞穴を時間をかけて見て歩きました。

シベリアの洞穴発掘

アルタイ1号洞穴

ジニソバヤ洞穴

カミンガヤ洞穴

ウシキカン洞穴

あちらの考古学研究者は体格の大きな人間ばかりで身長は平均180～190cm、体重は80から90kg。プロレスラーの様な体格の人ばかり集まって発掘しているので進み方も速くて荒っぽい感じを受けますが、仕事は非常に丁寧で細かいのです。感情も細やかでびっくりするほど親切に面倒を見ていただきました。

ビーナス

マルタ遺跡

プレティ遺跡

クラシニアル遺跡

アルタイ洞穴が終って帰りにビーナスを多く出したマルタ遺跡、プレティ、クラシニアル遺跡などがあるバイカル湖の南のアンガラ河溪谷でイルクーツク大学のキャンプ発掘に参加し、有名な遺跡を見学してきました。

これらを含めながらスライドを交えて、縄文文化の外から見た東アジアの石器時代の中における縄文文化を外国の資料と比較しながら見ていくことにします。

旧石器時代のビーナス

マルタ遺跡

■バイカル湖南端の西、アンガラ溪谷マルタから出た旧石器時代のビーナスは、1万5千年から2万年前のヨーロッパのビーナスと比較すると細身扁平で顔などは、かなりアジア的な容貌を備えています。こうした

	ビーナスはヨーロッパと同じく女性を表現しています。材料は象牙、大きさは5～8cm。頭の部分に細かいドットがあり、頭髪を表現していると思われます。
	腰のうしろはお尻がはっきり盛り上っています。右の足の付け根に点々があります。
ブレティ遺跡	■アンガラ溪谷のブレティから出たビーナスは、髪の毛或は帽子をかぶっており、体全体に模様があります。現今のアノラック様毛皮製の服を着たものと思われます。
竪穴住居 墓地 装飾品	■マルタ遺跡からは、非常に立派な竪穴住居とか、子どもを埋葬した墓地が発見されています。旧石器時代のビーナスをはじめ色々な鳥や動物を装飾した非常に細かいものがまとまって発見されています。
	これらを示した細かい実測図は、最近イルクーツク大学のメルメーデスという人が完成したもので、今までこのようなものは殆ど発表されたことがないようで、発掘した時そのままの図を整理したものです。
グリマルデイ 洞穴	■旧石器時代のビーナスのうちフランスのサンジェルマンというパリ郊外に近い博物館にあるビーナスは、グリマルデイ洞穴からまとまって出たものです。特に女性の胸とお尻の所が強調して表現されています。
ドルドロニ遺跡	■フランスのドルドロニから発見された2万年位前の旧石器時代のビーナスは、滑石のような柔らかい石で作られたものです。象牙以外の石で作られたものがよく出ているようです。
ウィデンドルフ遺跡	■オーストリアのウィデンドルフから出た石製のビーナスは有名で、石灰岩からできています。ヨーロッパのビーナスの最も特徴的な資料です。
	■ヨーロッパには、石や象牙のビーナスに交じって非常に稀ではありますが、粘土で作った土偶としてのビーナスが発見されています。
ドルニ・ヴェストニツ ツエ遺跡	チェコスロバキアのドルニ・ヴェストニツツェから出たものは土偶の発見品としては、世界最古のもので、旧石器時代の2万年前に土で作られたものです。土で作り火の中に入れて焼かれた焼き物であります。
土 偶 マイナ遺跡	ごく最近になってシベリアからも同じような土偶が発見されました。シベリアのバイカル湖よりかなり西の方のノムスビルスクに近いマイナ遺跡から出たもので、1万2千年から1万5千年前にさかのぼる細石器の遺跡です。大きさは8cm位で、前も後も殆ど扁平で、顔や胸の表現は殆どありません。
	縄文時代の前期から中期に出てくる土偶に比すとかなり粗雑な部類に属するものです。しかしシベリアの旧石器時代の遺跡から出てきたということに大きな意味があると思います。
荒屋遺跡 細石刃	マイナ遺跡からこの土偶と一緒に石器と骨角器が出ています。日本の矢出川や荒屋から出てくるような細石刃をはめ込む軸になる骨角器があり、軸の両側に細石刃をはめ込むための溝が彫り込まれています。土偶はこの細石器を作った人によってすでに立派なものが作られていたことを示しています。
クルラ遺跡 細石刃核	■バイカル湖の北のはずれにクルラ遺跡があり、多量な細石刃と共に細石刃核が多く出ています。そして細石刃と細石刃核の接合例がたくさん

出ています。

日本では接合例は非常に少ないのですが、シベリアの細石刃の遺跡には接合資料が多くあり、最近発見された遺跡でも100点ほど出ています。

その細石刃、細石刃核の大きさは2cm位で非常に小さい。こんな小さいものでも接合資料が100点近く出ているのです。

クルラ遺跡の年代は1万2千年から1万8千年前と考えられています。放射性炭素測定と地質学上の層位なども合せて総合的に考えると一番新しくても2万4、5千年前のものであると、イルクーツク大学の研究者は説明しています。多分正しいと思います。最近3万年以上の古さの細石刃があるといわれています。

シベリアでは2万5千年前に矢出川や荒屋のような細石刃を主体とした遺跡がすでに現れていて、その過程の中でマルタやマイナのビーナスや土偶が作られていたと考えられます。土偶が細石刃文化と共に作られていたことは大切なことだと思います。

オクラドニコフ
12,000年前の土器
ウスチ・キャフタ遺跡

5年程前初めてシベリアへ行った時、最長老のオクラドニコフが、シベリアでも日本と同じように1万2千年前の土器が発見され、自分が掘ったと話していました。外蒙古に接するブリヤート共和国ウスチ・キャフタという遺跡からです。放射性炭素による測定年代は1万5千年と1万2千年前の2件あります。

駝鳥の卵と共に同じ層からこの土器の破片が出てきました。年代はほぼ1万2千年前とのことです。石英の粒が多く入っているほか、荒い繊維を細かく切ったものの混入も見られます。裏側に条痕が横に走っています。おそらく1万2千年前の土器の発見は初めてですが、将来こうした所から細石器の発掘がされれば例はふえてくるでしょう。

荒屋型彫刻刀

ウスチ・キャフタからは、私が「荒屋型の彫刻刀」と名付けたアラヤピュアリンと呼ぶものと全く同じ資料の細石刃の石核が発見されています。

有舌尖頭器

■7、8千年から1万年位前になるとシベリアの極東では有舌尖頭器の仲間が発見されています。日本から発見されるものはかなり近いものです。それらはハバロフスクに近いオシポッカから発見されたものです。これからは土器は発見されていないようです。

オシポッカ遺跡

シベリアの新石器時代

■シベリアの新石器時代になると旧石器時代からの伝統が非常に強く残って、細石器をはめ込んだ短剣のようなものが多く作られています。真ん中に扁平な骨か角で軸を作り、その両側に溝を彫り一枚ずつ両面加工の側刃をはめ込んであります。片側だけで9枚はめ込まれています。新石器時代になると両面加工の非常に細かい側刃が作られ、溝がある軸にはめ込んで使われる例が多く発見されています。

側刃

軸にはめ込む側刃は小さなフレイクから作り出され、軸にそれをはめ込んで、結果的に非常に大きく鋭利なものを作り出します。

ここに特色があり、最初から長いものを作らず、小さな材料から小さなものを作り、それを並べて大きなものに仕上げます。これが細石器の重要なポイントであります。

- コンドン遺跡 ■アムール河中流のコンドンから出た土偶は顔が後方に反っています。顔の所に穴があいて、胸が扁平で目は細く非常に東洋的な感じがします。シベリアから極東シベリアにかけて土偶の発見例は非常に少なく、この発見は例外に属するものです。大変に大事にされていて、レプリカはあちこちにありますが本物は殆ど見られません。ノルスブルスクの博物館で見せていただきました。
- スーチュール遺跡 ■アムール河中流のスーチュールで出た土偶は非常に珍しいもので、目が吊り上り縄文人とも異なってアムール河中流から上流にかけて住む人間の特徴を捉えていると思われます。
ここからは動物の形をした土製品も出ています。
- ボツネースカ遺跡 ■ボツネースカ遺跡からは、人間の顔を模様につけた円筒型の非常に大きな土器が出ています。ハート型の顔もあります。鼻と口が少し盛り上っていますが、目の回りのコブは太い竹の管のようなもので押しつけています。最初、縄文が付いた土器と思い、縄文土器と関連がある面白い土器として紹介したことがありました。実は縄文土器ではなく細かい櫛の歯のようなもので丹念に押しつけて作ったもので、5千年ほど前のものと判りました。裏には目の所を押し付けた丸い痕跡がとび出しています。たくさんの破片があるので日本人なら復元してしまいますが、ソ連は鷹揚で5年経ってもそのまま手を加えていません。
- ボネスマッカ遺跡 ■ボネスマッカから口縁部のかなり大きな土器が出土しています。5千年前のもので日本の縄文の前期の終り頃ですが、その頃の日本にはこれ程精巧なものはありません。これに近いものは後期の終りか晩期の初めにあります。北海道から東北北部には、人間の顔のついた注口土器があります。北海道札幌に近い茂辺地からよく似たものが出ています。年代はせいぜい3千年前ですから2千年の開きがあります。似ていますが直接の関連はないと思います。
- 注口土器
茂辺地遺跡 ■ハバロフスクの博物館にスクレイパーと書いてある石器が展示されています。柄の付いたもの、石べらのようなもの、ただのスクレイパー、それに我々に親しみのある石匙があります。
博物館の人は、これは間違いなくシベリアから発見されたものでそう珍しいものではないといっています。重要な資料だから確実に極東シベリアから出たものか確認を依頼してきました。若しアムール河流域から発見されて珍しくないものだとすると、縄文時代後期・晩期に出てくる石匙と同形態ですから、日本以外に見られない特別な石器と考えていましたが、東北地方の縄文人とアムール河下流の石器人との交流が、かなりはっきりと関連づけられてくると考えています。
- スクレイパー
石べら
石匙 ■ノコギリの形をした2cm位の長さの石鋸が九州西北部から点々と発見されています。縄文後期から晩期にかけてのもので大半は後期のものです。朝鮮半島の釜山の絶影島から出ているほか、朝鮮半島の東方を辿って咸鏡北道からも多く出ています。しかも農耕を伴うと思われる櫛目文土器の遺跡から出てきます。従って韓国の東海岸から南端に通じる石鋸を持つ櫛目文土器の石器時代文化と西北九州の縄文後期の文化とは非
- 石鋸
- 櫛目文土器

常に密接な関連を持つものではないかということを書きました。依然として現在でも重要な問題であると思います。若し縄文時代後期・晩期にかけて、朝鮮半島から日本に農耕が伝わったとすれば、この石鋸はそのルートを示す一つの資料になると考えています。

北見遺跡 鋸歯状に歯はつきませんがこの石鋸に非常に似た短冊形に加工された石刃に間違いのないと思われるものが、北海道北見遺跡から数点出ています。報告者は縄文早期だろうと見ていますが、私は縄文後・晩期に属する時期に沿海州から北海道に入ったものだろうと考えています。このように日本以外の地域で発達した石器は、九州の一部と北海道の一部へは稀に入って来ていると見てよいと思います。

縄文の細石器 ■九州の縄文後期には細石刃が確実に出ています。細石刃核も出ています。さらに縄文後期の層から黒曜石で作られた彫刻刀が2点出ています。細石刃とか彫刻刀は日本では縄文文化の開始とともに姿を消しますが、九州では縄文後期のある時期に突然現われています。これは縄文後期に再び大陸から細石刃や彫刻刀の技術が入って来たものと思われる。

オションナイ遺跡 北海道礼文島のオションナイ遺跡にも縄文時代後期になって旧石器時代の石器のようなものが再現しています。九州の場合と同じと思われます。

山内清男先生 回転縄文 ■山内先生は長い間縄文のテクニックを研究され、縄目の文様は撚糸を土器面に回転させて押捺した回転縄文であることを昭和7年頃発表されました。その後精力的に縄文技法の研究を推進されました。英国大英博物館にアフリカナイジェリアの最近の資料が陳列されています。それは

アフリカの縄文土器 縄文の施されたもので縄文を作る繊維や撚糸も陳列されています。アフリカでは7、8千年前から現在まで縄文を作る伝統が長く続いています。私の父がアフリカの土器を2、30点集めました。その中には古くても100年位前のものがあります。日本のものと全く同じ回転の山型押型文を持つものや羽状縄文を持つもの、単方向の斜縄文を持つものがたくさん入っています。最近でも回転縄文のものが作られています。このアフリカの縄文のテクニックは到底日本の縄文とは結びつくものではありません。

山型押型文 羽状縄文 斜縄文 あまり距離が遠くて全く日本とは無関係に発達したものであります。■縄文土器と全く似たもので、かなり古いものを探すと、アフリカ以外にはニューギニアの東南にあるニューヘブリデス島の中にある遺跡から発見されたものがあります。東北方面から発見される木目状撚糸文で、軸に縄を巻く時、特別な巻き方をして木目とか板目のように出てくるものです。日本以外には出ないと思っていたのに突然、赤道遙か南の島から出てきたのです。パリのジンディ博物館のホセイガラセさんが発見したものです。東北地方のものと比較して殆ど変わりませんが、ただ東北地方のものは必ず繊維が入っているのにニューヘブリデスのものには入っていません。考えを飛躍させるならば、東北地方の縄文人が丸木舟を操って漂流し、赤道の南の島に辿りついたと考えない限り突然南の国に現われたということは考えられません。

ニューギニアの縄文土器
木目状撚糸文

特に東北地方の細かい撚糸文土器の文様は、縄文早期から前期に至る2、3千年の長い経験から生み出されたものですから、独立発生的に出たとすれば、ニューヘブリデスにも縄文を転がす2、3千年の長い伝統があったのではないかと考えられます。全く不思議な資料として私の記憶に強く残っています。

岩戸遺跡
コケシ形の石製品
緑泥片岩

■15、6年前に大分の岩戸遺跡で1万8千年前のナイフ形石器を出す層から、コケシ形の石製品を発見しました。10cm位の緑泥片岩をコツコツ叩いてコケシ形にし、目鼻らしいものをつけています。かなり上から強く光を当てないと目鼻は出てきません。おそらく人間を表現したものと考えられます。この外に半製品や完成間近で縦に二つに割れたもの、製作をはじめた直後に割れたものも発見されていますから、岩戸遺跡でコケシ形の石器が作られたのは間違いありません。将来このようなものや骨製のものが出るようなことがあれば、日本でも更に立派なビーナスが発見される可能性があると思います。

上黒岩岩陰
線刻礫

■愛媛県の上黒岩岩陰でも1万2千年前の隆線文土器出土の同じ層位から緑泥片岩のものが発見されました。緑泥片岩の小さな礫を使い、両側に細い線で髪の毛を、二つの丸い弧状の線で女性の乳房を示しています。岩戸のコケシ形と同じ緑泥片岩を使っている所に大きな意味があると思います。非常に細い線で髪の毛や乳房を表現していますので、縄文時代の土偶の先史的な形態として旧石器時代にも人間を表現する遺物が、日本にも存在したことは間違いのないといえます。しかしシベリアのマイナの細石器を伴った土偶のことを考えると、日本の細石器を主とする遺跡からも土偶が発見される要素が強くなっているのではないかと思います。石製品だけでなく、土偶が近い将来発見されると思うのです。

福井洞穴
細石器+隆線文土器

■昭和35年に長崎県福井洞穴の細石器の出た同じ層から隆線文土器を採取しました。愛媛県上黒岩の第9層でも同じ隆線文土器が出土していますが、大体この仲間が日本最古の土器でありましょう。

日本最古の土器

福井洞穴の第2層から、爪形文土器が出ました。人間の爪を押しつけたようなものです。1万1千年前の土器で、これと同じ層から多量の細石刃が出ています。かつて八幡先生が問題にされた諏訪湖の曾根遺跡の土器も大体これと同じようなものですが、曾根の場合は細石刃でなく石鏃が多量に出ています。

細石器+爪形文土器
曾根遺跡

■次に日本の土器発生の年代を考えて見たいと思います。

土器発生の年代
ガリエルイベス遺跡
サカンゼバダ遺跡
中石器時代

シベリアのキャフタの土器は1万2千年前。ガリエルイベスとサカンゼバダが8千年以前で、それ以前はシベリアやヨーロッパで中石器時代と呼んでいる旧石器と新石器の過渡的な時期、1万2千年から1万年前の一番古い所から土器が出ています。

中国では最近古いものが出て、8千年前の土器は珍しくなくなっています。1万2千年を越すと中国でも全く問題なく旧石器時代の文化が並んでいます。

日本でも1万2千年を越すと細石器からナイフというように旧石器時代のものが並んでいます。1万2千年前から1万年の間に福井洞穴・上

花見山遺跡

黒岩・神奈川県花見山が並んでいます。矢尻を出す上黒岩第5層が1万年前、1万年以後は撚糸文の土器がずうっと並んでいます。1万2千年前から1万年前が旧石器時代と縄文時代との入りまじった過渡的な時期と考えてよいと思います。

座々羅木遺跡

■粘土で作って固く焼いた動物の頭が、宮城県の座々羅木から発見されています。有舌尖頭器が出る層で1万年から1万1千年前のものです。発掘した若い人達はヘラジカの類ではないかといっていますがはっきりしません。

日本最古の動物形土製品

鼻の穴は棒を突きさして丁寧に表現しています。1万年前の動物形の土製品としては日本最古のもので、これに近い時期の土偶の発見も近いと思われます。

縄文時代早期の土偶

■日本で土偶が最初に出てくるのは縄文時代早期です。関東地方の撚糸文土器時代で茨城県の花輪台貝塚から5～8cm位の小さな土偶が発見されています。頭・両方の乳房・腰が辛じて表現されています。これは9千年前に出現する一番単純な土偶で私はバイオリン型と呼んでいます。

花輪台貝塚

バイオリン型土偶

縄文時代前期の土偶

十字型土偶

■関東地方の縄文時代前期末ごろに十字型の土偶が出てきます。まだ手は真っすぐで足も二つに分れていません。ただ顔と乳房がハッキリ出ている単純なもので、こうしたものが発展して手足が分離し、人間の形をとってきます。

縄文時代後期の土偶

著保内野遺跡

真福寺貝塚

■日本最大といわれる高さ約42cmの土偶が、数年前に北海道南茅部町著保内野から発見されました。縄文時代後期の立派なものです。

埼玉県の真福寺貝塚からも有名な土偶が出土しています。人間の形が装飾的になり顔や頭は縄文土器の安行式の装飾と殆ど変らないものです。また耳の所には耳飾りが着装されている様子がわかります。

蔞内遺跡

日本最大の土偶

■岩手県盛岡に近い蔞内から最近発見されて問題となった日本最大の土偶は、子供の頭ぐらいあり、中には土が一杯詰ってました。縄文時代にはこれだけのものを焼く技術はないので、中が焼けずにボロボロになっています。しかも同じ所から手と足の部分がバラバラに発見されていますから、若し手足をつけて全体を焼き上げたとなれば大変な火力があることとなります。不思議なのは胴体らしいものが出ていないことです。色々考えると首と手足は別々に作り、胴体は木や樹脂や獣の皮で別にしてそのあとで頭とか手足をはめ込んだのではないかと思います。即ち合成して大きな人形を作ったのではないかと考えるのです。正確には判りませんがこの時代には人間の口とか鼻とか目の部分だけ別に作ったものが岩手県で発見されています。口の部分、目や鼻が小さな粘土製品として発見されています。木や毛皮で作った面の一部に貼りつけて完成させたものであります。面の部分品であるからこれも大きな土偶の部品と考えるのがよいと思います。

合成人形

目や鼻の粘土製品

埴輪より大きいと思われるものが岩手県の縄文後期の人間によって作られたことは驚くべきことであります。

土偶の衰退

■土偶は弥生時代に入ると突然消えてしまいます。弥生時代初期の東北地方には少し残ったり、西日本では稀に土偶に類似したものが発見され

たりしますが、土偶は縄文早期と共に現れ晩期と共に消えてしまうのが土偶の大きな性格でしょう。縄文文化の性格を考えるうえに非常に重要な点ではないかと考えています。

縄文土偶の系譜

縄文土偶はどこから来たのか、どのような由来をもって日本に来たのでしょうか。これを考えると中国とは少し様子が異なるのであります。

中国新石器時代

■中国新石器時代の彩陶、彩色土器が最近無数に発見されています。中国の新石器時代は8千年ほど前から3千年ほど前まで長く続きますが、不思議に土偶が発見されていません。

中国新石器時代には土偶は殆ど作られなかったと思われれます。稀に人間を表現するような模様はありますが、それは土器の蓋に人間の顔をつけたものです。粘土で人間を表現したものはありません。

極東シベリアの新石器時代

穴があって人間の顔の付いた土製の容器がごく最近、中国で発見されていますが、縄文時代の人間が作ったような土偶は中国では殆ど作られたことはなかったようです。縄文文化、縄文人の由来を考えるためには非常に大きな問題ではないかと思えます。むしろ極東シベリアの新石器時代人は縄文土偶にかなり似たものを作っています。中国では東アジアにおける最も発達した農耕文化、新石器時代の文化を持っていながら土偶が殆ど作られていなかったのです。中国の文化を考えていて驚くことは今から8千年前、中国に土器などが作られた頃、ロストル式の土器焼きのカマドが作られています。縄文土器のような平地に窪みをつけて薪をおいて焼く様な原始的なものはありません。中国の彩陶の土器焼きは全く違った段階にあったと思えます。

ロストル式土器焼カマド

土器や土偶は中国のような本格的な農耕を中心とする新石器時代文化のもとでは作られなかったと考えられます。それに比し、本格的な土器焼成に関係ないような周辺の文化の影響を受けて、縄文文化は発達したと考えられます。惑いは1万2千年程前にシベリア・東アジアから土器製作手法を日本の旧石器人が受け入れ、それを発達させて、新しく縄文文化というものを作りあげたと考えざるを得ないのです。

鼻曲り土面
麻生遺跡
蒔前台遺跡

日本の縄文時代文化というものは中国の新石器時代の文化とは殆ど関連を持たなかったのではないかと思えます。

■次に鼻曲り土面があちこちに出ています。縄文土偶と同じ手法で作られたもので、秋田県の麻生から出ています。

また岩手県一戸町蒔前台からは左の眉を上げて口を曲げ、鼻の曲っている特殊な土面が出ています。似たものが東北地方から数点発見されています。

カナダ
アメリカンインディアン
土面
アフリカ
フォーセースマスク
韓国
鼻曲りマスク

■カナダのアメリカンインディアンのキュウカ部族が作った鼻曲り土面(マスク)があります。ある特定の日に部族の人達を集めた前で、この面をかぶってその年の将来を占ういろいろな動作をします。

アフリカにも病気を表現するような土面がしばしば作られています。フォーセースマスクと呼ばれています。

韓国では紙で作られた鼻曲りマスクがあります。ほかのマスクと同時にかぶってやる芝居や踊りがあるそうで、韓国の場合は老婆を意味する

泥炭層

マスクとのことです。このようなマスクの問題でも、土偶や土面の意味をもう少し考えて見ると面白い問題が出てくるのではないかと思います。■次に宮城県の泥炭層から籠の上に朱と黒の漆で顔の模様を描いた籃胎漆器が沢山出ています。又布を絞ったような状態のものも沢山出ています。

縄文時代の布

最近秋田県で縄文時代の布として発見されたものは、漆を濾すための布であったと思われます。漆が付いたまゝ、堅く巻きついて、荒い布様のものが絞った状態で出ています。布そのものが腐蝕を免がれて残ったのです。作り方を見ると、新潟県の豪雪地帯津南町に残っているアングインによく似ています。編布、編んだ布という意味で、それが訛ってアングインとなりました。アングインを作る方法はムシロを作る方法と同じです。紺で染めたものもあり、縄文時代の衣類にこうしたものがあつたのは確実と考えられます。北海道知床半島にある縄文時代の墳墓からも出土し、調査の結果宮城県山王から出たものと同じでした。

アングイン

山王遺跡

貝塚の調査

■次に貝塚の調査であります。最近是非常に細かいものが採取されています。

ウォーターフローター

ション

ウォーターセパレイシ

ョン

昭和10年代私達は肉眼で判別できる程度のものを採取し、それより小さいものは埋土と一緒に埋め込んでしまいました。最近掘った土をそのまま全部大学や研究所に運び、5mm、2mm、最後には1mm程度の目の篩でふるって小さな骨まで採取し、その種類を同定して一つの層、一つの時期にどのような動物や魚を食べていたかを復元する手間のかかる仕事が続けられています。

サケ・マス文化論

かつて山内先生が東北の縄文文化は、サケマス文化であると云われました。一年の半分はサケ・マスが豊富にとれたから主食にして暮らすことができた。あとの半分は草の根・木の根・クリ・ドングリ・クルミでまかなっていたと主張されました。東北地方に土器製作が非常に発達したのも食糧の豊富なことが原因ではないかと力説されました。

サケの骨

ところが若い研究者の間から批判がでて、東北地方の貝塚からサケの骨は全然出ない。出ても僅かだ。サケが豊富だというなら特に貝塚の貝層の中から骨が沢山出てくるはずだといったのです。最近のように細かい篩にかけると細かい骨がいくらでもでてきます。

サケの骨は柔らかくて美味のため全部食べられるからなかなか残りにくいのです。

北海道から東北地方にかけて貝塚の土の中から例外なくサケの細かい骨が出てくることが知られています。山内先生のサケ・マス文化説は市民権を取り戻して非常に真理に近い考え方であると思います。特に2mmの目では落ちて、1mm位の目でなければ引っかからないという小さなサケの椎骨が出てきます。サケの骨をかみ砕いて捨てたという感じがします。

土偶の製作

■縄文文化の中から土偶の問題一つを取り上げて考えても、土偶の製作は縄文文化の中に突然現われたのではなく、土偶或いは人間の形を石や土で作るといふ縄文人の技術は、おそらく日本の2万年や3万年前に遡

る旧石器時代に根ざしていたのではないかと考えています。従って、縄文早期になって関東地方に土偶が現れるわけですが、旧石器時代にも石又は骨、将来発見されるかも知れない土で人間の形を作って、何かの意義をそれに与えて大切にするという伝統がずうっと続いていたと思います。

中空土偶

土器製作が1万2千年前に開始されて2千年後の1万年程前以降縄文文化が開始されます。土器製作にも非常に巧みな技術が使われ、土偶の製作も一つの技術として確立されて最後には東北地方の中空土偶の立派なものが生れるまでになります。

縄文土偶の由来

縄文土偶の由来は旧石器時代の生活の中にあっただと思います。従って縄文人の生活の基盤はおそらく日本に数万年前から続いていた旧石器時代人からの伝統に根づいていたというのが私の縄文土偶に関する考え方です。

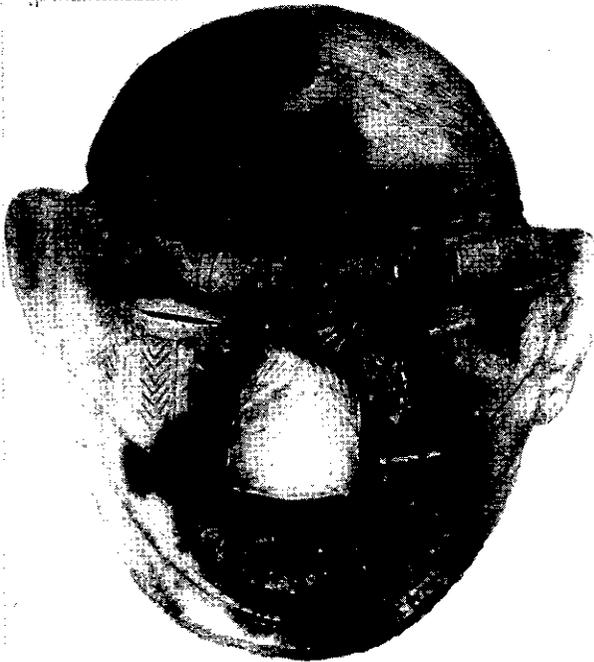
縄文土偶一つを取りあげても、縄文文化の由来発達について、少しづつ本当の姿が解き明かされつつあるのではないかと思います。

シベリアを旅行してシベリア最古の土器、1万2千年前の土器を実見することができました。

縄文文化の起源

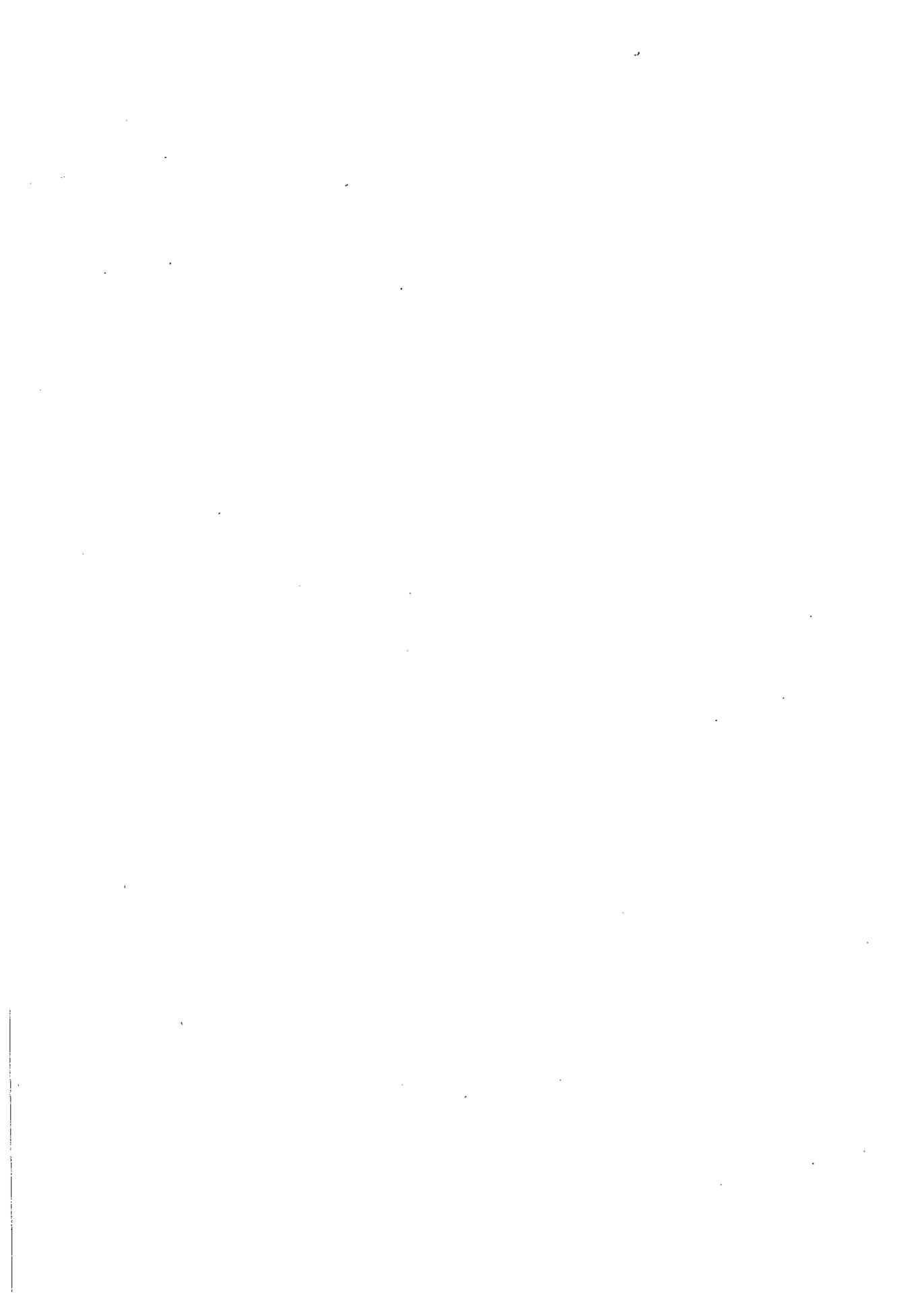
1万3千年から1万5千年前の土偶がシベリアで作られていたということは、縄文文化の起源を探る上で私にかなり大きな影響を与えるのではないかと感じています。

(昭和59年11月3日特別企画展記念講演会にて収録)



日本最大の土偶

盛岡市科内遺跡報告書(1982)より転載



年 報 VOL. 3

—昭和59年4月～昭和60年3月—

発行 昭和60年10月30日

編集 長野市立博物館
発行

長野市小島田町八幡原史跡公園内

☎ 0262 (84) 9 0 1 1

印刷 西沢印刷株式会社
